

337-9

44.1.23

女子
音樂教科書
教師用
卷之一

永井幸次
田中銀之助
共編

開成館藏版

大阪

44. 1. 23

緒 言

吾輩不肖の身を以て女子高等普通教育に従事すること多年。夙に其の天職なることを自覺し、日夜焦慮して斯道の進歩發達を謀らんとするや、既に久し。然るを如何せん。其の成績や、未だ吾輩をして満足せしむるに至らざりしを。茲に於て吾輩深く感ずる處あり。惟ふに學科の知識に關するは技術に關するを問はず。之を教授し傳達せんには必ず其の探るべき順序あり。此の順序を離れては、如何に優秀なる學藝を有する教育家も、乃至は如何に豊富なる經驗を有する教授者も、徒らに勞して其の實績を擧ぐるに能はざるなり。かるが故に他の教科に於ては、識者は夙に適當なる方案を樹て、順序を整頓し、系統を逐ひたる完全なる教科書を編纂し、之を教授の實際に用ひて、若々其の實を擧げつゝあるに非ずや。然るに我が音樂科に限り、著書としては僅かに數種の歌曲集なるものを散見するのみにして、未だ系統的教科書あるを見ず。一般に教育音樂がいつ迄も混沌たる状態に沈溺し、吾輩の期待せるが如き發達を遂げ得られざるは、蓋し偶然に非ざるなり。吾輩は深く之を遺憾とし、其の實際について研究し、經驗せしことを發表して、聊か諸賢の參考にもと欲し、討議推敲約五年、稿を改むること數回にして、漸く本書をなせり。書成つて之を見るに、尙意に満たざる點多々ありと雖、其の形式、内容、結構、主義、方針の大體に於ては、吾輩の經驗の生み出だせる理想を網羅したるものなり。以下順次其の用意の一般を録して、先輩諸賢の高覽に供し、併せて其の高見を承り、以て本書をして益々完全に近づかしめんことを、吾輩は切望して措かざる所なり。

本書の大綱

文部省令に則り、從來の教授上の缺陷を補ひ、實質的陶冶及形式的陶冶の實を擧げんことを期して編纂せり。即ち、理論と基本教練とを縦糸とし、歌曲を横糸として、易より難に簡より複に、順序を整へて、讀譜力を養成し、善良優佳なる歌曲を完全に歌はしめ、以て日常精神上に高尚なる慰安を與へ、進んで之を家庭に應用せしめんとせり。今其の特に意を用ひたる點を擧ぐれば次の如し。

第一順序 第二樂典 第三基本教練 第四樂曲 第五歌詞 第六伴奏(教師用)第七實際的教授要項及實驗教授法の例(教師用)第八歌詞解釋其他參考事項注意事項(教師用)等を網羅して學習者、教授者共に勞少なくして効多く。しかも確實ならんことを期せり。尙一步を進めて、從來教授者が最も困難を感じたりし點を指摘し、併せて吾輩が其の缺陷を補充すべく特に意を用ひたる次第を記さん。

第一 現下の方法では教材を順序に排列するの に困る。寧ろ不可能ではあるまいか。

學科の何たるを問はず、之が教授をなさんには、其の順序として易より難に、簡より複に移らざるべからざるは之れ動かすべからざる教授の原則にして、人々の常識に屬することなり。然るに音樂の教授は、別に頼るべき用書なきがために、數種の歌曲集を繕き、其の中より教材として適當なるものを選出し、僅かに順序を整へんとす。これ實に容易の業に非ずして、しかも其の結果や實に不完全極まるものたるを免れざるは、教授者の夙に知る處ならん。況んや適當に排列することを怠り、手當り次第に系統も順序もなき歌曲を教へんとするが如きは、これ教育家の深く戒めざるべからざる事なり。これ現下の教育界が系統的教科書の必要を告げたる所以の一なり。

吾輩は深く此の點に留意し、生徒技術進歩の程度、並に趣味發達の狀態に鑑みて、適當に之れを排列せり。尙、樂曲の選擇並に歌詞等については後に記すべし。

第二 生徒に樂譜を筆記させる事は一は時間 の點より一は間違の多き點より吾輩は大いに 困つたのである。

吾輩は實驗上、生徒に樂譜を筆記せしむるは甚だ無理なる事を悟れり。實際生徒にとりては此事たる頗る困難にして、徒らに貴重の時間を浪費するのみか、其の苦辛して筆記したる結果は、實に不整頓極まるものにして、而も彼等は自ら其の間違を發見して訂正するの能力を有せず、教師之を一々訂正すれば可ならんも、此の多事の身を以て到底なし得べき事に非ず。されば彼等は其の間違ひに氣付か

ずして、平氣に之を見て唱歌せり。實に憐れなるは生徒なり。斯かる弊に陥れる視唱法は全く無意味にして寧ろ専ら口授法によるに若かさるなり。斯かる方法にては實力殊に讀譜力の養成は決して望むべからざるなり。これ音樂教育に適當なる教科書の必要なる所以の二なり。

第三 然らば如何にすれば讀譜力の養成が 來るか。

元來讀譜力は經驗によりて上達するものなり。然れども多數の生徒が、不完全なる自己の筆記帳乃至は教師の塗板に記したる樂譜などを見て、幾ら反復合唱をなすども讀譜力養成の上に於てさしたる効果なし。例へば始めて新曲を教ふる場合の如き、多人數の合唱は其の階名を唱ふる點に於て、其の音程、拍子又は發想の點に於て、各自充分なる努力を費さずとも所謂モテアイにて相當に歌ひ得べし。さりどて常に各個の生徒を立たしめて、唱歌せしむるが如きは時間の許さざる處なり。況んや稍記憶したる樂曲に於ては到底其の隅々まで目を透して居らざるは、疑もなき事實なり。故にもし讀譜力養成の實を擧げんとすれば、須らく生徒をして努力せしむべし。其の方法として日常教授者が唱歌を教授する時に當り、細心の注意を拂ふべきは論なしと雖も、亦完全なる樂譜を記載せる教科書により、其の將に授けんとする曲につき豫め其の難所を指摘して、其の歌ひ方を示し、他はこれを豫習せしむるも亦其効果の大なるを信ず。而も其の豫習は必ずしも完全に歌ひ得る迄に非ざるも可なり。生徒は其の豫習によりて自ら階名を唱へ、自ら音程を考へ、自ら拍子を整頓する等、凡て自動的に研究を積むを以て此の間に養成する讀譜力、將た此の間に増進する實力は實に大なりと謂つべし。これ吾輩が後章に於て述べんとする吾輩主張の教授法に統合すべし。而してこれ整然たる教科書の必要を感ずる所以の三なり。

第四 諸賢は如何なる方法にて樂典を教授さ れたか。吾輩はこれには殆んど閉口したの である。

樂典を教授するに當り特別に僅かの時間を設け、樂典教科書を持たしめ恰も他學科の講義をなさんが如き方式をとるは、吾輩多年の經驗上、最も困難にして而も其の效能の最も薄弱なることを悟れり。殊に上級に於て之を課すどせんか、それ等の生徒が樂典上の知識を得ざる間に於ける唱歌教授に困難を來すべく、下級に於て之を課すどせんかそれ等の生徒は又理解に苦しむべし。況んや概して生徒は樂典に對する興味至つて薄く、寧ろ之を嫌厭するの傾向あるに於てをや。かゝるが故に教授者は、よし其の困難を排して之が教授を斷行するも、彼等は之を腦裡に印象すること至つて少なし。これを思へば普通教育に於ける科學としての樂典教授は、寧ろ徒勞に屬するが如き感あり。少くも其の得策に非ざることを信じて疑はざるなり。茲に於て吾輩は其の難易の順序によりて排列せる歌曲に、悉く樂典上の事項を含め、歌曲を謠ひては、樂典上の知識を收得し、收得しては之を應用して歌曲を謠ひ以て不知不識の間に樂典に關する一般の知識を得しめ、卷末には、其の學年に於て收得したる樂典上の事項を、分類して系統を立てたる樂典總括なるものを記載して、一層生徒の思想を整頓し、觀念を確實にせんことを計り、以て歸納的教授の方法をとれり。茲に於て從來教授者が焦心せし樂典教授の困難を一掃したり。而してこれ用意周到なる教科書の必要を告げたる所以の四なり。

尙本書生徒用に載する所の樂曲上の諸記號には、其の記號と其の名稱のみを記載するに止め、其の他の事項も悉く之を表的形式を以て記載し、其の説明並に解釋の如きは出來得る限り之を避けたるは吾輩の意を須ひたる點にして、それには三つの理由あり。

1. 教師用には其の説明の順序方法等について、吾輩の研究し實驗せし通りを、詳細に記載し置けり。然れども教授者の意見により、吾輩の説く所よりも、一層完全なる方法によりて、説明さるゝ場合なきに非ざれば、其の説明の方法は教授者の任意にせんとせしなり。
2. 文句を記して説明するは其の記事煩雜に流れ易く、且つ動もすれば生徒をして其の記事に依頼せしめ、却つて教授上困難を感ずる事あり。加之、教授者が文字について説明をなさんよりも、表を示し言語によりて説明する方遙かに理解

し易く、生徒は表(又は圖解)を見つ、教師の説明を聞くにより、概括的觀念を印象するに便にして、従つて忘却することも少なし。

3. 卷末に於て之を總括し、最も簡短に其の大意を説明せしを以てなり。

第五 基本教練は唱歌教授上最も必要の條件であるが、吾輩は兎角お留守になり易くて困つた。其の方法についても頗る迷うたのである。

一. 呼吸練習及發聲練習=については、生徒用には單に姿勢圖、口形圖并に一二の發聲練習曲を示したるのみにして、其の方法順序等は教授者の説明に待たざるべからず。此の方法については歐米の書を調べたる事項、及吾輩の實際に研究せし事項等を悉く記載して、教授者の參考に供したり。

二. 音階練習=先づ準備の練習曲(第一練習より「雲のいろ」まで)を授け、然る後音階に移る方法をとれり。而して音階練習曲は生徒發達の程度に鑑み、其の形を多様に變更して各學年に配當せり。

「因に言はん」

準備の練習曲は、生徒が從來小學校に於て學習したる唱歌を不完全なるものと假定(?)し、女學校に入りて根本的に唱歌を築造せん考へより出でたるにて、其の各練習曲に新たに現はれたる音の音程、并に其の譜表上の位置等を確實に會得せしめ、併せて各符音に對する時間の觀念を明確ならしめんがために、同じ曲の音符を種々なる他の音符に變更して、其の時間を比較對照せしむる方法をとれり。世上或はかゝる方法を以て興味を没却するものと思惟し、之を排斥するものなきにしも非ず。されど之は杞憂に屬する事柄にて、吾輩の經驗上決してさるものに非ず。要は教授の巧拙にあり。加之、完全なる唱歌教授をなさんには、始めに當つて、必ず此の階段を踏まざるべからざればなり。

三. 音程練習=音階練習を始め得るに至りて、特別に音程練習曲を教授すること

どせり。然れども數多の練習曲を記載せざる理由は吾輩に一の主義の存するあり。元來普通教育に於ける音程練習の目的は、普通の歌曲を唱ふる際、其の音程を正確に表出するに至らしむるにあり。故に毎時間教授する歌曲について、之を訂正し、反覆練習せしむるも之れ音程練習の一なり。其の上尙足らざる點を補はんがために、特別に設けたる練習曲を挿入せしなり。故に、多數の練習曲を挿入する必要を認めず。要は之を反覆して以て普通の音程を生徒の耳朶并に咽喉に確實に形成するにあり。然るに往々にして音程教科書(コーリュブングデン)を持たしめて之れが練習をなし、生徒の進歩の鈍さを嘆ずるものさへあり。迂濶の方法と言はざるべけんや。其の他の諸練習は概ね歌曲について之をなし、其の方法等は悉く教師用に記載せり。茲に於て教師は決して迷ふ事なく着々其の歩を進め得るなり。これ完全なる教科書の必要を訴へたる所以の五なり。

第六 樂曲の選擇は最も慎重にせねばならぬ、 恰も人に食物の選擇が必要なのと同じである。 近來は邦人メロデーが續々出るが何れもこるに足りないのは遺憾な次第である。

樂曲の選擇は、實に我國音樂の將來の發達進歩に多大の關係を有するを以て、決して輕々に選曲すべからざることは敢て多言を要せざるべし。

本書には邦人の作曲を載せざりし事について或は多少の議論あらんも、元來、吾輩の見る處によれば、現今邦人のなせる作曲否メロデーは、概して駄作探るに足らざるもの多し。少くも歐米人の作曲に比すべくも非ざるを如何せん。吾輩が邦人の作曲を續々採用せんは、遠き將來の事に屬す。

惟ふに我國現下の音樂は所謂過渡の時代なり。研究の時代なり。されば將來に於て善良なる國風ナショナルエアーを生ましむべく、國民に高尚優佳なる趣味を與へんこと吾人目下の急務ならずや。世人動もすれば自ら大家振りて、徒らに駄作を弄し、其の將來を誤らんとするが如き不謹慎の舉に出づるは、斯道のため嘆はしき至りなり。

吾輩以前より寫し集めたる名曲數百、數年前より參考として、歐米の女子教育に使用せる唱歌集を集めたること其の數七十餘種、これ等の中より其の粹を抜き、我國の人情に適切なる曲を選定して本書の教材とせり。而して吾輩の選曲に當つて意を用ひたる點は次の如し。

1. 旋律の工合果して我國人情に適切なりや否や。
2. 和聲の工合如何。
3. 其の趣味一方に偏せざるか。
4. 國民將來の趣味に鑑みても其の曲が果して適當なりや否や。
5. 形式的陶冶及實質的陶冶をなす上に於て間然する處なきか。
6. 樂曲に合まる、音程、拍子、調子と生徒の能力との權衡如何。
7. 樂曲の音域と生徒の聲域との關係。
8. 生徒の程度と樂曲趣味の程度。
9. 樂曲と樂典との關係。
10. 樂曲と基本教練との關係。

以上の見地よりして一曲毎に研究し、或時は一曲のために一晝夜討議せしも尙決せざる事さへありき。かくして四百八十餘曲を選出し、其の中より更に精選し、順序を整へ三たび精選して其の數を減じ、同一程度のものより更に其の粹を抜き、本書に載することとせり。而して之れ等を實際の教授時間に配當するときは、其の曲數は尙多きに失するが如し。されど其の多きは教授者が適宜に取捨するに便なるを信すればなり。

「因に」かくして精選したる殘餘に尙優良なる曲頗る多ければ、之れ等は教授者の參考のため追て發表せんと欲す。

第七 歌詞と曲との調和を計ることが肝要。

尙女子には特別の歌想を要求する場合が少なくない。吾輩はこれ等の點に最も苦辛したのである。

これをなすに當つて、先づ各國國語に精通せる人に依頼して原歌の意味をとり、或は其の曲の趣味を考へ、而して我邦の人情風俗に適合し、併せて女子教育に適切なる歌題を選び、斯道に経験深くして老練の聞えある一柳安次郎、鳥居沈、大和田建樹、大森いよ子、武島又次郎、塚本樂山、中村秋香、中村春次、山口重樹、前田純孝、犬童珠溪、佐々木信綱(イロハ順)の十二氏に依頼し、曲想と歌想との一致を計り、諸氏に向つて種々なる難題を提出し、其の訂正を請ひ再考を煩はしたるごと、實に一再ならざりき。然れどもこれ等の諸氏は、夙に吾輩の此事業に對し少からざる同情を以て迎へられ、無理なる注文をも敢て却けらるゝ事なく、一々吾輩の意の通りに作歌されたり。本書が吾輩の理想の通りに完成したるは、實に以上の諸氏の深き同情の致す處、茲に作歌者諸氏に向ひ、満腔の謝意を表せずんばあらず。

第八 唱歌教授又は練習の際、單音唱歌にありては其のメロデーのみ、重音唱歌にありては其の各部をのみ伴奏するが如きは、時代後れの方法で現下音楽教授上の一大缺陷である。教授者は速かに之を改め時勢に後れざる方法をこらねばならぬ。

西洋樂が日本樂に比して優れたる點は甚だ多し。殊に日本樂には和聲のなきに對し西洋樂には完全なる和聲のあるは、其の主要なる點なりとす。故に日本人は種種の事情よりして和聲の趣味を解するに苦しむべし。將來の教育音楽は深く此の點に留意し、學習者をして、宜しく此の趣味を理解せしめんことに力むべきなり。然り尤も級の進むに従ひ、漸次重音唱歌に移りて之が趣味を鼓吹する機會ありと雖も、これにては決して満足すべきものに非ず。須らく初年級より絶えず和聲的伴奏を奏し、以て不知不識の間に趣味の向上を計らざるべからず。况んや樂曲の趣味を發揮し、發想を自在ならしめんにかゝる幼稚の方法をとりては到底不可能なることを思へば、これにつきて毫も異議を容るゝの餘地なかるべし。

吾輩は上述の見地より、本書教師用には單音複音を問はず音程、音階發聲練習に至るまで、悉く伴奏を附したり、而して其の伴奏曲をも精選し、生徒の程度に應じて適切なるものをとれり。教師は格別の練習を要せずして彈奏するを得、而も其の調和の宜しき其の變化に富めるものを選べり。尙オルガンにて教授する人の爲には別にオルガン伴奏をも記載しおけり。

第九 歌詞の解釋に苦しむ事はないとしても、作歌者の意を誤解する事は往々ある。

教師用には凡ての歌詞に解釋を附したり。其の形式は語釋と大意とに分てり。尙語釋には語原を附したれども、之は教師の參考に供したるにて、生徒に教授するの要なし。大意は生徒に説明する際、簡明に發表するに便ならしめんがためなり。

第十 從來こり來りし範唱式(注入的)教授法は最早陳腐に屬した。こんな方法では到底實力の養成が出来ぬ。

吾輩が前にも主張せる如く、今後女子教育の音楽科に於ては、單に唱歌をオポエサセルとか上手にウタハセルを以て決して能事終れるものに非ず。其の實力を養成するは勿論、進んで其の應用の才を養はんことを期せざるべからず。現下の如き最初より一も範唱、二も範唱と所謂鸚鵡的教授法によりて養成されたる生徒は、其の教はりたる歌曲を僅かに擬似するを知れども、一朝新曲を課さんか、譜の讀めざるは勿論、音程、拍子到底物にならざるなり。これ教授者が常に注入式教授法をとり、生徒の自働力を利用せざりし結果、彼等の實力が大いに缺如せるによるなり。實力養成の側より見たる吾輩の主張せる教授法は曩に注入式の語を籍りたるに對し開發的教授法と稱するを適當なりと信ず。本書教師用には吾輩が本書の歌曲を教授するに當り、其の執りたる順序方法の實地に經驗したるまゝを、曲毎に記し、尙教授上の參考事項、注意事項などを記しおけり。

第十一 生徒に教科書を用ひさせてもそれ一冊きりては物足りないから、別に筆記帳を持たせねばならぬか。否々。

生徒用教師用何れも各巻末に適當なる五線紙を添へたり。其の生徒用に之を添へたる理由は、教授者は臨時に歌曲を筆記せしむべき必要なしにも非ず。又時としては寫譜の練習並に宿題の答案に用ひても可なればなり。其の教師用に之を添へたる理由は、各學年に適切なる教材を得たる時、並に各巻にある教材にして、それと異りたる伴奏を發見せし際の如き、直ちに筆記するに便なればなり。

吾輩はかくして其の時勢に鑑み、現下音樂教育上の缺陷を片づ端から研究して一は其の缺陷を補ひ、進んで我國音樂の將來に一大刷新を加へんことを理想として劃策し、茲に愉快なる結果を收めたり。而して昨春本書第一巻を發表するや、斯道先輩學友にして懇切に、其の訂正を要する個所、及其の缺點を指摘して、注意を與へられたる畏友少なからず。茲に於て吾輩は再び研究を積み、第一巻第二巻に大訂正を斷行し、尋いで第三巻第四巻第五巻を修正増補してこの結果を得るに至りたるは、深く感謝する處なり。希くは向後益々本書に對し充分の御批評あらんことを。

明治四十三年十一月

永井幸次

田中銀之助

識す

女子音樂教科書 教師用卷の一目次

第一學期

✓階名・音名	一
音符(其ノ一)	三
音符(其ノ二)	四
休止符	五
✓譜表・加線	六
✓音部記號	七
✓縦線・拍子	八
姿勢圖	一〇
姿勢	一一
呼吸法	一二
呼吸練習法	一三
口形圖	一四
口形	一四
聲色	一六
聲域	一七
第一練習曲(Do. Re)	一八
第二練習曲(Do. Re. Mi)	二一
第三練習曲(Do. Re. Mi. Fa.)	二三
第四練習曲(Do. Re. Mi. Fa. Sol)	二五
第五練習曲(Do. Re. Mi. Fa. Sol. La)	二七
拍子ヲ教授スル實例	二九
雲のいろ(Do. Re. Mi. Fa. Sol. La. Si. Do ¹)	三〇
長音階及全音程・半音程	三三
延長記號・結合線	三三
音階練習A	三四

音階練習B	三八
音階參考曲	三八
發聲練習ニ就テ	三九
發聲練習	四〇
音程練習(二度音程)	四二
わが身の幸	四六
曉起	四九
小節	四九
螢狩	五二
發想記號(其ノ一)	五三
夏やすみ	五六

第二學期

音階練習	五九
二度音程	五九
音程練習(二度音程)	六〇
我が教室	六二
反覆記號	六三
太平の御代	六五
音階練習	六八
三度音程	七〇
音程練習(三度音程)	七一
母音發聲練習表	七四
里祭	七五
臨時記號(其ノ一)	七八
夕映	八〇
省略記號	八一

富士山	八三
轉調	八五
ト調音階構成 調子記號(ト調)	八六
花賣女	八八
谷間の流	九一
發想記號(其ノ二)	九三
子守歌	九四
六つの花	九六
發想記號(其ノ三)	九七
秋の宮	九八
連結線	九九

第三學期

臨時記號(其ノ二)	一〇〇
ヘ調音階構成 調子記號(ヘ調)	一〇〇
日曜日	一〇二
梅	一〇四
愛國	一〇七
送別の歌	一〇九
のどけき春	一一一

樂典總括	一一三
------	-----

以上

女子音樂教科書

教師用第一卷

階名音名

一. 高キ或ハ低キ、長キ或ハ短キ種々ノ音カ一定ノ規則ニヨリテ排列サレ、吾人ノ耳ニ快感ヲ與フルモノトシテ音楽トイフ。

二. 其高キ或ハ低キ、長キ或ハ短キ種々ナル音ヲ可視的ニ表ハス符號ニテ諸子ノ從來學習セシハ如何ナルモノナリシカ。且ツ之ヲ如何ナル語ヲ以テ唱ヘシカ。

前ナル問ニ對シテハ略譜又ハ本譜ナル答ヲ求メ、後ナル問ニ對シテハヒ・

フ・ミ又ハド・レ・ミナル答ヲ求ム。

此發問ニ對スル答ハ始メテ高等女學校程度第一學年ニ唱歌ヲ授ケントスルモノノ豫メ知ラザルベカラザル要件ナリ。而シテ之レニ對スル生徒ノ答ハ

1. 2. 3.....Do. Re. Mi.....ノ二種 (往々ニシテ略譜ヲド・レ・ミト讀ミ、本譜ヲヒ・フ・ミト唱ヘシモノモアラン)ニ出ヅルナラン。然レドモ教授者ハ

先ツ標準ヲ前者、即從來略譜ノミヲ以テ唱歌セシモノニトラザルベカラズ。以下順次述ブル處ニヨリ、音符上ノ一般概念ヲ與ヘントス。

三. 然リ。唱歌ノ譜ヲ唱フルニ諸子ガ持テル教科書ノ第一頁ニ示セルガ如クニ様ノ方法アリ。

ヒ	フ	ミ	ソ	ラ	シ	ド
1	2	3	4	5	6	7
Do	Re	Mi	Fa	Sol	La	Si

小學校ニ於テ學ビタル儘ヲ一度試ミニ生徒ニ唱ハシメテ生徒ノ發聲ノ具合ヲ概テ推知スルコトヲ得、教授ノ方針ヲ立ツルニ參考トナスコトヲ得ベシ。

四. 之ヲ階名トイフ。

五. 音樂上ニ用フル音聲ニ七種アリ。(恰モ色素ニ赤・橙・黄・綠・青・藍・紫ノ七色ア

階名音名

(生徒用)

ルガ如ク) 其七種ノ音聲、ソレゾレニ亦固有ノ名稱アリ。[イロハ] 歌ノ首句七文字、即チイ・ロ・ハ・ニ・ホ・ヘ・トヲ以テ之レニ充ツ。而シテ其順序ハ階名ノ下ニ記シタルゴトク排列ス。

ハニホヘトイロハ

六、之ヲ音名トイフ。

[参考]

欧米ニテ普通用フル音名ハ次ノ如シ。即「アルベット」二十六文字ノ首字ヲ次ノ如ク排列ス。

C	D	E	F	G	A	B	C英・米
C	D	E	F	G	A	H	C獨逸

[注意]

- (一) 數字階名、Do、Re、Mi、階名、其何レヲ採用センハ教授者ノ任意トス。
- (二) 初歩ノ生徒ハ動モスレバ階名ト音名トヲ混同セントス。教授者ハ殊ニ此點ニ注意スベキナリ。
- (三) 音名ハ日本音名(イ・ロ・ハ)ニ依ルヲ可ト信ズルガ故ニ本書生徒用ニハソレヲ記載セリ。モシ英、獨逸ノ音名ヲモ教授セントナラバ生徒用日本音名ノ下ニ之ヲ記入セシムベシ。

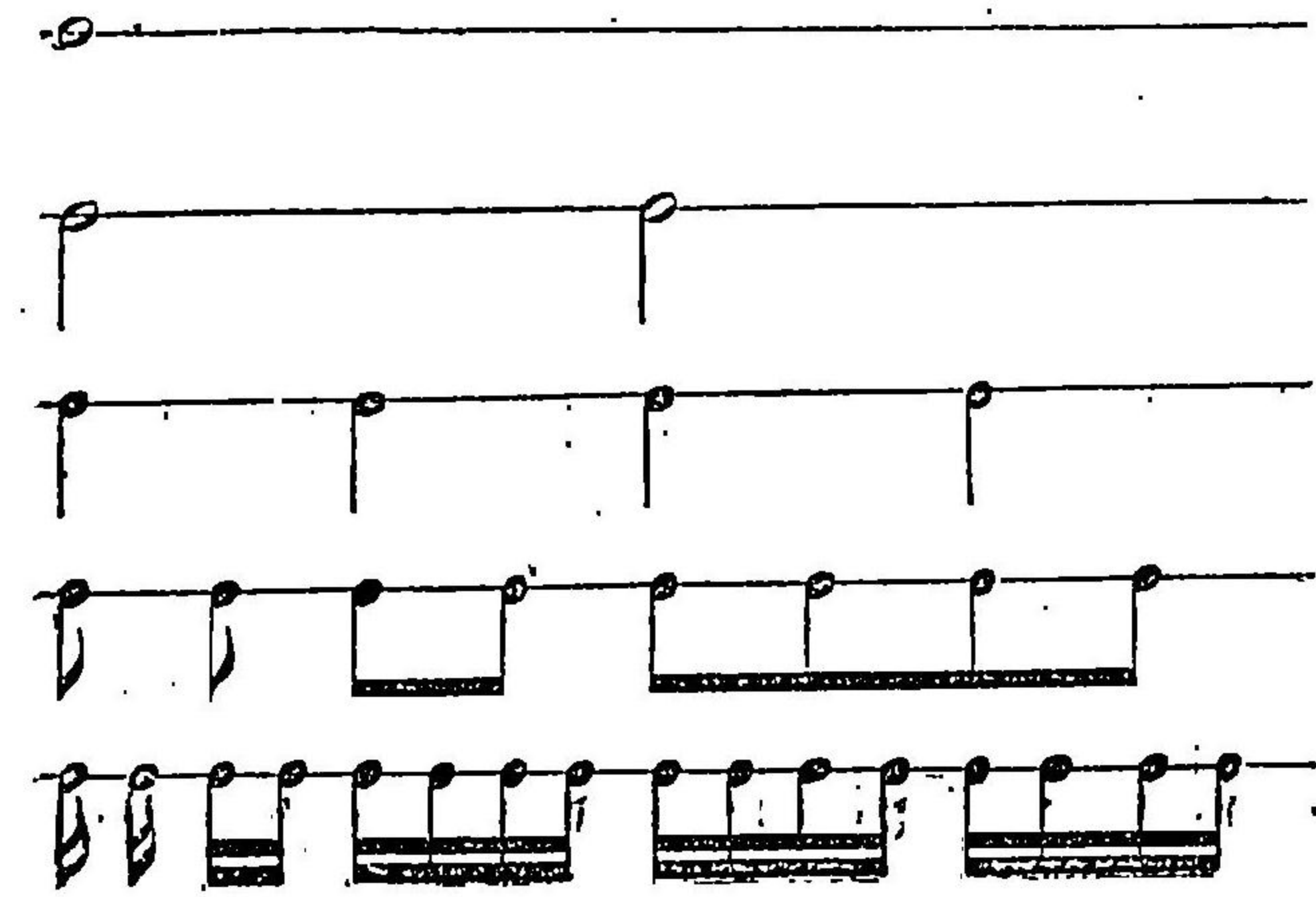
音 符 (其ノ一)

- 一、音符ヲ説明スルニ先チ、教授者ハ次ノ如キ方法ニヨリ、歸納的ニ之レガ概念ヲ與フベシ。
- 二、教師先ヅ左手ノ掌ヲ、右手ノ食指ニテ下拍、上拍ヲ一打チニ數ヘツ、「ラー」ニテ唱フ。
 1. 最初ハ全音符ノ長ツヲ唱ヘテ生徒ニ發問スルコト次ノ如シ。
[發問] 余ハ「ラー」ノ音ヲ幾ツ打ツ間保チシカ。(四ツナル答ヲ求ム)
 2. 次ニ二分音符二個ヲ「ラー、ラー」ニテ唱ヘ、發問スルコト前ニ準ズベシ。
 3. 次ニ「ラ、ラ、ラ、ラ」ト四分音符四個ヲ唱ヘテ發問。
 4. 次ニ下拍、上拍ニツイテ各々一個ヅツ「ラー」ヲ唱フ。即四打ニ八個ノ「ラー」ヲ唱ヘテ發問スルコト前ニ準ズベシ。
- 三、カクノ如キ、音聲ノ長短ヲ表示スル記號ヲ音符トイヒ、普通音符ト附點音符トノ二種類ニ分ツ。而シテ諸子ノ本ノ第二頁ニ示セルハ普通音符ニシテ、五種ノ形狀アリ。

普通音符

音符ノ名稱	全音符	二分音符	四分音符	八分音符	十六分音符
音符ノ形狀					
音符ノ時間	四拍	二拍	一拍	一拍ノ1/2	一拍ノ1/4

- 四、音符ノ形狀及名稱、歷時ナドヲ了解セシ後、次(生徒用第二頁)ノ題ニヨリ實際ニツイテ練習セシム。此際生徒ヲシテ左手ノ掌ヲ右手ノ食指ニテ打チ、其拍子ヲ計ヘツ、「ラー」ニ唱ヘシム。但シ教授者ハ始メニ其ノ調子(ト音、ヘ音或ハイ音ノ高サニテ)及ビ速度(四拍子ニテ緩徐ニ)ヲ示スベシ。



〔注意〕

- (一)此ノ練習ナナストキハ、教授者ハイチ、ニイ、サン、シイ、イチト、ニト、サント、シト。或ハイチトオ、ニイトオ、サントオ、シイトオ。ナドヲ唱ヘテ拍數ヲ明確ナラシムベシ。又生徒ヲ二分シテ、一部ニ發聲セシムルト同時ニ、他ノ一部ニハ拍數ヲ唱ヘシム。而シテ此際兩部トモ拍子ヲ打タシム。
- (二)拍子ヲ打タシムルトキ、右手ノ食指ノ外ハ用フベカラズ。
- (三)拍子ヲ打チ數フルトキ、臂ヲ動カサズシテ右手ノ食指ノ指端ハ必ズ一定ノ高サ迄打チ上ケシメシコトヲ要ス。斯ノ如クシテ全級生徒ヲ整然タラシメシコトモ肝要ナリトス。
- (四)食指ノ上下ハ正確ニセシムベシ。

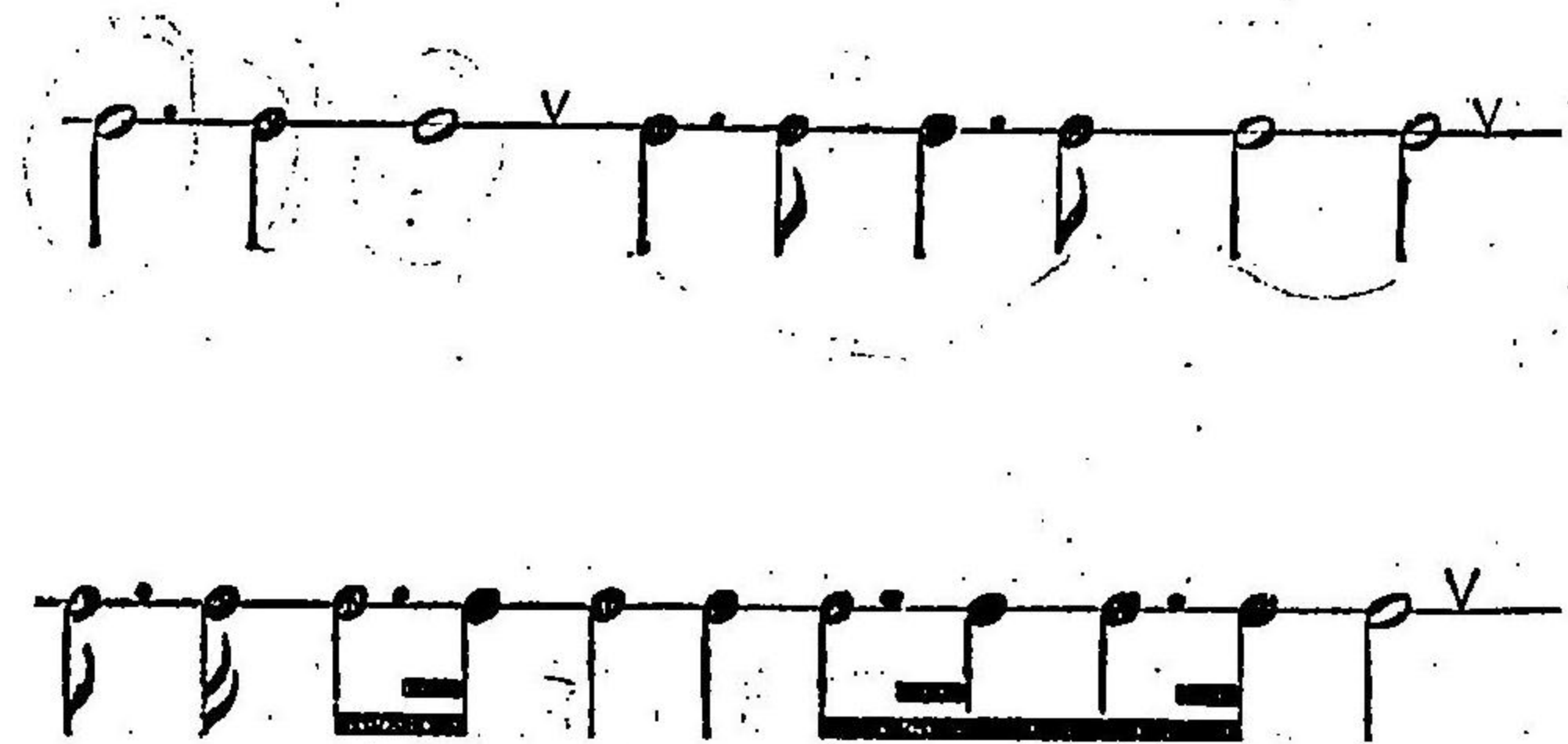
音符 (其ノ二)

五. 以上述べ來リタル普通音符ノ右側ニ點ヲ附シタル音符ハ之レヲ附點音符トイフ。而シテ其ノ歷時ハ、一點ヲ附シタルガタメニ其音符ノ半分時間ヲ増サルルモノトス。諸子ノ本第三頁ニハ其名稱形狀并ニ歷時ナドヲ示セリ。

附點音符

音符ノ名稱	附點全符	附點二分符	附點四分符	附點八分符
音符ノ形狀	o.	p.	r.	s.
音符ノ時間	o + p	p + r	r + s	s + t
	六拍	三拍	一拍ト半	一拍ノ半

六. 次ノ音符ヲ塗板ニ書キ、其拍數ヲ言ハシメ、以テ附點音符ノ歷時ニ關スル觀念ヲ正確ナラシム。



休止符

一. 聲音ノ黙止ヲ表示スル記號ヲ休止符(一名黙符)トイフ。諸子ノ本第三頁ニハソノレガ形狀、名稱並ニ歷時等ヲ示セリ。

〔注意〕 休止符ノ名稱ヲ黙符ト改稱スルモノアリ。其ノ理由ヲ聞クニ休止符ハ聲音ヲ殊更ニ休止マルニアラズシテ自然ニ聲ノ絶ユル場合ヲ表示スルモノナレバ黙符ト改ムルヲ適當ナリト云フ。然レドモ休止符ナル名稱ハ英語ノ Rest ヲ譯シテ先置カテ該ノ末ニ定メタル名稱ニシテ其ノ名稱ガ其ノ意味ヲ充分ニ盡サズトモ無暗ニ改稱スルコトハ慎マザルベカラズ況ンヤ黙符ト改稱スルトモ尙其ノ眞意ヲ表示スルコトヲ得ザルニ於テナシ。

休止符

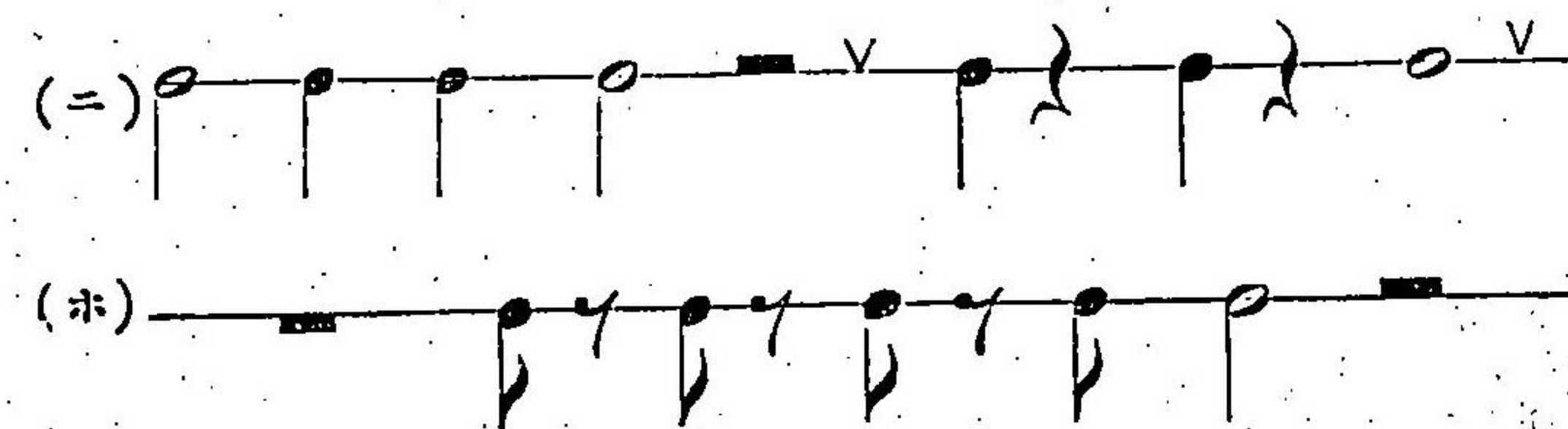
休止符ノ名稱	全休止符	二分符	四分符	八分符	十六分符
休止符ノ形狀	—	—	{或ハ}	γ	δ
休止符ノ時間	四拍	二拍	一拍	一拍ノ半	一拍ノ四分
音符トノ比較	o	p	r	s	t

〔備考〕 上來述べ來リシ附點音符ノ外ニ尙ホ複附點音符。休止符ノ外ニ附點休止符、複附點休止符ナドアレドモ、實際用フル場合少ナクシテ、必要ニ照シテ説明スルコトヲシテ、茲ニハ之ヲ省略セリ。

二. 休止符ニ關スル觀念ヲ正確ナラシメシメガタメ、次ノ題ヲ塗板ニ書キ其ノ歷時ヲ答ヘシム。

- (イ) o — p γ
- (ロ) p γ p γ p γ
- (ハ) p p γ p —

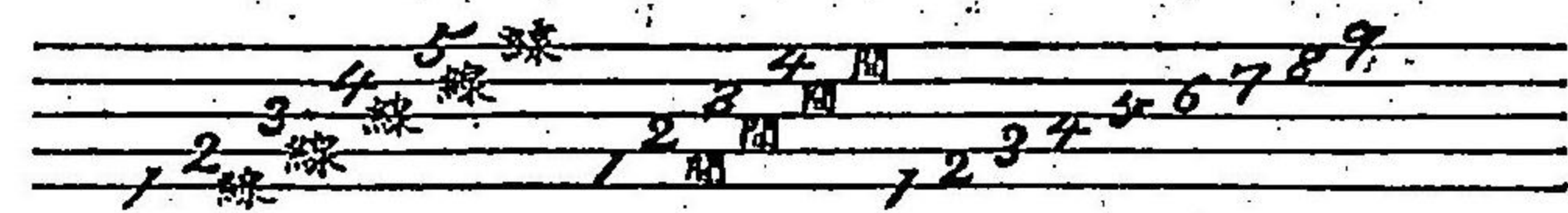
三. 尙次ノ練習題ヲ塗板ニ書キ、拍節シツ、「ラー」ニテ唱ヘシム。



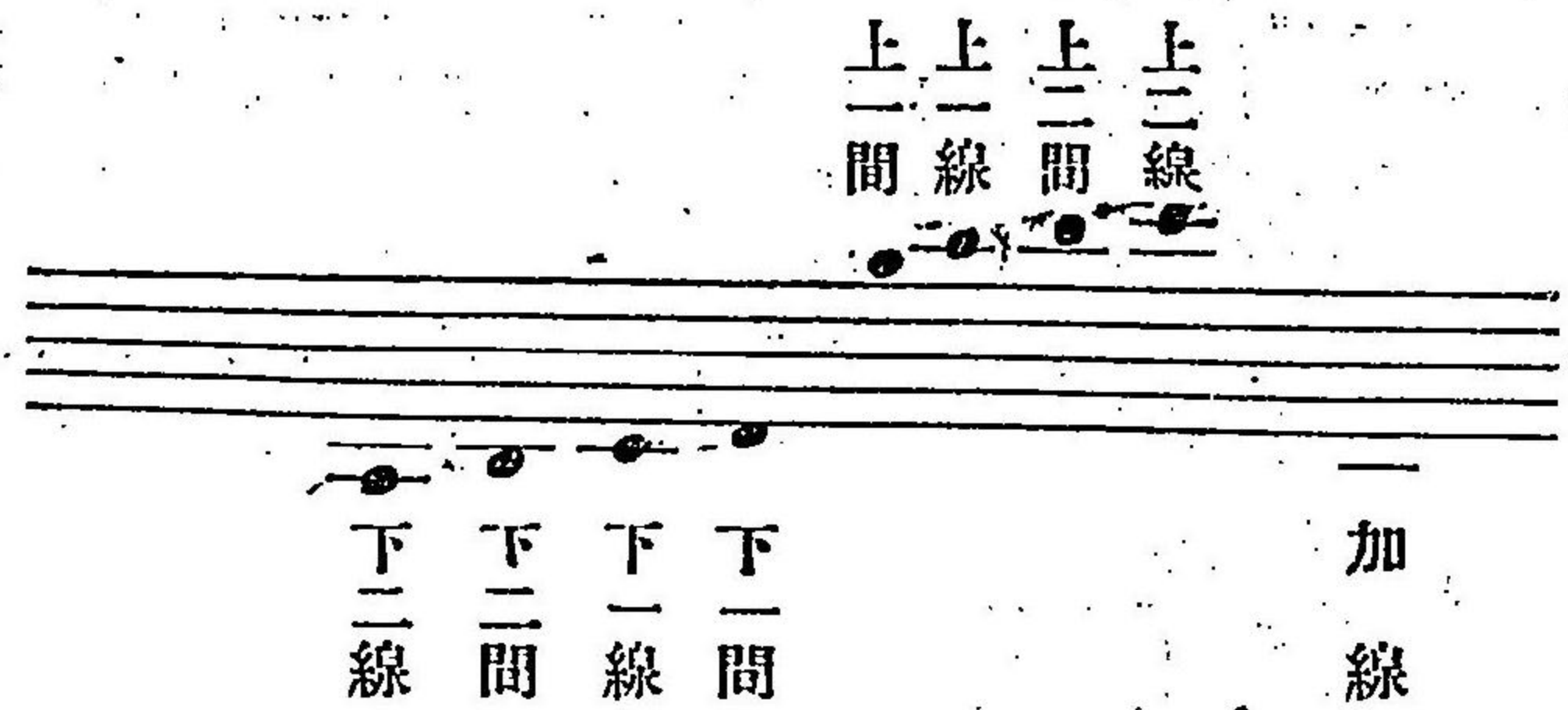
譜表附加線

譜表附加線

一、音ノ高低ヲ表スニハ、五本ノ並行線ヲ用ユ。(諸子ノ本第四頁ニ示セルガ如ク)之ヲ譜表トイフ。



二、譜表ハ線及間、共ニ之ヲ用ヒ、下ヨリ上ニ數ヘテ九度ノ位置ヲ有ス。而シテ其位置ノ名稱ハ、第一線、第二、第三、第四、第五線及第一間、第二、第三、第四間トス。尙此譜表ノ上下ニ位置ヲ要スルトキハ、短線ヲ記シテ順次ニ線ト間トヲ増設スルコトヲ得。此短線ヲ名ケテ加線トイフ。(諸子ノ本第四頁ニ示セルガ如シ)

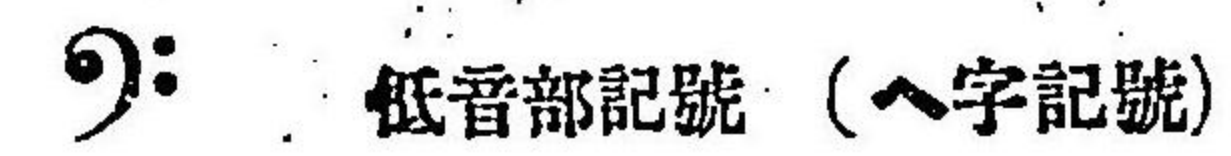
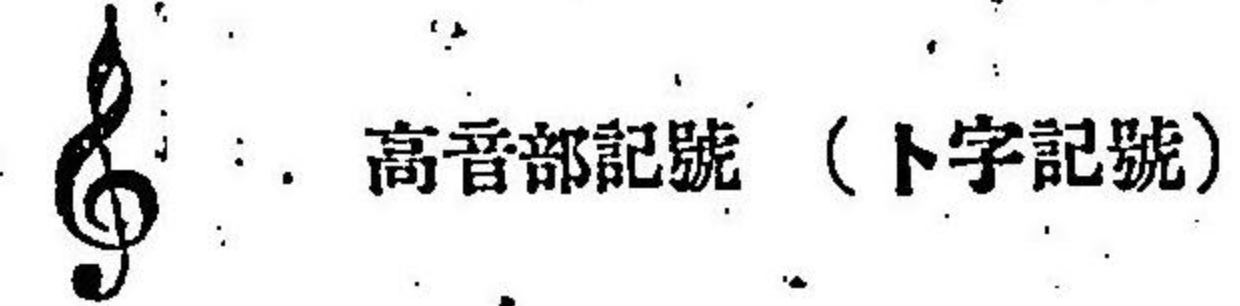


三、譜表外ノ位置ノ名稱ハ、譜表ヲ中心トシテ、上ナルモノハ下ヨリ上方ニ數ヘ、譜表ノ下ノモノハ上ヨリ下方ニ數フ。故ニ此圖ノ如クシテ其位置ノ名稱トナスナリ。

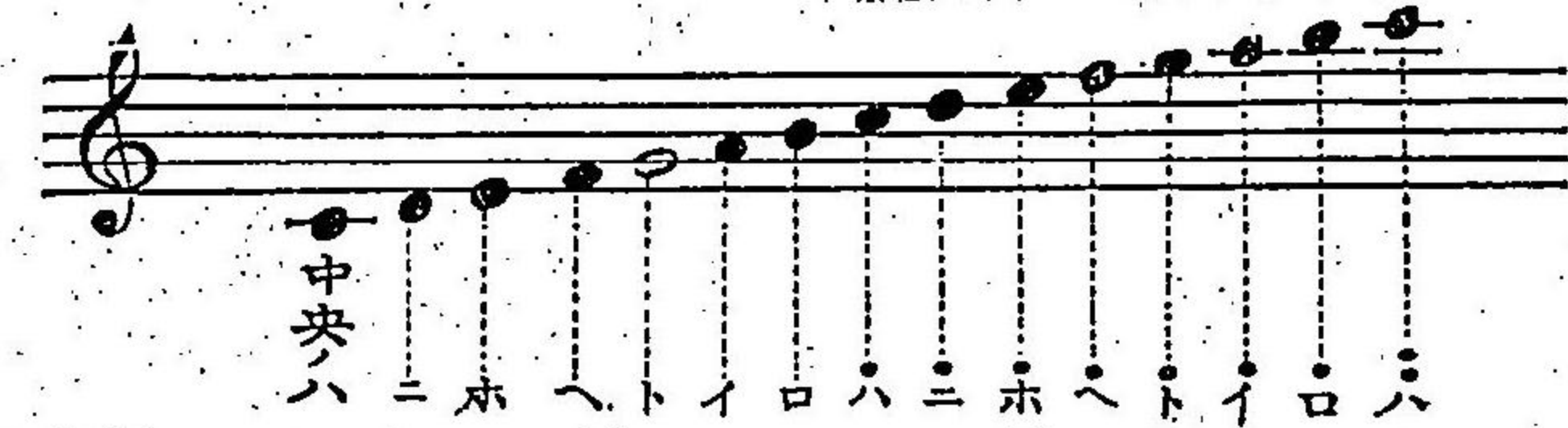
六(生徒用四)

音部記號

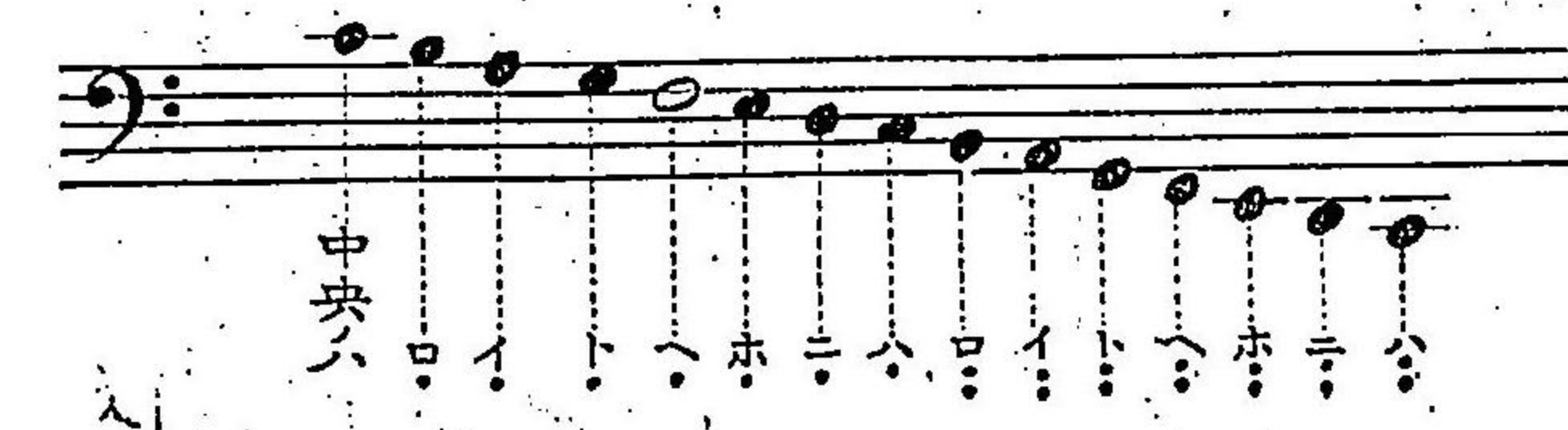
一、譜表上ニ七音ノ位置ヲ定メンガクメニ、譜表ノ首ニ、次ニ示セルガ如キ(生徒用第五頁)記號ヲ附記ス。之ヲ音部記號トイフ。



二、高音部記號ヲ附記シタル譜表ハ之ヲ高音部譜表トイヒ、低音部記號ヲ附記シタル譜表ハ之ヲ低音部譜表トイフ。
三、高音部記號ヲ一名ト字記號ト稱スル所以ハ、此記號、音名ト音ノ位置ヲ示スモノナレバナリ。高音部譜表ニテト音ノ位置(第二線)定マリタレバ、從ツテ他ノ諸音ヲ、其ノ上下ニ配記スルコトヲ得。



四、低音部記號ヲ、一名ヘ字記號ト稱スル所以ハ、此ノ記號、音名ヘ音ノ位置ヲ示スモノナレバナリ。



五、縦線ト括弧トヲ以テ、高音部、低音部兩譜表ヲ連合シタルモノヲ大譜表トイフ。次ノ如シ。

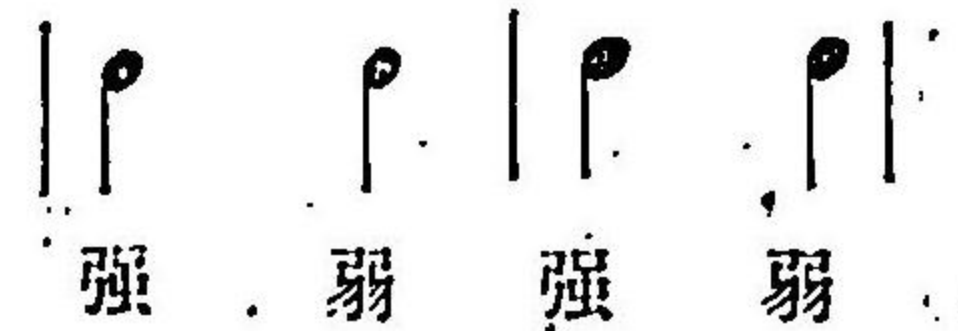


音部記號

七(生徒用五)

縦線拍子

一. 先ツ教授者ハ「ラー」ニテ. 次ノ音符ニ充分ナル強弱ヲ現ハシテ唱ヒ而ル後次ノ發問ヲナス。



〔發問〕 余ガ今唱ヘシ音ヲ如何ニ感ゼシカ。

〔答〕 強聲. 弱聲. 強聲. 弱聲.

- 二. 然リ斯ノ如ク樂曲中ノ聲音ノ強弱ヲ區別センガ爲メニ. 縦線ヲ以テ等一ナル拍數ノ小部分ニ區劃ス。コノ小部分ヲ名ケテ小節トイフ。
- 三. 縦線ニハ單複ノ二種アリテ. 其ノ用ハ同一ナルドモ. 複縦線ハ樂曲ノ段落又ハ結尾ニ記スモノトス。而シテ單縦線ハ普通之ヲ縦線トイフ。



四. 此ノ縦線ノ右ハ常ニ強聲ニシテ. 左ハ常ニ弱聲ナリ。斯ク樂曲中ノ強弱ノ部分ヲ定メタルモノヲ拍子ト云フ。(各自教科書ノ第六頁ヲ見ヨ)

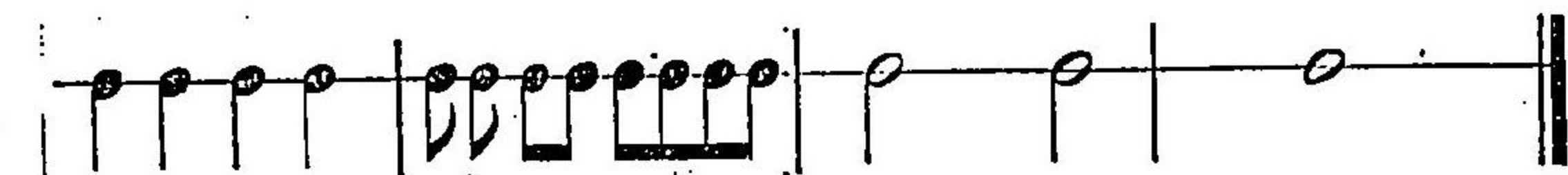
拍子ノ種類	拍子記號	拍子ノ強弱
二拍子	$\frac{2}{4}$ $\frac{2}{2}$ 或ハ C	1 強 2 弱
四拍子	$\frac{4}{8}$ $\frac{4}{4}$ 或ハ C	1 強 2 弱 3 中強 4 弱
三拍子	$\frac{3}{8}$ $\frac{3}{4}$ $\frac{3}{2}$	1 強 2 弱 3 弱
六拍子	$\frac{6}{8}$ $\frac{6}{4}$	1 2 3 4 5 6 強弱弱中強弱弱

五. 今此ノ表ニ就テ説明センニ. 拍子ノ種類ヲ分テテ
二拍子. 四拍子. 三拍子. 六拍子
ノ四種トス。

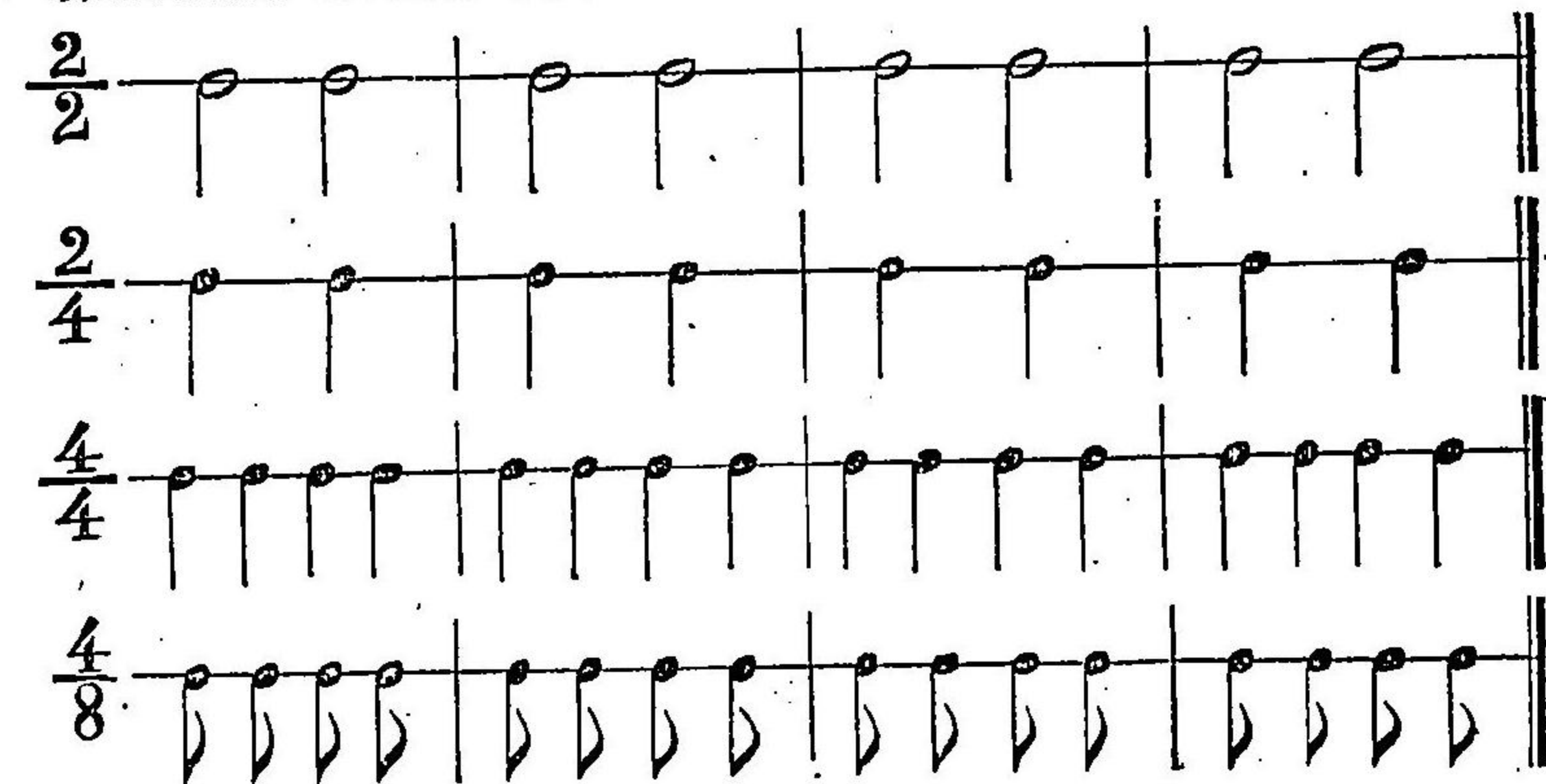
六. 樂曲ガ此ノ中何レノ拍子ニ屬スルカラ判明ナラシメンガ爲メニ. 樂曲ノ最首音部記號ノ次ニ或ル記號ヲ附ス。之ヲ拍子記號トイフ。

- (一) 二拍子ノ拍子記號ハ $\frac{2}{4}$ $\frac{2}{2}$ 或ハ C ノ三種ニシテ. 其第一拍ハ強聲部ニシテ第二拍ハ弱聲部ナリ。
- (二) 四拍子ノ拍子記號ハ $\frac{4}{8}$ $\frac{4}{4}$ 或ハ C ノ三種ニシテ. 其第一拍ハ強聲部. 第二拍ハ弱聲部. 第三拍ハ中強部. 第四拍ハ弱聲部ナリ。
- (三) 三拍子ノ拍子記號ハ $\frac{3}{8}$ $\frac{3}{4}$ $\frac{3}{2}$ ノ三種ニシテ. 其第一拍ハ強聲部. 第二. 三兩拍ハ共ニ弱聲部ナリ。
- (四) 六拍子ノ拍子記號ハ $\frac{6}{8}$ $\frac{6}{4}$ ノ二種ニシテ. 其第一拍ハ強聲部. 第二. 三兩拍ハ共ニ弱聲部. 第四拍ハ中強部. 第五. 六兩拍ハ共ニ弱聲部ナリ。
- (五) 拍子記號ノ分母ハ音符ノ種類ヲ示シ. 其分子ハ一小節ニ含マルハ音符ノ個數ヲ示スモノナリ。サレド一小節内ニ記スベキ音符ハ必ズシモ其拍子記號ノ分子ニ示サレタル數ニ限ルベキモノニ非ズ。唯其分子ノ數ニ相當スル歷時ヲ有スル音符. 休止符ナラバ. 他ノ如何ナルモノヲ以テ. 之ニ代フルモ可ナリ。例ヘバ $\frac{4}{4}$ ノ拍子記號ヲ有スル樂曲ニ於テハ一小節内ニ四分音符四個トイフハ其ノ標準ヲ示スニ止マリ. 之レニ代フルニ八分音符四個. 二分音符二個. 或ハ全音符一個ヲ以テスルモ可ナルガ如シ。

七. 尙以上説明ノ拍子ニツキ一層印象ヲ深カラシメンガ爲メニ次ノ題ヲ塗板ニ記シ. 拍節シツ「ラー」ニテ練習セシム。而シテ此際小節ノ強弱ニ充分ノ注意ヲ拂フベシ。



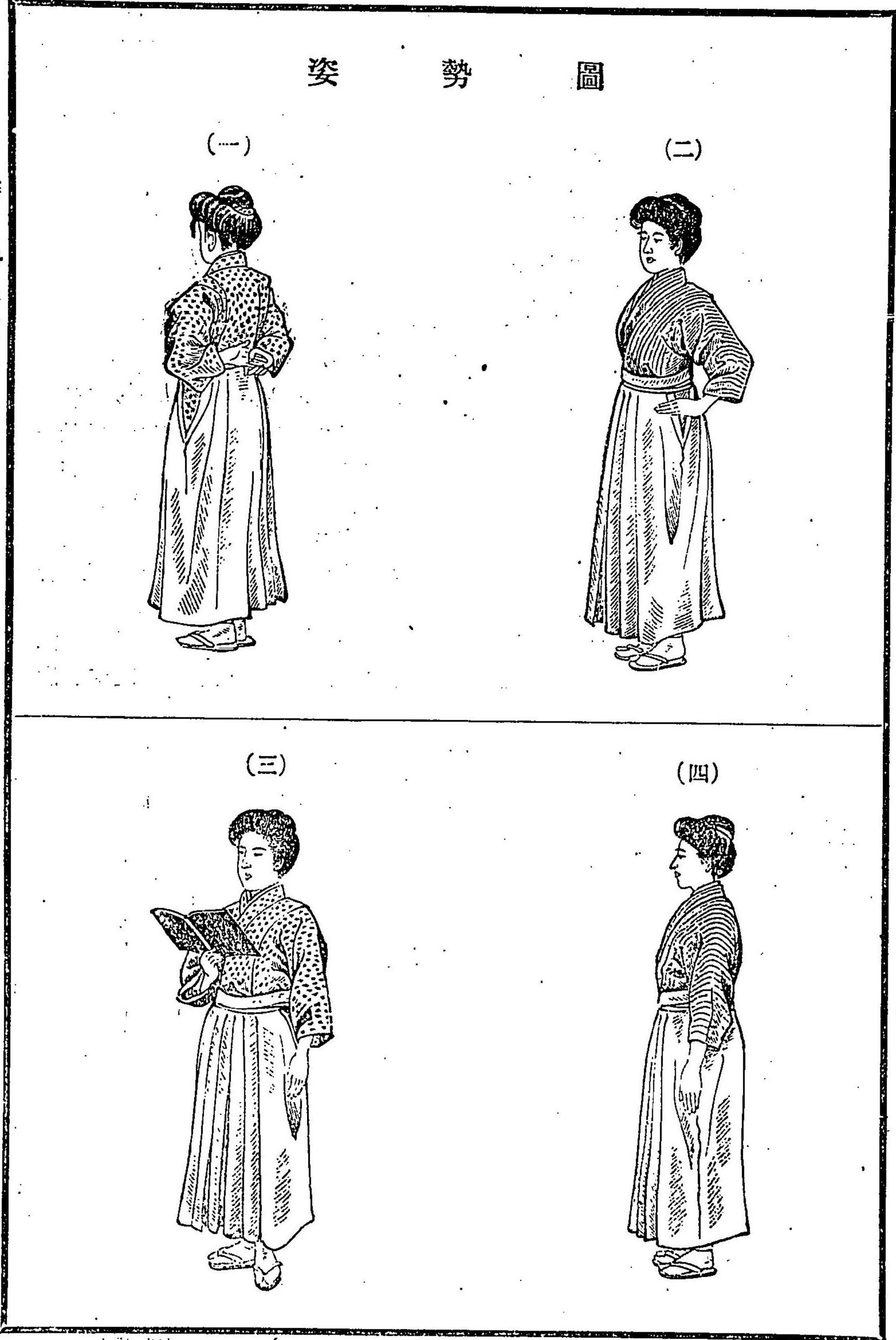
八. 次ノ練習用譜(生徒用第七頁)ヲ上述ノ注意ヲ以テ課スベシ。



〔備考〕

- (一) 以上練習ノ外ニ猶附點音符. 休止符ナドヲ混用シタル練習ヲ課スル必要アレドモ. 歌曲ノ實際ニツイテ練習スル方得策ナルヲ以テ. 茲ニハ唯簡易ナル練習ニ止メヌ。
- (二) 三拍子. 六拍子ナドハ第二學年ニ於テ. 之等ノ拍子ニテ成レル歌曲ヲ學ブ時ニ於テ. 確實ニ練習スルコトヲシ. 茲ニハ其練習ヲ省キヌ。

姿勢圖



姿勢

【参考】

(一) エメルソン氏曰ク。身體ノ姿勢ヲ直クスベシ。然レドモ決シテ硬クスベカラズ。肩ヲ少シク上ケベシ。肩ヲ背ニ寄セ。兩手ヲ前面或ハ背後ニ輕ク組ムベシ。(一)圖參照)是レ肩及ビ臂ノ重量ヲ胸部ニ受ケザラシメンガ爲メナリ。咽喉及ビ胸部ノ筋肉ヲシテ。全ク壓抑ヲ受ケザラシメ。胸部ノ呼吸ノ爲メニ昇降スルヲ自然ニ任ズベシ。

(二) 獨唱家ブロックサム嬢ノ講話ニヨレバ。エメルソン氏ノ説ト大體同様ナレドモ。唯異ナル點ハ。兩手ヲ側腹ニ置キテ肩及ビ臂ノ重量ヲ胸部ニ受ケザラシメ。又側腹ニ置キタル其ノ手ハ呼吸スル毎ニ自然ニ昇降セシムベシ。(二)圖參照)

一. 呼吸練習。聲音練習ノ際ハ背後ニ兩手ヲ輕ク組マシメ。或ハ側腹ニ置カシムルモ教授者ノ任意ナレドモ。唱歌スル際ニハ。其ノ心シテ兩手ヲ輕ク垂レシムルヲ宜シトス。要ハ胸廓ヲ開カシムルニアリ。(三)(四)圖參照)

【注意】 我邦人。殊ニ女子ハ肩ヲ縮メ。胸部ヲ狭クスル弊習アリ。之ハ最モ憂フベキコトニシテ。之ヲ矯正スルコトハ。獨リ唱歌教授ノ際ノミニ限ラザレドモ。深呼吸ヲ爲サシムル唱歌科ニ於テハ。特別ニ此ノ點ニ注意シテ。好真ナル姿勢ヲ保タシメ。其習慣ヲ作ラシムベシ。

二. 座唱セシムル場合ニハ。上體(即チ腰部ヨリ上方)ハ直立ノトキト同様ノ姿勢ヲ保タシムルヲ要ス。

三. 直立ノ際。前屈ノ生徒アリ。斯ル生徒ニハ特別ニ注意シ。充分ニ反ラシムベシ。胸部ハ前ニ。腰部ヲ後ニ引カシムル様務ムレバ。漸次ニ矯正スルコトヲ得ベシ。

【注意】 生徒各自ニ其ノ姿勢ヲ直サント心懸ケシムルコト肝要ナレバ懇切ニ諭スベシ。而シテ猶矯正シ能ハザル生徒ニ對シテハ長サ壹尺位ノ竹或ハ木ノ薄板(幅一寸位)ヲ胸部衣服ノ間ニ直ク入レシメ其ノ一端ヲ喉ノ下ニ置カシムベシ。前屈スレバ必ズ下胸ヲ突キ上ケルガ故ニ終ニハ其効ヲ奏スベシ。

四. 衣服ヲ緊縛スベカラズ。緊縛スレバ胸部ノ自由ヲ妨グルコト甚シク衛生上害アルハ言フマデモナク。發聲上ニモ亦甚不可ナレバナリ。

五. 唱歌ニツレテ頭首ヲ上下シ。或ハ肩ヲ前後若クハ左右ニ動搖セシメ。又ハ足踏ミシツヽ拍子ヲ打ツナドノ見苦シキ様ハ禁ズベシ。

六. 容貌ハ常ニ爽快。溫和ナラシムベシ。高音ヲ發スルトキト雖モ。決シテ顔面ヲ^{ヒツ}鬱^ムルコトナキ様注意スベシ。

呼 吸 法

一、氣息ヲ十分ニ吸入呼出スルコトヲ得ズシテ能ク歌ヒ得ルモノニアラザレバ、呼吸主要ノ筋肉（即チ筋、肉或ハ肌肉トモ稱スル屈伸運用ノ筋肉ナリ）ヲ鍛練シ氣息ノ量ヲ増進スルノ肝要ナルコトヲ忘ルベカラズ。

〔注意〕 幼稚園、小學校時代ヨリ養成スベキ大切ナル條項ナレドモ、現今ノ小學校等ニ於テハ、此處ニ注意スルモノ甚ダ稀ナル有様ナレバ女學校ニ於テ、之ヲ十分ニ矯正スルニアザレバ、終ニ其ノ機會ヲ逸スベシ。

二、呼吸ノ筋肉ヲ横隔膜、腹筋、脇筋、背筋及胸筋トス。此内最モ重要ナルモノハ横隔膜ニシテ、是ハ胸廓ト腹腔トヲ分隔スル所ノ大筋肉ナリ。

三、吸氣ノ場合ニハ、横隔膜下リテ胸廓ヲ大ニシ、呼氣ノ際ニハ此膜内面ニ昇リ、縮ム作用ヲナスモノナリ。故ニ發聲上此ノ筋肉ヲ適當ニ用ヒ、之ヲ鍛練センコト肝要ナリ。長ク保ツベキ聲音及ビ Crescendo 或ハ f. ff ノ如ク充分膨張強大ニ發聲スベキ音ニ對シテハ、尙更此ノ筋肉ノ鍛練ニ務メザルベカラズ。

〔注意〕 現今我邦ノ女子ノ聲音ノ弱キ所以ハ一ハ此レガ養成ヲ爲ササルニ基因ス。

呼 吸 練 習 法

四、生徒ヲシテ直立ノ姿勢ヲ保タシメ、教授者ガ教鞭ヲ緩徐ニ上グルト同時ニ、生徒ヲシテ口ヲ閉ヂ、鼻孔ヨリ徐々ニ吸氣セシメ、其ノ教鞭ヲ暫ク上ニ止ムル間、生徒ハ其ノ息ヲ保チ、ヤガテ其ノ教鞭ヲ下スト同時ニ口ヨリ吐キ出ス。之ヲ緩吸緩呼ノ法ト稱ス。

〔注意〕

(一) 口孔ヲ成ルベク丈ク狭小ニシテ、然ル後吸氣スル方法ヲ取ルモノアレドモ、口ニテ吸氣スルコトハ成ルベク避ケザルベカラズ。何トナレバ直接ニ冷氣ガ聲帯ニ觸レ、又塵埃ヲ吸入スルコト多クシテ害アレバナリ。鼻ヨリ吸入スレバ、塵埃ヲ妨グ設備ハ自然ニ鼻腔中ニアリテ其虞少シ。又冷氣ガ直チニ聲帯ニ觸ルハコトナク、從ツテ咽喉ヲ痛ムルコト少シ。咽喉ヲ痛ムル人ノ多クハ大概口ヨリ吸入スル人ナルヲ以テ見テモ吸氣ハ鼻ヨリスベキモノナルコトヲ了解スルニ足ルベシ。

(二) 急速ニ吸入セザルベカラザル場合ト雖モ、横隔膜ヲ降シ腹部ヲ膨脹シテ吸入スル方法ヲ取ラバ、必然充分ニ吸息ヲ成シ得ルモノナリ。

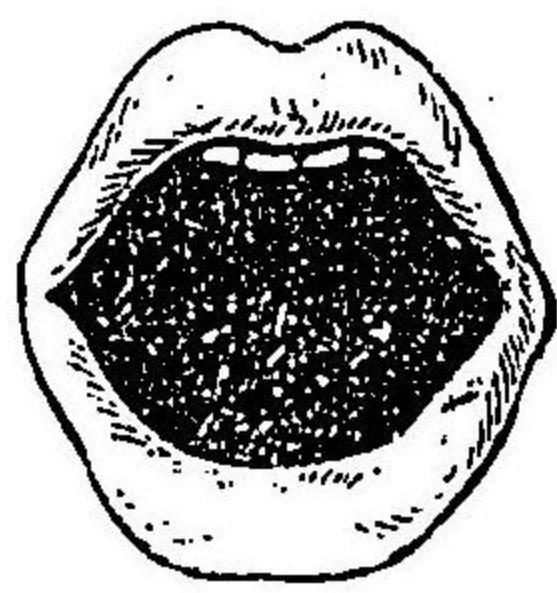
(三) 鼻孔ヨリ吸氣フルトキ横隔膜ヲ降スコト并ニ腹部ヲ張ルコトヲ爲サズシテ、不自然ニ口ヲ固ク閉ヂ、肩ヲ聳ゲテ乃至ハ鼻ヨリ吸入スル其ノ響ヲ發スルコトヲ禁ジ、其ノ誤レル方法ヲ直チニ矯正スベシ。

五、教鞭ヲ緩徐ニ上ゲ、急ニ下グルニ倣ハシメテ緩吸急呼ノ方法ヲ練習スベシ。
 六、教鞭ヲ急ニ上ゲ、緩徐ニ下グルニ倣ハシメテ急吸緩呼ノ方法ヲ練習スベシ。
 七、教鞭ヲ急ニ上ゲ、急ニ下グルニ倣ハシメテ急吸急呼ノ方法ヲ練習スベシ。
 八、實際唱歌ヲ謠フ場合ニ於テハ、緩吸緩呼ト急吸緩呼ヲ用フルコト多クシテ、緩吸急呼、急吸急呼ノ場合ハ少シ。然レドモ横隔膜其他ノ筋肉ヲ發達セシムル爲メニハ、毎時間此ノ練習ヲ行ヒ吸入呼氣ノ完全ヲ計リ、唱歌ノ基礎ヲ作成スルコトヲ忘ルベカラズ。

口 形

- 一. 口ノ容體ハ常ニ自然ニ微笑スル様ニ据エ置クコト。即チ溫容ヲ以テ歌ハシムベシ。
- 二. 口ハ其形狀ニヨリテ凡テノ音韻ヲ形成スベキモノナリ。ナレバ其種々ノ開閉ヲ以テ充分清明ニ各音韻ヲ發スル形狀ヲ取ラザルベカラズ。
- 三. 五母音ヲ發スル形狀ハ下ノ圖ノ如シ。

(ア音)



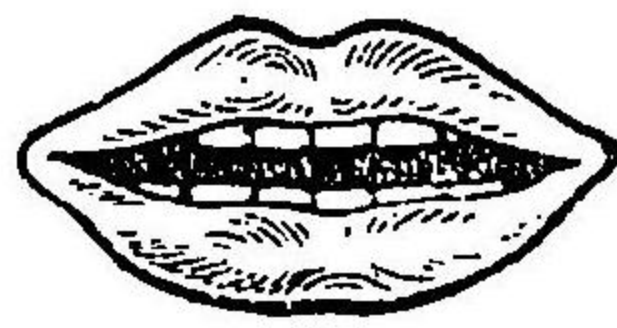
(エ音)



(オ音)



(イ音)



(ウ音)



口
形

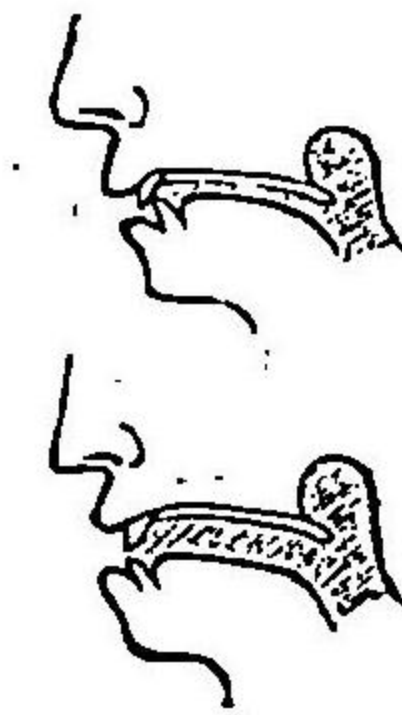
一四(生徒用一〇)

四. ア音ハ上下兩齒ノ間ニ二指ヲ入レ得ル丈ケ開カシメ下脣ヲ充分ニ下ゲシムベシ。

【注意】

- (一)ア音ニ於テ口ヲ開クコト廣キニ過ルハ、猶ホ開キ足ラザルニ等シク宜シカラザレドモ、初學年ニ於テハ出來得ル限リ廣ク開カシムルチ可トス。コレ開口ノ習慣ヲ作ル上ニ於テ必要ナル事柄ナリ。
- (二)専門的ニ「ノース・ボイス」發聲セシムルコトハ初學年生ニハ避クベキコトナリ。「ノース・ボイス」ノ口形ハ此ノ口形圖ヨリハ狭クシテ、一指ヲ入レ得ル丈ケノ開口ニテ足ル。充分開口シ咽喉ヲ開ク長習慣ヲ得ザルツチニ強イテ此ノ發聲ヲ爲サシムルトキハ舌根ヲ固クシテ、究マリタル聲色ヲ發シ、異様ナル響キヲ發スルニ至ルベシ。

- 五. エ音ハ子指ヲクハヘ得ル丈ケ下脣ヲ下スト同時ニ、下脣ヲ少シク前ニ突き出シテ發聲ス。
- 六. イ音ハ鉛筆ノ先端ヲクハヘ得ル丈ケニ開キ、同時ニ下脣ヲ少シク前ニ出シテ發聲ス。
- 七. エ・イ兩音ヲ發スルトキノ下脣ノ位置ハ下圖ノ如シ。



上齒ノ後ロニ下齒ヲ置キタルマヽニテ發聲スルトキノ自ラ口腔モ狭クシテ堅シ。發聲ヲ練習セザル口形ハ大概之ノ形狀チナセリ

エ・イ兩音ヲ發聲スルトキノ下脣ヲ少シク前ニ突き出シテ上齒下齒兩端ノ相觸レ得ル位置ノ見當ヲトルベシ。

- 八. エ・イ兩音發聲ノ場合ハア音オ音等ヲ發スルヨリ輕ク且ツ鼻ニ懸ケズシテ發聲セシムルヲ要ス。然ラザレバ其ノ聲強固ニシテ聞き苦シ。
- 九. オ音ハ唇ヲ輕ク集メテ圓形トナシ、食指ヲ入ルヽコトヲ得ル丈、齒ヲ開カシム。
- 一〇. ウ音ハオ音ノ口形ヨリモ一層唇ヲ輕ク集メテ、恰モ塵埃ヲ吹き飛ばストキノ口形ヲ以テ發聲セシム。
- 一一. 口形練習ノ際生徒ヲシテ指ヲクハヘ、開閉ノ具合ヲ覺エシメ(先ヅ其ノ指ヲクハヘタル儘ニテ發聲セシムルモ可)然ル後指ヲ取り、前ト同様ノ口形ヲ保タシメテ發聲セシム。此際唇ヲ堅クセザル様ニシ、口ハ自然ノ状態ノ儘ヲ開カシムルコト肝要ナリトス。
- 一二. 舌ニハ力ヲ入レズ、其舌尖ハ下ノ前齒ニ輕ク觸レ、其舌根ハ能ク下ニ保ツコト、及上下兩脣ハ全ク自然ノ位置ニ置クコトナドニ就テハ、教授者自身ノ發聲ト共ニ此等ノ説明ヲナシ、好模範ヲ示シ、生徒各自ニ其具合ヲ實際ニ行ハシメ、又開口ノ度合ヲ覺エシムルコトヲ務メザルベカラズ。

【注意】 各生徒ヲシテ口形圖(生徒一〇頁)ヲ手本トシ、自宅ニ於テ鏡ニ向ヒ各自口形ヲ練習セシムベシ。著シキ効アルヲ認ムベシ。

口
形

一五

聲 色

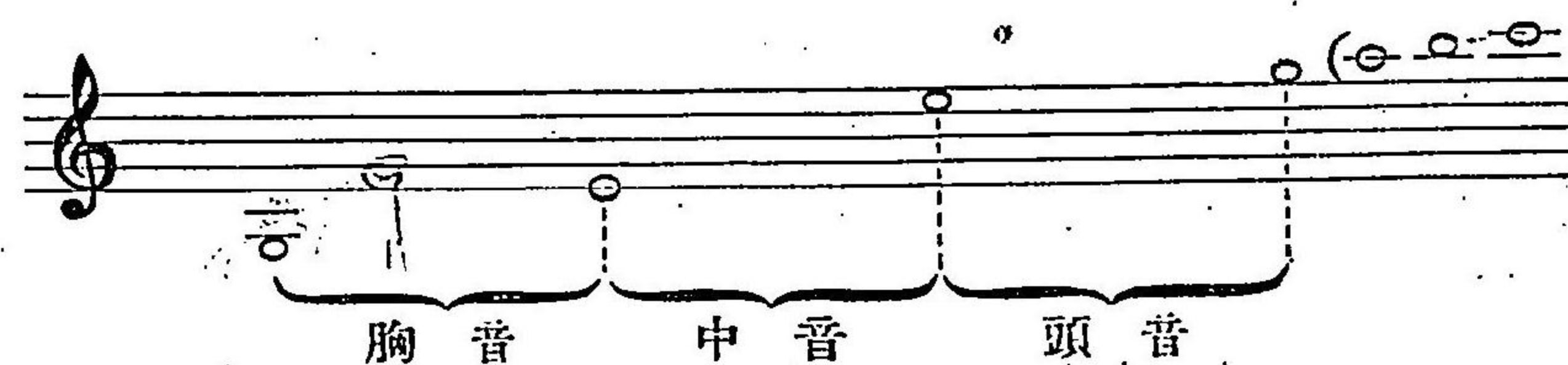
- 一. 唱歌ニ用フル聲音ニ主要ナル二様ノ聲色アリ。一ヲ明聲(Clear)ト稱シ一ヲ暗聲(Somber)ト云フ。
- 二. 明聲ヲ發スルニハ、喉頭(氣管ノ上部)ヲ上ゲテ口腔(口中ノ奥ノ方)ヲ縮ムベシ。即チ自然ノ儘ニシテ下唇ヲ降シ、開口シテ發スル聲ヲ云フ。
- 三. 暗聲ヲ發スルニハ喉頭ヲ壓シ下ゲテ、口腔ヲ張り開キ喉ノ奥ヲ深く下グルナリ。
- 四. 明聲ハ光麗及ビ歡喜ノ樂ニ適用セラレ、暗聲ハ憂鬱ノ感情ヲ表ハスニ適ス。然レドモ通常ノ練習ニ於テハ、兩聲何レヲ發スルニモ格別ノ工夫ヲ爲サズ。只中庸ノ一種兩聲混用ノ方法ヲ採ルヲ可トス。

〔注意〕 初學年生ノ聲ハ聲色一様ナラズ。一、堅固單直ナルモノアリ。二、微弱ニシテ虛薄ナルモノアリ。三、鮮明ニシテ美麗ナルモノアリ。ソレ等ノ原因ハ一ハ其人々ノ所謂生レツキニヨリテ斯カルガ如シト雖ドモ、亦大イニ以下述アル理由ニ基クモノアリ。即第一ハ喉頭ヲ下ゲズシテ、主トシテ地聲ヲ發スルヲ以テナリ。第二ハ吸氣ノ方法ヲ誤リ、喉頭ヲ下ゲズ、下唇ノ動作敏活ナラズ、唯口先ヨリ發スル一種ノ上聲ナリ。第三ハ下唇ノ動作敏活ニシテ、口ノ閉合ヨロシキヲ得タルモノナリ。

以上ハ初學年生ノ發スル音聲ヲ大別シテ示シタルモノナリ。然レドモ個々ノ生徒ニツキ尙精密ニ檢センニ其人々ニヨリテ面貌ノ異ナルガ如ク、聲音ニ於テモ實ニ千差萬別トイフベシ。教授者ハ此ノ種々ナル、未ダ鍛練サレザル聲音ヲシテ、ナルベク完全ニ近キ美聲ニ練化センコトハ唱歌教授上ノ根本問題ナルコトヲ忘ルベカラズ。

- 五. 聲音ノ美ハ唱歌上最モ必要ナル一ハ言フマデモナシ。然ラバ如何ナル聲音ヲ以テ美ナリトスベキカ。今之ヲ抽象的ニ言ハンニ、相當ニ鍛練サレタル耳ニ向ツテ快感ヲ與フルモノ。(未ダ鍛練サレザル耳ニ於テハ却ツテ婦人ガ新内、常磐津ナドヲ歌フ際ニ發スル所謂金切聲ナルモノヲ以テ、極美トナスモノ多シ。吾人ハ之レ等ノ耳ヲ稱シテ相當ニ鍛練サレザル耳トイフニアリ) 今之ヲ具體的ニ言ヘバ曰ク清朗、曰ク充實、曰ク鮮明、曰ク確實ナル音聲ヲ以テ美トスルナリ。生徒ノ音聲ヲシテ美聲ニ練化セシメンコトハ素ヨリ教授者ノ好模範ニヨリ、生徒ヲシテ常ニ其音聲ヲ模倣セシメンコトノ肝要ナルハ言フ俟タザレドモ尙吸呼ノ方法、其宜シキヲ得シメ、口形ヲ適切ニ、下唇ノ動作ヲ自由ニ又敏活ニ、唇、舌、齒等ヲヨク用ヒテ子音ノ響ヲ發スルト同時ニ、喉、口腔、鼻腔等ニ充分響カシムルニヨリテ、其ノ音ヲ清朗、充實、鮮明、確實ナラシメ、以テ美聲ヲ發セシムルコトヲ得。
- 六. 尙此外ニ練聲上必要ナルハ換聲法ナリ。換聲法トハ、其發スル音聲ノ高低ニ從ヒテ、其發聲ノ方法ヲ異ニスルヲイフ。換聲ノ區域ハ人ニヨリテ多少ノ差異アルヲ免レザルモ、今女聲ニシテ最モ普通ナルモノヲ次ニ示サン。

換聲區域

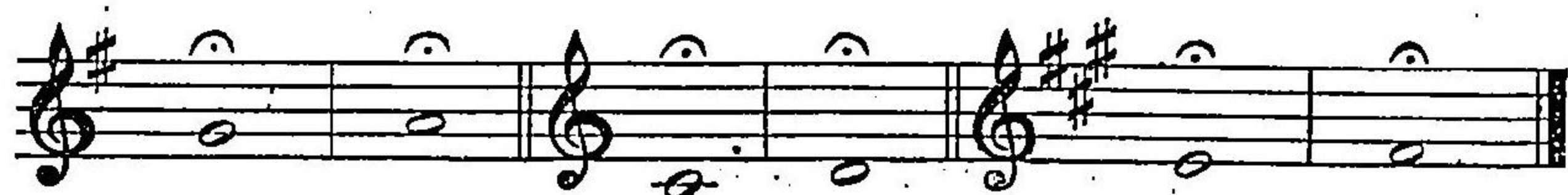


- A. 胸音 (Chest voice) トハ主トシテト音ヨリホ音ニ至ル間ノ音聲ニシテ、發聲ノ際、胸部ノ振動スルガ如キ感ヲ呈ス。コレヲ又地聲トモ稱ス。
 - B. 中音 (Medium voice) トハホ音ヨリホ音ニ至ルマデノ音聲ニシテ、發聲ノ際、恰モ咽喉及ビ口腔ノ振動スルガ如キ感ヲ呈ス。別名ニ聲ノ稱アリ。
 - C. 頭音 (Head voice) トハホ音ヨリト音或ハイ音(又ハソレ以上)ニ至ル迄ノ音聲ニシテ、發聲ノ際、其振動ガ恰モ頭部ニアルガ如キ感ヲ呈ス。別名ニ頭聲ト稱ス。
- 七. コレ等三種ノ換聲法ハ唱歌上最モ肝要ニシテ、シカモ最モ困難ナル事柄ナリ。通例ハ其換聲ニ際シ、破隙(ぶりーく)ト稱シテ其聲ノ變リ目ガ判然シ、吾人ノ耳ニ一種ノ不滿ノ感ヲ與フ。教授者ハ出來得ル限り生徒各個ニツキテ、其音聲ヲ檢シ、各聲區ニ於ケル聲ノ調和ヲ謀ラザルベカラズ。即胸音ヨリ中音ニ移ル場合ノ如キ、胸音ノ區域ニ於テ、既ニソレガ準備ヲナシ、靜カニ中音ニ移ルノ方法ヲトルベク、其他ノ換聲ニ於テモ、皆コレト同様ノ方法ヲトルベシ。一般ニ胸音ヨリ中音ニ昇リタル高度ノ音、即ヘト、イナドノ音ハ發聲ニ最モ困難ナリ。此高度ノ音ノ軟弱ニシテ虛薄ナルハ寧ロ通弊ナリトイフベシ。此弊ヲ矯正センニハ中音ハ主ニ咽喉及ビ口腔内ニ振動スレドモ其時胸音ヲ加味スル心持ヲ以テ發聲ス。即チ〔腹部ヨリ聲ヲ出ス〕テウ觀念ヲ持タシムルコト肝要ニシテ此ノ要領ヲ覺知スルコトヲ得シムレバ從ツテ聲音ノ量モ大ニ増スモノナリ。

第一練習曲

一. 基本教練

1. 生徒ヲシテ直立セシメ、其姿勢ヲ直ス。
2. 呼吸練習—緩吸緩呼。
3. 聲音練習—下ノ譜ノ如ク種々ノ調子ニ變更シテ Do. Re ノ二音ヲア音ニテ發聲セシム。



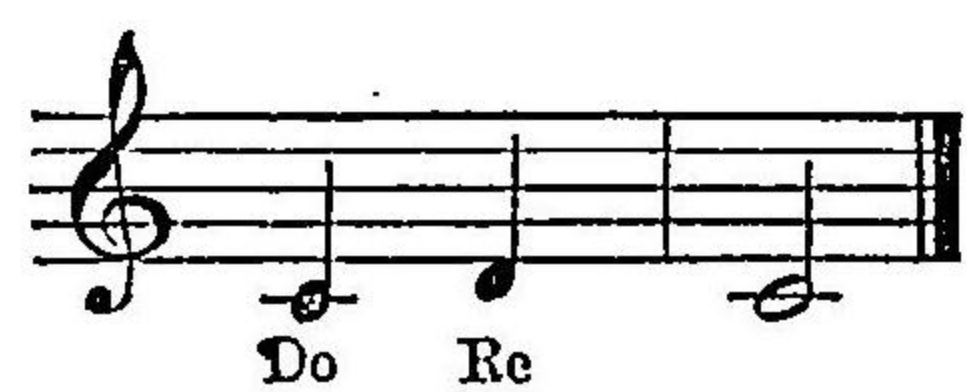
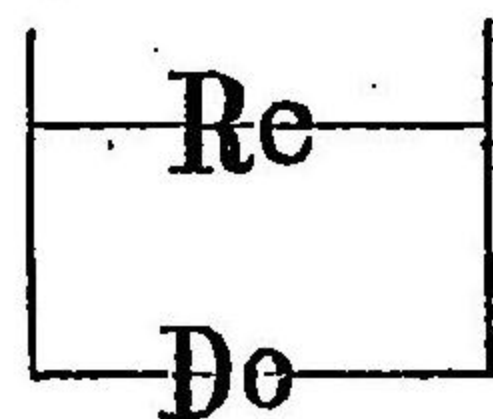
〔注意〕

- (一) ア音ヲ發聲セシムルトキ生徒ノ口形ニ注意シ、其ノ矯正ヲ怠ルベカラズ。
- (二) 此際二指ヲ咬ヘシムベシ。

二. 教授

A 目的 Do. Re 二音ノ位置(ハ、ニノ二音)及其ノ發聲法并ニ其ノ音程、二分音符、四分音符、八分音符、附點四分音符ノ時間及二拍子ヲ教練ス。

B 豫備



1. Do ノ音ヲ發聲セヨ。(樂器ニテ音ヲ與フ)
2. Re ノ音ヲ發聲セヨ。(同上)
3. 最初ノ Do ハ何音符ニシテ何拍間聲ヲ保ツベキカ。
4. 終リノ Do ハ何音符ナリヤ、又何拍間ヲ保ツベキカ。
5. 今一度 Do ヲ。次ニ Re ヲ。次ニ Do. Re. Do—ヲ拍子ヲ數ヘツ、唱ヘ。(二三回之ヲ反覆シテ唱ヘシム)

C 方法

- イ. 四分ノ二拍子トハ如何ナル意味ナルカ。
- ロ. 第一段ヨリ第五段(生徒用ノ譜ハ八段ニ書キタルガ故ニ其ノ續キ具合ヲ誤ラザル様此處ニ第一段ヨリ第八段迄ノ番號ヲ附シテ説明ス)ニ續ケテ拍子ヲ打テツ、唱ヘ。今一度 Do ヲ。次ニ Re ヲ。イザ曲ヲ唱ヘ。

〔注意〕

- (一) 樂器ニテ主調ヲ與ヘテ他ハ奏セザルヲ可トス。Do. Re ノ音程并ニ音符ノ種類及ビ其ノ時間ハ既知ノコトナリ。又豫備的ニ教授シアレバ成ルベク生徒ニ工夫セシムルヲ宜シトス。
- (二) 生徒自身ニ工夫シテ大凡ソ歌ヒ得ルニ至リテ初テ範唱シ、或ハ伴奏ス。
- ハ. 第一段ヨリ第五段ヲ(音程、拍子及其ノ強弱[拍子ノ強弱]ノ具合等)完全ニ歌ヒ得ルニ至リテ後、第二段ヨリ第六段ヲ歌ハシム。其時先ヅ其ノ中ニ合マルル音符ノ名稱、及其ノ時間ニ就キテ發問シ、第一段ト第二段トヲ比較セシメタル後、拍子ヲ數ヘツ、歌ハシム。
- ニ. 第三段ヨリ第七段ニ續ケテ歌ハシム。第一段第二段ノ應用トシテ直チニ生徒ニ歌ハシムルモ可ナリ。要ハ各音符ノ時間ニ對スル生徒ノ觀念ヲ確實ニスルニアリ。
- ホ. 第四段ヨリ第八段ニ續ケテ歌ハシム。先ヅ其ノ附點四分音符ノ名稱、及ビ其ノ時間ニ就キテ上ノ各段ノ音符ト比較セシメテ一拍半、或ハ四分音符ハ八分音符ノ時間又ハ八分音符三個ノ時間ト同價ナルコトヲ充分理解セシメテコトヲ要ス。

〔注意〕

- (一) $\frac{2}{4}$ ノ拍子ノ拍節法ハ下拍、上拍ニテ。二ト數フルガ通例ナレドモ、今暫クノ間ハ、打節法(即チ四分音符一個ニ下拍、上拍ヲ以テ一打チトス)ヲ用フルヲ可トス。
- (二) 拍子ノ強弱ヲ知ラシメンガ爲メ第一拍ヲ強く打タシメ第二拍ヲ軽く打タシム。
- (三) 今暫クノ間ハ調子、拍子ヲ確實ニセシムガ爲メニ特別ニ發想ヲ附セズ。
- (四) 音程、拍子ヲ誤ラザルニ至リテ初メテ伴奏ス。
- (五) 又生徒ノ聲ヲ休息セシムル間ニ伴奏曲ヲ奏シ聞カシムルハ和音ノ趣味ヲ養成増進スル一助トナルベシ。
- (六) 伴奏ハハ調ノ外變水調、ヘ調、ト調等ノ各調子ニ移調シテ記載セシ所以ハ生徒ヲシテ唯ハ調ノミニテ練習セシムズシテ何レノ調子ニ於テモ其ノ主調音ヲ與フレバ唱ヒ得ルベク練習スルコト必要ナレバ、其ノ際教授者モ移調シテ奏スルニ便ナラシメンガ爲メニ紙面ノ許ス限リ斯クハ記譜セシナリ、尙ホ他ノ調子ニ移調シテ奏スルコトハ教授者ノ任意ナリ。
- (七) Do. Re ノ口形及ビ音ノ位置等ニツキテ發聲ノ際特ニ注意スベシ。

第一練習

第一練習曲

二〇(生徒用一二)

第二練習

第二練習曲

二一(生徒用一二)

第二練習曲

一. 基本教練

- 呼吸練習—緩吸緩呼(既習) 緩吸急呼。(教授) 各々數回。
- 聲音練習—ア音. エ音. 口形ヲ説明シ且ツ矯正ス。

二. 復習 第一練習曲ヲ復習シ. 新教材教授ノ豫備トス。

A 目的 Mi (即チホ音) 音ノ譜表上ノ位置及ビ其ノ發聲法並ニ Re=Mi. Do=Mi. ノ音程ト十六分音符. 附點八分音符四分休止符等ノ時間ヲ確實ニ教練ス。

B 豫備

- 音符ノ名稱ヲ一個ツ、發問ス。(四分音符. 八分音符)
- 音符ノ時間ヲ一個ツ、發問ス。(一打. 半打)
- 最後ノ休止符ノ名稱及ビ其時間ヲ發問ス。
- Miヲ教授スルト共ニ其發聲法ヲ教授ス。
- Do. Reヲ發聲セシメタル後 Miヲ (樂器ニテコノ音ヲ與ヘツ、) 發聲セシム。
- 次ニ拍子ヲ數ヘツ、上ノ二小節ヲ歌ハシム。

C 方法

イ 第二練習曲ヲ第一段ヨリ第四段ニ續ケテ打節セシメツ、歌ハシム。

[注意]

(一) 第四小節ノ Do ヨリ第五小節ノ Mi ニ至ル音程ノ三度ハコレヲ生徒ニ發見セシムベシ。若シ困難ナル場合ニハ適宜ニ之ヲ導ク方法ヲ用テラザルベカラズ。即チ Do. Re. Mi. Do. Mi. ト唱ハシム。

(二) 四分音符. 四分休止符ノ時間ヲ正確ナラシムベシ。一般ニ休止符ヲ粗略ニスル弊生シ易キモノナレバ特ニ初學年生ニハ此處ニ注意シテ今ヨリ其ノ弊ヲ打破セザルベカラズ。

ロ 第一段ヨリ第四段ヲ歌ヒ得ルニ至リ. 第二段ヨリ第五段ニ續ケテ歌ハシム。先ヅ十六分音符ノ時間ヲ第一段ト比較シ其ノ割リ合ヲ了解セシメ置クヲ要ス。

ハ 第三段ヨリ第六段ニ續ケテ歌ハシム。先附點八分音符ノ時間ニ就キテ上ノ第一. 第二兩段ノ音符ト比較シテ. 其ノ時間ヲ了解セシム。

第三練習曲

一. 基本教練

- 呼吸練習—緩吸緩呼. 緩吸急呼(既習) 各兩三回。急吸急呼。(教授) 數回。
- 聲音練習—ア音. エ音. イ音。(イ音ハ口形ヲ説明ス)

二. 復習 第一練習(第四段) 第二練習(第三段)ヲ復習ス。

三. 教授

A 目的 Fa (ヘ) 音ノ位置及其ノ發聲法並ニ Mi Fa. Re Fa ノ音程ヲ教授ス。

B 豫備

- 先ヅ Fa 音ノ發聲ニ就キテ說話ス。下唇ト上齒トニテ發シ其ノ韻ハア音ノ口形ヲ保ツベシ。
- Miヲ發聲セシメ次ニ Faヲ歌ハシメ然ル後 Mi Fa Miヲ歌ハシム。而シテ上ノ音階圖ニツキテ Mi Fa ノ距離ノ狭キコトヲ説明ス。
[注意] 今暫クノ間ハ音程ヲ說カズシテ單ニ狭ク. 或ハ小サクノ語ヲ以テ説明ス。

C 方法

イ 第一段ヨリ第三段. 第五段ニ續ケテ歌ハシム。第一練習. 第二練習ニ於テ既ニ學ビタル音符ノ種類ノミナレバコノ練習ハ其ノ應用トシテ教授スルヲ可トス。

[注意] Do Mi. 或ハ Re Fa ノ三度音程ノ困難ナルトキハ Do Re Mi Do Mi 或ハ Re Mi Fa. Re. Fa. ナド發聲セシメテ導クベシ。

ロ 第二段ヨリ第四段. 第六段ニ續ケテ歌ハシム。(上段ノ音符ト異ナル點ヲ能ク注意スベシ)

ハ 第二段ヨリノ曲節. 拍子ヲ誤ラザル様唱ヘ得ルニ至ラバ再ビ第一段ヨリ唱ヘシム。(下段ノ音符ト異ナル點ヲ混同セザラシム) 斯ノ如ク數回反覆スベシ。

第三練習

第三練習曲

First system of Exercise 3, consisting of two staves (treble and bass clef) in 2/4 time. The melody in the treble clef consists of eighth and quarter notes, while the bass clef provides a simple accompaniment.

Second system of Exercise 3, continuing the melody and accompaniment from the first system.

二四(生徒用一三)

Third system of Exercise 3, marked with a key signature change to one sharp (F#) and a 2/4 time signature. The melody and accompaniment continue.

Fourth system of Exercise 3, concluding the piece with a final cadence.

第四練習

第四練習曲

First system of Exercise 4, consisting of two staves (treble and bass clef) in 2/4 time. The melody in the treble clef is more complex, involving sixteenth notes, while the bass clef has a steady accompaniment.

Second system of Exercise 4, continuing the melody and accompaniment.

Third system of Exercise 4, marked with a key signature change to one sharp (F#) and a 2/4 time signature. The melody and accompaniment continue.

二五(生徒用一四)

Fourth system of Exercise 4, concluding the piece with a final cadence.

第四練習曲

一. 基本教練

- 呼吸練習—緩吸緩呼. 緩吸急呼. 急吸緩呼. (練習)各兩三回.
急吸急呼。(教授)數回。
- 聲音練習—ア. エ. イ各音ヲ練習シテオ音ヲ教授ス。

二. 復習 第三練習曲。(新教材ノ拍子ノ豫備トシテ)

- 目的 Sol音(ト音)ノ位置及ビ其ノ發聲法ヲ教授シ. 并ニFa. Sol. Mi. Solノ音程ヲ教練ス。
- 豫備

- Sol音ノ發聲法ニ就キテ說話ス。(Solヲ單ニSoト謠ハシムルモ教授者ノ任意トス)
- 音階圖ニ就キテFa Solノ距離ヲ說話ス。
- 上ノ譜ヲ歌ハシム。

C 方法

- 第一段ヨリ確實ニ拍子ヲ數ヘツ、歌ハシム。
- (注意)
- ト音ノ拍子ノ確實ニナランコト。
 - 曲ノ後半ニハ三度音程繰出セリ音程ヲ工夫セシムル好材料ナリ. 正確ニ唱ヘ得ル様適宜ニ導クベシ。
- 第二段ヲ正確ニ唱ヘ得ルニ至リテ第二段ヲ唱ヘシメ. 第一段ト拍子ノ異ナル點ヲ注意シツ、練習ス。

第五練習曲

一. 基本教練

- 呼吸練習—緩吸急呼. 急吸急呼. 各數回
- 聲音練習—ア. エ. イ. オノ各音ヲ練習シテウ音ヲ教授ス。

二. 復習 第三練習曲. 第四練習曲.

- 目的 La音(即チイ音)ノ位置及ビ其ノ發聲法并ニSol La. Fa Laノ音程ト四拍子ノ拍子記號ヲ實地ニ教授ス。
(備考) Laハ舌端ヲ上唇(上齒ノウシロ)ニ輕ク(Rノ如ク深ク卷キ上ゲザルコト)觸レタルヲ引キ落シテ發スル音ニシテ其ノ舌ノ落チテ平ラカニナリタル後ハ舌ニ力ヲ入レズシテ母音ノア音ヲ早ク響カス心持ニテ發ス。
- 豫備

- ア音ヲ發聲セシメ. 次ニLaヲ發聲セシム。
- 音階圖ニ就キテSol Laノ音程ヲ説明ス。
- 上ノ譜ノ4/4或ハCノ拍子記號ニツキテ發問ス. 之ハ拍子記號(生徒用六頁)ニ於テ教授シタルコトナレバ四拍子ノ強弱等ニツキテ復習的ニ發問シツ、實際ニ導クベシ。
- 拍子ヲ數ヘツ、上ノ譜ヲ歌ハシム。

C 方法

- 第一段拍子ヲ正確ニ唱ヘシム。
- 第一段ヲ正確ニ唱ヒ得ルニ至リテ第二段ヲ拍子ヲ數ヘツ、歌ハシメ. 拍子ヲ誤ルモノアルトキハ範唱セズシテ第一段ト比較セシメ生徒ニ工夫セシム。(特ニ附點八分音符十六分音符ノ拍子ニ注意ヲ要ス)

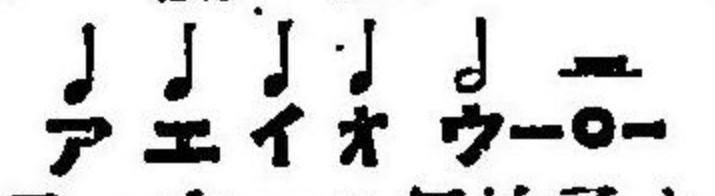
第五練習

第五練習曲

二八(生徒用一五)

拍子を教授する實例

教師ハ下ノ練習曲ノ二小節ヲ打節シテ唱ヘ生徒ニ發問ス。

1. 今唱ヘシ聲ニ長短ノ別アリシヤ。(答ア. エ. イ. オノ音ハ各一打チツ、ウ音ハ二打チ) 若シ此ノ答ヲ爲シ得ザルトキハ生徒ヲシテ拍子ヲ打タシメ、能ク注意セシメツ、教師ハ今一回唱フ。
2. ウ音ヲ二打チ唱ヘテ後、無聲ノ儘打節セシ數ハ、幾何ナリシカ。(答二打チ即二分休止符一個ノ時間) 正當ナル答ヲ得ザルトキハ四小節連續シテ唱ヘ中間ト其ノ終リニ幾拍間黙止セシカラ尋スベシ。
3. ア音ヲ四分音符ニテ書キ表ハストセバ、エ. イ. オ及ウ音ハ如何ニ記スベキカ。(答前者ハ四分、後者ハ二分音符)
4. 二打チ黙止シタル儘ニ拍節セシ記號ニハ何ヲ用フベキカ。(答二分休止符)
5. 今余ガ唱ヘシ ヲ縦線ニテ |ア. エ. イ. オ|ウ-〇-|ト區劃セバ諸子ハ之レヲ何拍子ナリト思フカ。
6. 然リ四分ノ四拍子ナリ。四分ノ四拍子ハ四分音符四個又ハコレニ相當スル他ノ音符或ハ休止符ヲ用ユベキモノナリ。

7. 四分ノ四拍子ノ拍子記號ハ如何 (答 $\frac{4}{4}$ 若クハ C)
 8. 今余ガ唱ヘシ如ク五母音ヲ唱フベシ。此際生徒ノ口形、姿勢、呼吸ノ具合等ニ注意シ、拍子ヲ正確ニ打節シツ、上ノ譜ニ(樂器)トシテ小サク記シタル音ヲ次ギツギニ與ヘテコノ練習ヲナスベシ。
- コノ方法ハ迂遠ナルガ如ク見ユレドモ生徒ノ拍子ニ對スル觀念ヲ完ツスルニハ最モ必要ナルコト、確信ス。サレドコノ方法ノ採否ニ至ツテハ各教授者ノ意見モアリ且ツ新ニ入學セシ生徒ノ程度如何ニモヨルコトナレバ唯參考トシテ吾輩ノ實驗ヲ掲ゲタルニアリ。

拍子ヲ教授スル實例

雲のいろ

雲のいろ

前田純孝

一、夕日ははやくも

西の山にかくれ

錦を張りたる

雲のいろ名残

二、東に月かけ

山の端こそ越えね

銀のべたる

雲のいろさやか

三(生徒用一七)

大意 (第二章)

夕日ハモハヤ、西ノ山ニ進入ツテシマワタ。錦ヲ張り渡シタヤウニ、美シク見エル雲ノ色ハ、ソノ名残デアアル。

語釋 (第二章)

「山の端」山ノハシ。

「さやか」分明。

大意

東ノ方ニアル月影ハ、マダ山ノ端ハ越エヌガ、銀ヲ伸ベタヤウニ見エル雲ノ色ハ、マコトニサヤカテ奇麗デアアル。

雲のいろ

雲のいろ

ユ フ ヒ ハ ハ ヤ ク モ ニ シ ノ
ひ が し に つ き か げ や ま の

ヤ マ ニ カ ク レ ニ シ キ ナ
は こ そ こ え れ し ろ が れ

ハ リ タ ル ク モ ノ イ ロ ナ コ リ
の べ た る く も の い ろ さ や か

生徒用譜

三〇(生徒用一六)

ユ フ ヒ ハ ハ ヤ ク モ ニ シ ノ ヤ マ ニ カ ク レ
ひ が し に つ き か げ や ま の は こ そ こ え れ

ニ シ キ ナ ハ リ タ ル ク モ ノ イ ロ ナ コ リ
し ろ が れ の べ た る く も の い ろ さ や か

雲のいろ

一. 基本教練



- 呼吸練習—急吸緩呼。緩吸急呼。各兩三回。
- 聲音練習—五母音發聲練習(二九頁)ヲハ調ノ一音階ニテナスベシ。下行ノトキハ反對ニ唱ヘシムベシ。

二. 復習 第五練習曲

A 目的 Si(即チ口音)トDo'(即チハ音)ノ位置及ビ其發聲法並ニLa Si. Si Do'. Sol Do'等ノ音程ヲ教ヘ。附點二分音符。四分休止符ヲ實地ニ練習シ。Do Re Mi FaトSol La Si Do'トノ音程ノ形狀ニ就キテ說話シ其ノ印象ヲ深カラシム。

B 豫備

Do
Si
La
Sol
Fa
Mi
Re
Do

Fa
Mi
Re
Do

Do
Si
La
Sol

- ハ調ノDo Re. Mi Fa ヲ唱ヘシメ。次ニ之ヲト調ニ移調シテ歌ハシム。
- ト調ニテDo Re Mi Fa ト歌ヒシモノヲ其儘ニSol La Si Do' ト言ヒ換ヘテ歌ハシメ。其ノ形狀ノ同ジキヲ了解セシム。
- 上述ノ如クシテ後。上圖ノ音階ヲ歌ハシメ。次ニ譜表ノ音階ヲ歌ハシメテ其位置ニツキ說話スベシ。

C 方法

- 「雲のいろ」ノ曲ヲ歌ハシムルニ先チ下ノ發問ヲナス。
 - Cノ記號ハ何カ(拍子記號。一小節四拍)
 - 二小節目ノ音符ノ名稱ハ何カ。(附點二分音符)
 - 附點二分音符ハ何拍間聲ヲ保ツベキカ。(三拍)
 - 其ノ次ノ記號ノ名稱及其拍數ニ就キテ復習ス。(四分休止符。一拍)
- 例ノ如ク拍子ヲ數ヘ打テツヽ歌ヘ。
- ReヨリSolニ至ル音程ヲ歌ヒ得ザルトキハ|Re Mi Fa Sol| Re—Sol—|| 又SolヨリDo'ニ至ル音程ヲ歌ヒ得ザルトキハ|Sol La Si Do'| Sol—Do'—||ト歌ハシム。
- 歌詞ニテ唱ハノムルトキ其ノ口形ニ注意シ明瞭ニ發聲セシムベシ。

雲のいろ

三三(生徒用一六)

長音階及全音程。半音程

一. 教授

Do	半
Si	全
La	全
Sol	全
Fa	半
Mi	全
Re	全
Do	全

- Do. Re. Mi. Fa. Sol. La. Si等ノ文字ヲ何ト稱スルカ。(階名)
- 音名トハ何ヲ云フヤ。(ハ. ニ. ホ. ヘ. ト. イ. ロ)
- 譜表上ハ音ハ何處ナリヤ。ト音ハ何處ナリヤ。
- 此ノ七音ノ階段ヲ名ケテ長音階ト云ヒ。ハ音ヲDoトシタルモノヲハ調長音階ト云フ。
- 長音階ノ階段ノ形狀即チDo Re. Re Mi. Fa Sol. Sol-La. La Si等ハ其距離大ニシテMi Fa及ビSi Do'ノ距離ハ小ナルコトハ既ニ知レルコトナリ。其ノ大ナルモノヲ全音程或ハ一音ト云ヒ。其ノ小ナルモノヲ半音程或ハ半音ト云フ。
- 音程トハ音ト音トノ距離ヲ云フ。

【注意】 長短二度音程ノコトハ後ニ譲リ此處ニテハ單ニ一音。半音ノ名稱ヲ數フルニ止メス。

○ 延長記號 (Pause) 固有ノ時間ヲ適宜ニ延長ス。

— 結合線(或ハ帶) (Tie) 同音度ニ附シタルモノ。結バレタル音符ノ時間ダケ聲ヲ持續スベシ。

【注意】 此ノ二記號ハ生徒用書ニ挿入セル個所ニ於テ教授スベシ。

【備考】

- 本書ニ種々ノ音階ヲ記載セシ所以ハ。讀譜力(音符ノ位置。音符ノ時間等ヲ判明ニスルコト)ノ養成ニモ資セントニアリ。之ヲ要スルニ一定不變ノ音階ヲ習慣的ニ歌ハシメヨリハ聲口出來得ル限リ形ヲ代ヘ生徒ヲシテナルベク多クノ譜ニ目ヲ選サシムルノ必要アルヲ以テナリ。
- 音階ヲ歌ハシムルニ當リ始メハ拍子ヲ緩ニシ。熟達スルニ從ヒテ漸次急速ナラシムベシ。
- 音階練習Aハ同ジキモノヲ變調ヨリ始メ漸次半音或ハ一音ツツ移調シテ記載セリ。
- 尙參考曲トシテ二種ノ音階伴奏ヲ載セタリ。
- 生徒用第一八頁ニ示セル四分音符音階練習曲ニモ次頁ノ全音符伴奏ヲ適用スベキモノトス。

長音階及全音程。半音程。延長記號。結合線

三三(生徒用一八)

音階練習 A

音階練習 A

The first system of '音階練習 A' consists of three staves. The top staff is a single melodic line in G major (one flat) with a common time signature. The middle and bottom staves are piano accompaniment, with the middle staff in G major and the bottom staff in C major. The music features a simple harmonic progression.

The second system of '音階練習 A' continues the harmonic progression from the first system, maintaining the same key signature and time signature.

The third system of '音階練習 A' introduces a key change to D major (two sharps) and a common time signature. The melodic line and piano accompaniment adapt to the new key.

三四(生徒用一八)

The fourth system of '音階練習 A' continues the piece in D major, featuring a final melodic phrase and piano accompaniment.

音階練習 A (つゞき)

音階練習 A

The first system of '音階練習 A (つゞき)' continues the piece in D major, with a melodic line and piano accompaniment.

The second system of '音階練習 A (つゞき)' continues the harmonic progression in D major.

The third system of '音階練習 A (つゞき)' introduces a key change to B major (two sharps) and a common time signature.

三五(生徒用一八)

The fourth system of '音階練習 A (つゞき)' continues the piece in B major, featuring a final melodic phrase and piano accompaniment.

音階練習 A (ついき)

音階練習 A

三六(生徒用一八)

音階練習 A (ついき)

音階練習 A

三七(生徒用二八)

音階練習 B



参考曲



音階練習(B)参考曲

三八(生徒用一八)

發聲練習に就て

發聲スルニ必要ナル條項ハ既ニ姿勢、呼吸法、口形、聲色等ニ於テ詳細ニ論ジ、尙實際ニ練習ノ方法順序ヲ毎時間ニ配當シ各樂曲教授事項ノ基本教練ニ於テ適當ト認ムル事項ヲ記載シ置キタレバ茲ニ再ビ述ブル必要ナシ。唯次頁ニ載セタル伴奏曲ヲ如何ニ取扱フベキカニ就キテ注意スベキ事項ヲ述ベントス。

- 一、發聲練習 A. B ハ何レモ一オクターブニ記セリ。然レドモ一オクターブ以外上下ニ生徒ノ出シ得ル音域迄漸次ニ擴張スルコトヲ勉メ且ツ其ノ音域内ノ凡テニ亘ツテ常ニ練習ヲナサルベカラズ。即教授者ハコノ伴奏ヲ適宜ニ應用シテ使用スベシ。
- 二、A. Bノ伴奏曲ヲ以テ單ニア音ノミヲ練習スルニ止マラズ。他ノ母音ヲモ練習シ、猶ホ進ミテハ子音ヲモ練習スベシ。
- 三、A. Bノ練習曲ハ音階的階段ヲ踏ミテ上行、下行セリ。然レドモ決シテ之レノミニ固執セズ。練習上必要ト認ムル限リ、種々ノ方法ヲ講ゼザルベカラズ。

【注意】 文部省ノ示ス處ニヨレバ第一學年ニ於ケル發聲練習ハ母音ニ限ラレタリ。本書ニ於テハ母音子音共ニ之ヲ課スヲトセリ。其理由トスル處ハ歌詞ヲ教授スルニ當リ各音ノ發音ヲ正確ニ表出セシメザルベカラザルヲ以テ豫メコレガ基本的鍛練ノ必要ヲ認メタルヲ以テナリ。其採否ハ教授者ノ任意ニアリトス。

發聲練習

三九

發聲練習 A

發聲練習 A

Musical score for '發聲練習 A' (Vocal Warm-up A). It consists of six systems of music. Each system includes a vocal line (treble clef) and a piano accompaniment (treble and bass clefs). The music is in common time (C) and features a variety of rhythmic patterns and melodic lines.

四〇(生徒用一九)

[正誤]本曲伴奏第十二小節四分音符「へ音」ハ「嬰へ音」ノ誤リ。

發聲練習 B

發聲練習 B

Musical score for '發聲練習 B' (Vocal Warm-up B). It consists of six systems of music. Each system includes a vocal line (treble clef) and a piano accompaniment (treble and bass clefs). The music is in common time (C) and features a variety of rhythmic patterns and melodic lines.

四一(生徒用一九)

音程練習
(二度音程)

音程練習(二度音程)

The first system of musical notation on the left page consists of three staves. The top staff is a treble clef with a 2/4 time signature, containing a sequence of eighth notes. The middle staff is a bass clef with a piano accompaniment of chords. The bottom staff is a bass clef with a sequence of eighth notes.

The second system of musical notation on the left page consists of three staves. The top staff is a treble clef with a sequence of eighth notes. The middle staff is a bass clef with a piano accompaniment of chords. The bottom staff is a bass clef with a sequence of eighth notes.

The third system of musical notation on the left page consists of three staves. The top staff is a treble clef with a sequence of eighth notes. The middle staff is a bass clef with a piano accompaniment of chords. The bottom staff is a bass clef with a sequence of eighth notes.

四二(生徒用一九)

The fourth system of musical notation on the left page consists of three staves. The top staff is a treble clef with a sequence of eighth notes. The middle staff is a bass clef with a piano accompaniment of chords. The bottom staff is a bass clef with a sequence of eighth notes.

音程練習
(二度音程)

音程練習(二度音程)

The first system of musical notation on the right page consists of three staves. The top staff is a treble clef with a sequence of eighth notes. The middle staff is a bass clef with a piano accompaniment of chords. The bottom staff is a bass clef with a sequence of eighth notes.

The second system of musical notation on the right page consists of three staves. The top staff is a treble clef with a sequence of eighth notes. The middle staff is a bass clef with a piano accompaniment of chords. The bottom staff is a bass clef with a sequence of eighth notes.

The third system of musical notation on the right page consists of three staves. The top staff is a treble clef with a sequence of eighth notes. The middle staff is a bass clef with a piano accompaniment of chords. The bottom staff is a bass clef with a sequence of eighth notes.

四三(生徒用一九)

The fourth system of musical notation on the right page consists of three staves. The top staff is a treble clef with a sequence of eighth notes. The middle staff is a bass clef with a piano accompaniment of chords. The bottom staff is a bass clef with a sequence of eighth notes.

音程練習
(二度音程)

音程練習

四四(生徒用一九)

音程練習
(二度音程)

音程練習

四五(生徒用一九)

♩ = 112

わが身の幸

わが身の幸

マ ナーニ ヅ マ ナーニ ヅ マ ナーニ ヅ マ ナーニ ヅ
 な しーへ の く さーむ ら よ しーし げーく ミーも

イ リーニ ヅ ケ フーニ ヅ ソ ヲ レ シーキーキ ハ ミ
 ま なーび の は やーし の よ し ふーかーく さ も

シ ノ ミ メ グーニート ト モ ノ ナ サークーニ
 た ゆ ま す さーらーむ や す ま す わーげーむ

メ ノーシ ク ヒ ゴート ナ イ ソ シーミー ク ラ ス
 か つーら の え だーな ば な り ミーるーま で は

四六(生徒用二〇)

わが身の幸

一. 基本教練

- 呼吸練習—緩吸緩呼. 急吸急呼。各二三回
- 聲音練習—五母音及八行 (ハ. ヘ. ヒ. ホ. フ)
 [備考] 八行ハ恰モ笑ヒ聲ヲ發スルガ如キ要領ニテ喉頭ヲ下ゲ呼氣ヲ腹部ヨリ突キ出スガ如クシテ發スル聲ナリ。
- 音階練習 A (教師用三四頁. 生徒用一八頁)

二. 教授

- 此ノ曲ヲ階名ニテ一齊ニ讀メ。(拍子. 音程ニヨラズシテ)
- 此ノ曲ノ半音ハ何處ナリヤ。(Mi Fa. Si Do!) 此ノ半音ヲ能ク注意シテ唱フベシ。
- 主調音ヲ與ヘ拍子ニ關セズ音程ヲ歌ハシム。
- 音程ヲ謠ヒ得ルニ至リテ打節セシメツ、歌ハシム。
 [備考] 本曲ハ音階的ニ作ラレタルヲ以テ一音階ヲ覺エタル生徒ニ對シ應用トシテ課スルコトセリ。

わが身の幸 (生徒用譜)

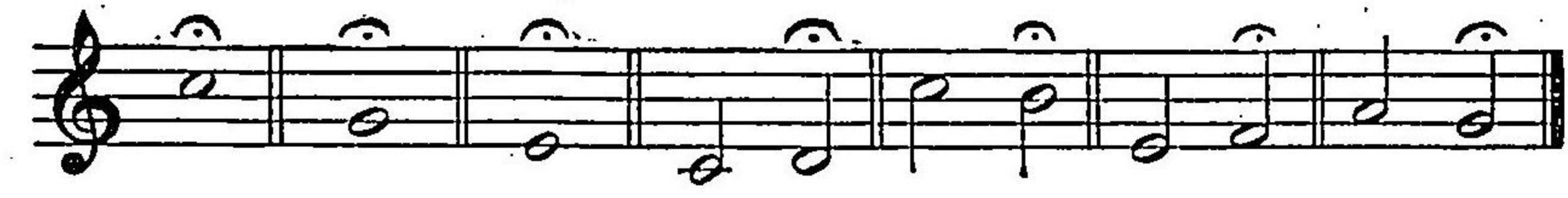
わが身の幸

四七(生徒用二〇)

曉 起

一、基本教練

- 呼吸練習—緩吸急呼、急吸緩呼。各二三回
- 聲音練習—五母音、ハ行 (既習)
 ヤ行 ヤ、エ、イ、ヨ、ユ。
 ワ行 ワ、エ、井、ヲ、干。
 【注意】ア行トヤ行トワ行トノ區別ヲ説明シ、其ノ響ノ異ナル具合ヲ實際ニ發聲シテ教授スベシ。唱歌ノ歌詞及ビ言語等ニ直チニ應用セシムベシ。
- 音階練習—C (生徒用一八頁)
- 聽音練習—音階ヲ歌ヒ終リテ着席セシメ、餘リ時間ヲ經ザルウチニ音階中ノ音ヲ樂器ニテ奏シテ聽音練習ヲ課ス。例ヘバ下圖ノ如シ。



【注意】一區劃ツ、聽音セシム。ナ附セザル音ノ階名ノミハ教師之ヲ音ヒ、次ノ階名ノ何ナルカヲ生徒ニ答ヘシム。生徒ノ答フルト同時ニ其音符チ一々塗板ニ記ス。コノ練習ノ全體ヲ書キ得ヌ。後生徒ヲ區劃シテ發聲セシム。此時最初ノ一音ヲ與フル必要アルベシ。教鞭ニテ指示シツ、反對ニ最後ヨリ歌ハシムルコトモ亦ヨシトス。

- 縱線ハ何ノ効用アリヤ。(強弱ヲ定ムル爲メニ。一樂曲ヲ等一ナル小部分ニ區劃スル爲メ)
- 縱線ト縦線トノ間ヲ何ト稱セシカ。(小節)
 小節ニ正格・變格ノ別アリ。強聲部ヨリ始マリテ弱聲部ニ終ル規則正シキ小節ヲ正格小節ト云ヒ。樂曲ノ最終小節ノ一部ヲ割キテ樂曲ノ最首ニ置キタルモノヲ變格小節ト云フ。變格小節ハ小節ノ弱聲部或ハ小節ノ中途ヨリ始マルモノナリ。
 【注意】「曉起」ノ曲ニツキテ之ヲ「ワガ身ノ幸」ノ曲ハ正格小節ナルコトヲ説明スベシ。

二、教 授

- 階名ニテ譜ヲ讀マシム。
- 音程ヲ唱ヘシム。(樂器ニヨラズ又教師ノ模範ヲ離レ教師ハ時々之ヲ助クル態度ヲトル)
- 次ニ最初ノ拍子ヲ緩ニ打節セシメツ、謠ハシム。曲譜ハ慣ルニ從ヒテ速度ヲ早ムベシ。(此際附點八分音符、十六分音符ノ時間ニ特別ノ注意ヲ要ス)
 今後ノ歌曲モ概ネコノ方法ニテ教授スルコト多クレバ次曲ヨリハ省略シテ其要點ノミヲ記載スベシ。
- 此ノ Do ノ場所ノ音名ハ何ナリヤ。(ハ音)
- 然ラバ何調子ナリヤ。(ハ調)
 【注意】(一)五、六ノ二項ハ既ニ三七頁ニ於テ教授セシコトナレバ、此處ニ其復習トシテ發問ス。(二)コノ曲ハ主ニ「こゝろ」ニテ作ラレタルチ以テ音階練習Cト關聯セシメ得ベク應用トシテ小學唱歌集二篇「霞の雲」ノ曲ヲ唱ハレムルモ宜シ。
- 此ノ曲ハ變格小節ナレバ弱聲ニ起ルコトヲ特ニ注意スベシ。

わが身の幸

文學士 中村 春二

一、待ちにぞ待ちたる

まなびのそのに

入り立つ今日こそ

うれしき極み

師の御恵こ

友の情に

たのしく毎日に

いそしみ暮す

二、教への草叢

よし茂くとも

學びの林の

よし深くとも

たゆまず取らむ

やすまずわけむ

桂の枝をば

折りこる迄は

わが身の幸

四八(生徒用二二)

語 釋 (第一章)

「まなびのその」學校ノコト。「いそしみ暮す」勉強シテ暮ラストイフ意。

大 意

待チカチテ居タ學校ニ入學スル今日ハ、實ニ喜シイ限リテアル、誠ニウレシイコトノ極テアル。先生ノ御恩ト友達ノ親切トニヨツテ、毎日樂シク勉強シテ暮ラス。

語 釋 (第二章)

「教の草叢」學校ノコト。「桂の枝をば折りこる」學業ヲ卒業スルトイフ意。

大 意

學校ヲ教ヘラレル學科ハ、假令多クとも、學術ハ假令ムツカシクシテモ志ラズ學バウ、休マズ勵マリ。學業ヲ卒業スルマデハ。

〔附 言〕

入學シタトキノ嬉シサチイツモ忘レズシテ卒業スル迄一生懸命ニナツテ勉強スベキコトヲ訓戒スベシ。

♩ = 112

曉 起

ツキ カゲーカスレ... ツツ ア ケ ユクーミソラ イ
 やま しご-ほのぐ らき も ヤ はれ-わたり ね

ザ イザーオキイ デテ ノ × ニサン ホセン マ
 ぐ らの-むらじ りも い ま ぞ な き い つ る

モ トニ フク カ セ モ ス ソニ-チル ツ ユ ア
 ゆ もつ-さま は ら ゆ ら めく-しろ ゆ り げ

ラ アリ-コロチ ヨノ ナ ツ ノア シメヤ
 に げに-いさぎ よの よ も のけしきヤ

曉
起

五〇(生徒用二二)

曉 起 (生徒用譜)

曉
起

一、月影うすれつゝ
 明けゆくみそら
 いざいざ起き出でて
 野邊に散歩せん
 袂に吹く風
 裳裾に散る露
 大和 田建樹

二、山もごほのぐらき
 露晴れわたり
 壩の村鳥も
 今ぞ鳴きいづる
 霧もつ笹原
 ゆらめく白百合
 げにげに潔の
 四方の景色や」

大 意

曉 起

五一(生徒用二三)

語 釋(第一卷)

「みそら」ハ接頭語ニテ意味ナシ唯空トイフ意。
 「裳裾」着物ノ裾。

大 意

月影ウスウナツテ明クテ行ク空、サアサア起キ出テ野ノアタリヲ散歩シテ見ヤウ。袂ニ吹イテ来ル風、着物ノ裾ニ散ル露、ア、ア、マコトニ心地ヨイ夏ノ朝景色デアレ。

語 釋(第二卷)

「村鳥」ハ群ツテ居ル鳥。

大 意

山モトニホノ暗ク籠ツテ居タ籠ハハヤ晴レテシマワテ、壩ニ群ツテ居タ鳥モ今鳴キ出シタ、露ヲ置テイル笹原、ユラユラトシタ白百合、ホントニ、イサギヨイ奇麗ナ四方ノ景色デアレ。

螢 狩

♩ = 104.

螢
狩

ホ マルホタルヤ ヨ コ コ ニ キ テ
て らせてらせや よ い け み ら な

ホ マルホタルヤ ヨ テラセヤマ ド ナ
て らせてらせや よ あやめのは な

マ マ ト ナ リ ホ シ ト ナ リ
は な よ リ も う つ く し く

ナ ラセテラセ イ ザ フ ミ ヨ ム マ ド ナ
か ぜにきつめ の らやうらんつ けて

五二(生徒用二四)

螢 狩

一. 基本教練




- 呼吸練習—緩急緩呼. 急吸急呼. 各兩三回
- 聲音練習—母音及八行. ヤ行. ワ行 (各行ヲ復習ス)

カ行. カ ケ キ コ ク
サ行. サ セ シ リ ス
タ行. タ テ チ ト ツ

〔注意〕

(一)子音ハ主ニ唇. 齒. 舌ニヨツテ生ヅ其ノ生セシ音ヲ母音ニ返ス. 換音スレバ子音ハ口先
キニ響キ其ノ韻即チ母音ハ咽喉ニ響カスコトヲ説明シテ了解セシムルコト肝要ナリトス.
(二)前ニモ述べタル如ク文部省令教授要目ニハ第一學年ニ於テ母音ヲ練習シ. 子音ノ練習ハ
第二學年ニ於テナスベキコトヲ指定セラレタルガ故ニ其指定ニ從ヒテコノ練習ハ第二學年
ニ進ミテナスガ適當ナランモ. 歌詞ヲ教授スル上ニ圖ヲ明瞭ナラシムルニハ其響ノ成立.
口ノ構ヘ方チ一通リ説明シ置ク必要ヲ認ムベシ.

發想記號 (其の一)

 (Crescendo) 漸次=強ク.
 (Decrescendo) 或ハ (Diminuendo)
 漸次=弱ク.
 漸次=強ク. 漸次=弱ク.

- 音階練習—發聲練習(教用四〇. 生用一九)ノ各音ニ發想ヲ附シテ最初ハア
音. 次ニ階名ニテ練習ス。

〔注意〕 毎時間上ノ發想記號三種ヲ實地ニ練習スベシ. 即聲音練習. 音階練習. 及歌曲ヲ唱ハシ
ムル際特別ニ注意スベシ.

- 聽音練習—方法ハ前時間ト同ジ。(下ノ譜ヲ以テ行フ)



二. 教授摘要

- 附點音符ニ注意スベシ。
- 八度音程ニ注意スベシ。
- 拍子ヲ確實ニ歌ハシム。
- 發想記號ニ注意セシム。

螢狩、發想記號

五三(生徒用二四)

♩ = 104. 螢 狩

ホテ たらホタルヤヨ コイけニキツな ホテ たらホタル
 ヤヨ テラセヤマドチな ちは マトナリも
 ホシトナリク チラセテイサの フミヨムマドチ
 ホウツクシク チカセにキエぬソの

五四(生徒用二四)

螢 狩 (生徒用譜)

一、ほたるくやよ
 こゝに來て
 ほたるくやよ
 照せや窓を
 玉ごなり
 星ごなり
 照らせくいざ
 書よむ窓を
 二、照らせくやよ
 池水を
 照らせくやよ
 菖蒲の花を
 花より
 うつくしく
 風に消えぬその
 提灯つけて

大 意(第一卷)
 螢ヨ、螢ヨ。コ、ニ來
 テ、螢ヨ、螢ヨ。光チ
 放ツ玉トナリ、光チ放
 ツ星トナツテ、音ガ音
 チ歌△窓チイザイザ、
 照シテ奏レ、照シテ奏
 レヨ。

大 意(第二卷)
 池水チ照シテ奏レ、照
 シテ奏レ。アヤマチ照
 シテ奏レ、照シテ奏レ
 ヨ。花ヨリモ美シク、風
 ニ消エヌ、ソノ提灯ノ
 ヤツナ明リチツケテ。

語 釋
 「照せや窓を、」及ビ「書
 讀む窓を」ノ二句ハ、
 昔、昔ノ車胤ガ家食ウ
 シテ、油チ買フコト出
 來ズ、夏ノ夜、螢チ窓
 ニ集メ、ソノ光チ書チ
 讀シテ故事チ思ヒ合セ
 タノテアル。

大和田建樹

五五(生徒用二五)

♩ = 116.

夏やすみ

ナー ト リ き キ ツ ツ フー ザ ナ ハ ゲ ミレ ハー
 ひに ひ に き つ ツ し フー ザ ナ ハ ゲ ミレ ハー
 こに が モ わ シ ョ ヌ キー ギ ノ ミ ムド リ ム

ルカ セ ア ミ ツ ツ フー ミ ナ ヨ ミレ シ
 ス リ ア ナ ら ん ぼ さ ニ シ ノ ケ シ ミレ シ
 プ ヲ モ ス ズ シ キ ター ニ シ ノ ケ シ ミレ シ

ソノ ヲ ヌ メ イ マ ハ ハル ク ク ス キ サ リ テ
 ひねし ヲ オカ ム トラ は ト ト しみ る に テ ぶ チ さら ひり テ
 コロ オカ ム ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト

マ ナ カ ネ タ ル ナ ツ ノ ヤ ス ミ ハ キ ヲレ シ
 た の し き な ツ つ ナ ヲ コ ニ オ ク ル モ タ ノ シ
 ア ツ キ ナ ツ つ ナ ヲ コ ニ オ ク ル モ タ ノ シ

夏やすみ

一. 基本教練

- 呼吸練習—緩吸急呼、急吸緩呼、各兩三回。
- 聲音練習—母音及ハ、ヤ、ワ、カ、サ、タノ各行復習。
 ナ行. ナ. 子. ニ. ノ. ヌ
 マ行. マ. メ. ミ. モ. ム
 ラ行. ラ. レ. リ. ロ. ル
- 音程練習—二度音程四二頁。(生徒用一九頁)
- 音階練習—三四頁1ヨリ8迄。

二. 教授摘要

- 變格小節、正格小節ニ就キテ復習シタル後此ノ曲ノ一段、二段(變格)三段、四段(正格)ヲ判別セシメ説明ヲモ爲シテ其強弱ノ觀念ヲ確實ナラシムベシ。
- 第二段ノ終リノ小節ハ三拍唱ヘテ一拍ノ休止符、第四段ノ最終ノ小節ハ二拍唱ヘ一拍ノ休止符、尙ホ一拍不足ノ分ハ第一段最首ノ音符ヲ加算スルコトナレバ此等ノ區別ヲ明瞭ニ理解セシメザルベカラズ。
- 變格小節ノ氣息用法ニ注意スベシ。
- 第三段ノ終リノ小節ニアル五度音程ノ教授法ニ注意ヲ要ス。

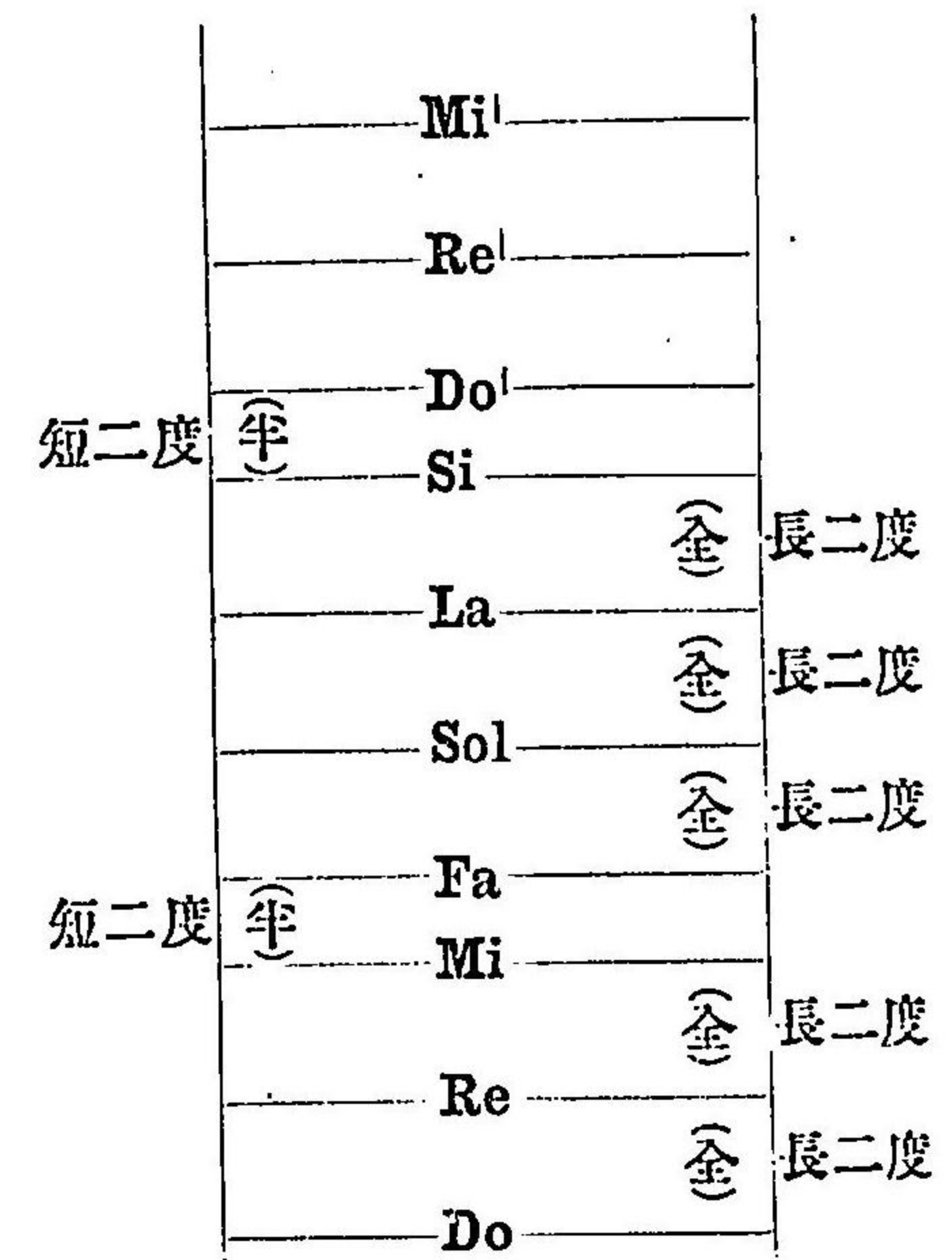
夏やすみ (生徒用譜)

Musical score for '夏やすみ' (Student Use) in 4/4 time, G major. The score consists of four staves of music. The first staff is the vocal line, and the following three are piano accompaniment. The lyrics are written below the vocal line.

音階練習

音階練習、二度音程

二度音程 { 全音程 (或ハ一音) = 長二度
半音程 (或ハ半音) = 短二度



五九(生徒用二八)

〔注意〕 (一) 高キ Do, Re, Mi ナ此處ニ教授スルコトナレバ其ノ發聲法ヲモ説話スルヲ要ス
(二) 此ノ音階ニヨリテ音程ノ説明ヲナスベシ

夏やすみ

犬童球溪

一、啼く鳥さつと

業を勵み

春風あみつと

書を読みし

その日の夢今は

はるけく過ぎさりて

待ちかねたる夏の

休みは来る

二、日に日に睦びし

友と別れ

ひとりごならんは

淋しけれご

終日父母の

みもごに侍らひて

樂しき夏やすみ

送るは嬉し

三、日光もさしこぬ

木々の緑

掬ふも涼しき

谷の清水

心おかぬ友と

日毎に手をこりて

暑き夏をこゝに

送るも樂し

語釋(第一章)

「春風あみつと」春風ニ吹カレナガラノ意。

大意

鳴ク鳥ノ聲ヲ聞キナガラ、課業ヲ勵ミ、春風ニ吹カレナガラ、書物ヲ讀ムダツノ日ハ、夢ノヤウテ今ハ遙カニ過ぎ去ツテ、待サカ子テ居タ、夏ノ休ミハ來ダ。

語釋(第二章)

「ひれもす」朝カラ晩マテトイフニ同シ。

大意

毎日ムツマシウシタ友達ト別レ、唯獨トナルノハ、淋シイケレド、朝カラ晩マテ父母ノモトニ居テ、樂シイ夏休ヲ送ルノハ嬉シイコトデアアル。

語釋(第三章)

「掬ふ手ノ平ニ水ヲシクフコト。」

「心おの友」心ニ隔ナキ友、ナカヨキ友トイフコト。

大意

日影モサ、木多クノ樹ノミドリ、手ノ平ニシクフモ涼シイ谷ノ清水、心ニ隔ノナイ友達ト、毎日手ヲ引イテ、暑イ夏ヲ、ニ送ルノモ樂シイコトデアアル。

夏やすみ

五八(生徒用二七)

音程練習
(二度音程)

音程練習(二度音程)

六〇(生徒用二九)

音程練習 (つゝき)
(二度音程)

音程練習(二度音程)

六一(生徒用二九)

♩ = 116

我が教室



1	ラ	ラ	ガ	ニ	チ	チ	シ	タ	シ	ム	ラ	ガ	シ	ウ	レ	シ	キ
2	メ	シ	キ	ミ	チ	ト	ク	ビ	ン	ク	サ	シ	ヘ	ベ	ニ	ハ	
3	ワ	シ	の	つ	く	に	わ	ん	り	を	サ	シ	て	ノ	シ	ク	
	ワ	シ	の	つ	く	に	わ	ん	り	を	サ	シ	て	ノ	シ	ク	



コ	コ	ロ	ニ	イ	ソ	シ	ミ	ハ	ゲ	ミ	タ	ノ	シ	キ	ト	コ	ロ	ハ
タ	ク	ミ	の	ウ	ッ	シ	ミ	ハ	ゲ	ミ	タ	ノ	シ	キ	ト	コ	ロ	ハ
ツ	レ	シ	ク	タ	ガ	ヒ	ニ	ム	ツ	ビ	モ	ト	ヒ	ノ	レ	イ	ハ	



コ	レ	コ	ノ	シ	ッ	ヨ	ア	ア	ア	ア	ユ	ノ	シ	ッ
コ	バ	リ	な	ハ	ッ	ン	ア	ア	ア	ア	ノ	ノ	シ	ッ
コ	ロ	ニ	テ	マ	サ	ア	ア	ア	ア	ア	コ	ノ	シ	ッ



ヨ	ア	ア	ア	ア	ナ	ツ	カ	シ	ヤ
ヨ	ア	ア	ア	ア	ナ	ツ	カ	シ	ヤ
ヨ	ア	ア	ア	ア	ナ	ツ	カ	シ	ヤ



我が教室

一. 基本教練

1. 呼吸練習—緩吸緩呼、緩吸急呼、急吸緩呼、急吸急呼。

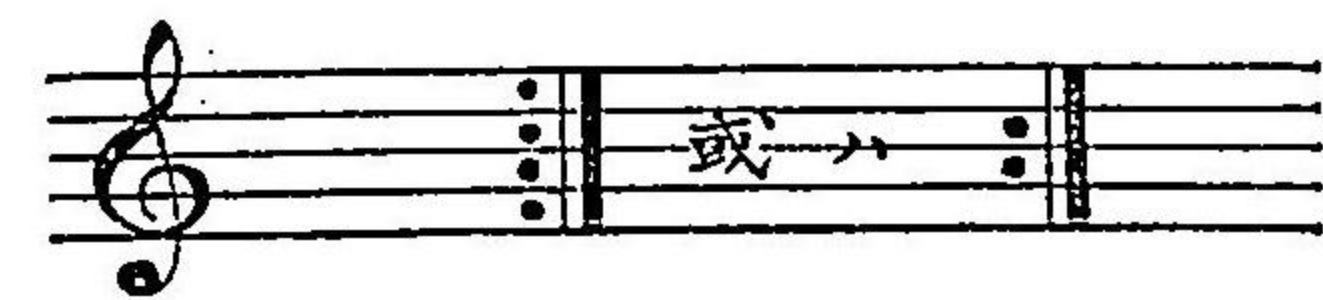
〔注意〕 夏休後初メテノ授業ナレバコノ練習ヲ充分ニナスベシ。

2. 聲音練習—四〇頁ノ發聲練習ヲ音ニテ練習セシム。

3. 音程練習—二度音程四二頁又ハ四四頁、及ビ六〇頁ヲ練習ス。

〔注意〕 コノ音程練習曲、從來ハ專ラ階名ニテ歌ハシメシモ追々練習ヲ積ミテ音程ヲ正確ニ識ビ得ルニ至ラバ聲音練習ト關聯シテア音其他ノ各音ニテ發音セシムベシ。

4. 音階練習—三四頁及ビ五九頁ヲ練習ス。

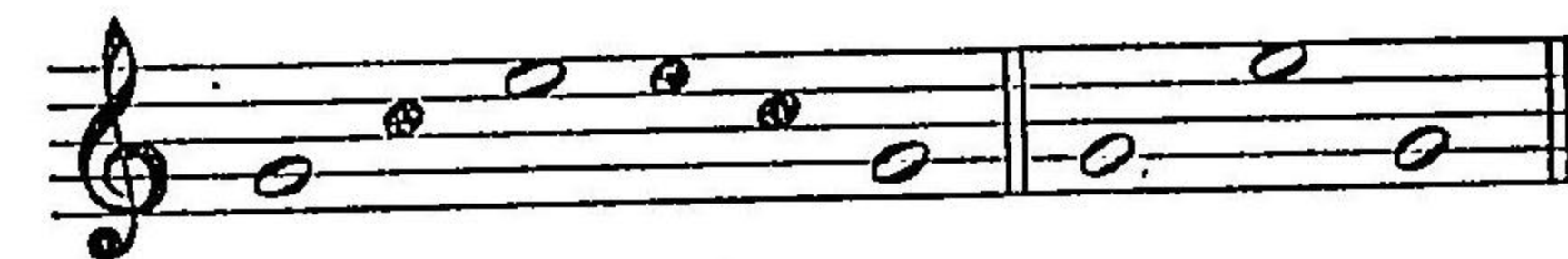


反覆記號

〔注意〕 コノ反覆記號ニツキテ反覆ノ方法ヲ説明スベシ。尙ホ他ニ反覆記號アレドモ其ノ記號ノ表ハルハ場合ニ説明スルコトセリ。

二. 教授摘要

1. コノ曲ノ中ニアル次ノ音程ハ六度ナルヲ以テ稍困難ヲ感ズベシ。然レバ次ノ方法ニヨリテ之ヲ導クベシ。



2. 此ノ曲ノ強聲部ニアクセントヲ附スルコトハ實ニ本曲ノ生命ナリトイフベシ。教授者ハ特ニ此點ニ注意スベシ。

〔参考〕 アクセントノ付ク方ハ普通口及咽喉ノミニテ附スベキモノ、如ク誤解サルレドモ、決シテサニアラズ。全ク横膈膜即チ腹部ノ筋肉ノ働キニヨリテ生ズルモノナリコノ理ヲ了解セズシテ口及ビ咽喉ノミニテ發センカ其ノ聲ヤ必ズ強キ意味ヲ異ニシテ單ニ固ク鋭キ聲トナリ。圓滿充實清朗ナル美聲ヲ發スルコト能ハザルナリ。

太平の御代

大和田建樹

一、仰げやすめらが御代を

吹く風音なく

四海に波なき

かしこき御代を

二、のがすな此よき時を

學術さかえて

工藝起らん

今このこきを

三、仰げや治まる御代を

櫻に紅葉に

楽しく遊ぶは

こは誰が恩ぞ

語 釋(第二章)

「吹く風音なく」世ノヨク治マツテイルトイフコト。

「四海に波なき」國內ニ亂ノナキコト。

大意

皆々仰ゲヨ。リガ天皇陛下ノ治メ給フコノ大御代ヲ、世ハヨク治マツテ、國內ニ亂ノナキコノアリガタイ大御代ヲ。

大意(第二章)

學術ガ榮エテ吾々ハ幾ラデモ賢クナレル。工藝ガ盛ン盛ンニナツテ吾々ハ何一ツ不自由ハナイ。コノ文明ノ世ニ生レタ吾々ハ決シテコノヨイ時節ヲノガサナイデ一心ニ勉強セチバナラヌ。

大意(第三章)

第一章ノ意ヲ受ケテ、皆々仰ゲヨコノ治マルヨキ御代ヲ。春ハ櫻秋ハ紅葉トイフ様ニイツデモ樂シク遊バレルノハコレハ誰ノ恩デアラウカ。決シテ忘レテハナラヌゾヨ。

我が教室

鳥居 枕

一、我れらが日々

正しき道へ

親しむ吾が師

嬉しき心に

導く教へ

樂しき所は

是れ此の室よ

二、吾が師の机に

姫百合撫子

花瓶を据えて

壁には巧みの

手折りて挿さむ

窓にはレースの

寫繪かけて

帷を懸けむ

三、吾れらの友達

吾れらの友垣

あたかもやから

樂しく嬉しく

やがてもうから

一日のなかばは

たがひにむつび

此所にて學ぶ

嗚呼、嗚呼、此の室よ

嗚呼、嗚呼、なつかしや

語 釋(第一章)

「いそしみ勤メルト。」

大意

ワレラガ毎日親シカスル吾ガ先生、ワレラチ正シイ道ヘト導イテ教ヘラレルカラ、嬉シイ心ニナツテ、學問ヲ勤メ勵ミマス、ソノ樂シイ所ハコレコノ教室デアル。ア、ア、コノ教室、ア、ア、コノ教室ハナツカシイ。

語 釋(第二章)

「レース」羊毛ノ細糸又ハ糸ニテ透クヤニ色々ノ模様ニ織レルモノ。

大意

吾ガ先生ノ机ノ上ニ、花活ヲ挿エテ、姫百合ヤ撫子ヲ折ンテ來テ挿シマセウ。壁ニハ上手ニ出來タ寫繪ヲカケテ窓ニハレースノ寫繪ヲ懸ケテ、コノナツカシイ教室ヲ奇麗ニ飾リマセウ。

語 釋(第三章)

「あたまもやから」チヤツド一家内ノ様デアルノ意。

「友垣」ハ友達。

大意

ワタシラノ友達ハ、チヤツド一家内ノヤウデアリマス。ワタシラノ友人ハ、スナハチ一家族ノヤウデアリマス。樂シク嬉シク五ニ仲サ能ウシ。一日中ノ半分ハ、此ノ室デアリテ學ブコトデアル、ア、此ノ教室ハナツカシイ。

附言

自分ノ教室ヲ愛スル心ヲ養ヒ、ツイテ自分ノ學校ヲ愛スル精神ヲ喚起スベシ。

太平の御代

♩ = 104.

太平の御代

ア フ ゲ ヤ ス メ ラ ガ ミ ヨ ナ
 の が す な こ の よ き こ な
 ア フ ゲ ヤ オ サ マ ル ミ ヨ ナ

フ ク カ セ オ ト ナ ク シ カ イ ニ ナ ミ ナ キ
 が く じゆ っ さ っ へ て こ う げ い む こ ら ん
 サ ク ラ ニ モ ミ デ ニ タ ノ シ ク ア ソ ア ハ

六六(生徒用三二)

カ シ コ ニ キ ミ ヨ ナ
 コ マ タ ガ オ シン ナ

太平の御代

太平の御代

一. 基本教練

1. 呼吸練習—急吸緩呼。
2. 聲音練習—四〇頁(生徒用一九頁)ヲア音ニテ練習ス。
3. 音程練習—二度音程六〇頁(生徒用二九頁)
4. 音階練習—三四頁及ビ三八頁

二. 復習

「我が教室」ヲ階名ニテ二回唱ハシメ新教材ノ豫備トナス。

三. 教授摘要

1. 本曲ハ「我が教室」ト音程ニ於テ同様ナレドモ拍子ニ於テ異ナル點ヲ有ス。
 故ニ働モスレバ「我が教室」ノ拍子が先入主トナリテ本曲ヲ同様ニ謠ハント
 スル傾向アレバ之レヲ謠ハシムル際、必ズ拍子ヲ打タシメ音符ノ長短ヲ判
 明セシムベシ。
2. 此ノ曲ヲ教授シタル後再ビ「我が教室」ヲ歌ハシメ其之レト混同セザルヤ否
 ヤヲ檢スベシ。
3. 本曲始メヨリ二小節目ノ終リノ息ヲ繼グ處ハ即急吸法ヲ行フベキ處ニシテ
 此際氣息ニヨツテ起ル噪音ヲ發セザラシメンコトニ注意スベキナリ。

六七(生徒用三二)

音階練習音

音階練習

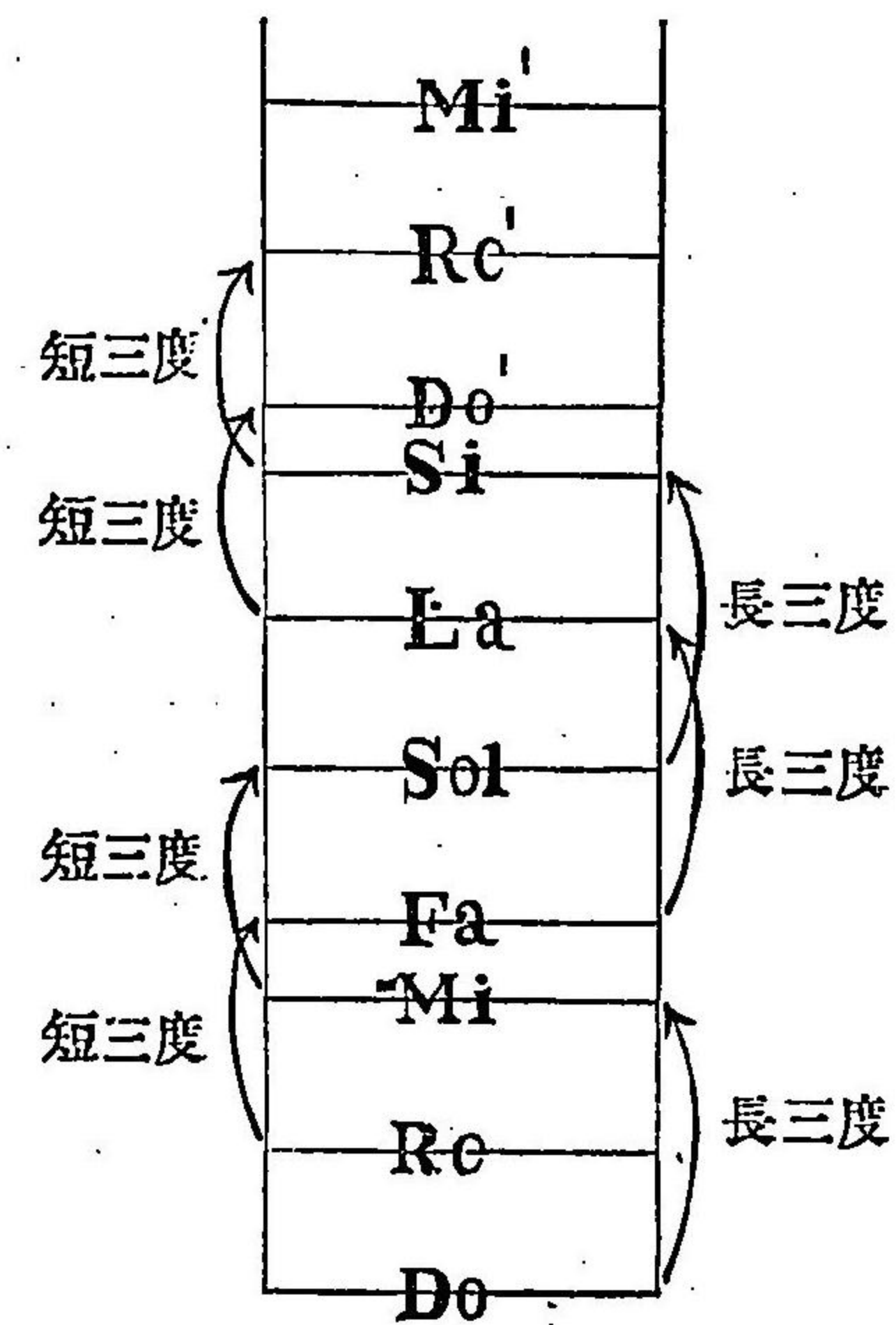
六八(生徒用三四)

音階練習 (ついで)

音階練習

六九(生徒用三四)

三度音程 長三度—二全音
短三度—一全音半



教授摘要

1. 二度音程ニツキテ發問シ. 全音. 半音ノ區別. 長二度. 短二度ノ名稱等ヲ復習シ (五九頁參照) タル後. コノ三度音程ノ説明ヲナスベシ。
2. 三度音程モ二度音程ト同ジク長短ノ二種アリ。而シテ長三度音程ハ二ツノ全音ヨリ成リ. 短三度音程ハ一ツノ全音ト一ツノ半音トヨリ成レリ。音階圖ニヨリテ之ヲ説明センニ。
Do—Mi Fa—La. Sol—Si 等ハ長三度音程ニシテ. Re—Fa. Mi—Sol. La—Do. Si—Re' 等ハ短三度音程ナリ。
3. コノ音階圖ニ就テ説明シタル後七二頁ノ三度音程(生徒用三五頁ノB)ハ各音程ヲ生徒ニ發問シ且ツ説明シテ譜表上ニ於ケル各音ノ音程ヲ判別スルカラ養フベシ。而シテ下行ノ音程ヲ生徒ニ云ハシムベシ。
4. 音程練習ヲ爲シタル後或ハ歌曲練習ノ際等ニ於テ之レガ練習的發問ヲ爲スベキ機會少ナカラズ. 熟練スル迄其ノ機會ヲ逸セス練習スベシ。

音程練習三
(三度音程) (Bノ二)

音程練習
(三度音程)

音程練習(三度音程)

七二(生徒用三五)

音程練習
(三度音程)

音程練習(三度音程)

七二(生徒用三五)

里 祭

前田 純孝

一、横 笛よこふエ 小 鼓こつづみ み山もごころ

笛の音ふエのね 筆ひし 築き 雲までひびく

御神も享うくるか 高麗こま 狗いぬ さへ躍なる

吾等が捧たぐる 神樂かぐら あそび

二、太鼓たいこのごころき 村々ゆすり

鉦かねの音ねかけ聲こゑ 空までひびく

御神も享うくるか 天津あまつひ 日ひ さへ笑わまふ

吾等が捧たぐる 車樂くるまがき あそび

三、千町ちまちの垂穂たまりほも 揃そろひて躍なる

畦あぜなる 枝豆えだま ふれくみ鈴すず

草むらいで来て 秋虫あきむしも歌うたへよ

今日けふこそ吾等われらが 里さとの 祭まつり

七五(生徒用三六)

語 釋(第一章)

「み山」みハ接頭語ニテ意味ナシ、唯山ノコト。

「ごころ」こゝろ即チヒトクトイフ意。

大意

横笛ヤ小鼓ノ音が山ニモトトロキ、笛ノ音ヤ筆築ノ音が雲マデヒビキ波ル。神モ嬉シウ享ケラレルデアラウカ、享ケラレルニ遊ヒナイ。社ノ前ノ高麗狗サヘ躍ルヤウニ思ハレル、吾等ガアゲル神樂アソビニ。

語 釋(第二章)

「村々ゆすり」村々ガ騒グトイフ様ナ意。

「天津日」天ノ日即太陽。

「笑まふ」笑ムノ延音ニシテ笑フコトナリ。

「空までひびく」コ、ニテハ天ニアル日モ喜ンテ笑ウテ居ルヤウニ見エル、即日ノヨク晴レタル事ナイヘルナリ。

「車樂」祭禮ニ執リグシナリ。樂車、山車等ノ文字ヲ用ユ。

大意

太鼓ノ響ニ村々ノ人が騒イテ賑ハシク、鉦ノ音ヤ掛ケ聲ガ空マデヒビキ波ル神モ嬉シク享ケラレル。天ノ日サヘモヨク晴レテ笑ウテ居ルヤウニ見エル。吾等ガアゲル神樂アソビニ。

語 釋(第三章)

「千町」千町田ニテ多クノ田ノコト。

「垂穂」澤山米ガ實ツテ垂レテアル穂。

大意

多クノ田ノ實ツテ垂レタ穂ノ穂モ揃ウテ躍ル。又畦ニアル鈴ノヤウニナツタ枝豆モフれくみ鈴ナリノ枝豆。草ムラノ中ニ居ル秋ノ蟲トモ、出テ來テ歌ヘウタヘ。今日ハ吾レラガ里ノ氏神ノ御祭リテアルヨ。

母音發聲練習表 (參考)

(1)	(6)	(11)	(16)	(21)
ア	ア-オ	ア-エ-ア	ア-エ-イ-ア	ア-エ-イ-オ-ウ
	ア-エ	ア-イ-ア	ア-オ-ウ-ア	
	ア-イ	ア-オ-ア	ア-イ-エ-ア	
	ア-ウ	ア-ウ-ア	ア-ウ-オ-ア	
(2)	(7)	(12)	(17)	(22)
エ	エ-ア	エ-ア-エ	エ-ア-イ-エ	エ-ア-イ-オ-ウ
	エ-イ	エ-イ-エ	エ-オ-ウ-エ	
	エ-オ	エ-オ-エ	エ-イ-ア-エ	
	エ-ウ	エ-ウ-エ	エ-ウ-オ-エ	
(3)	(8)	(13)	(18)	(23)
イ	イ-ア	イ-ア-イ	イ-ア-エ-イ	イ-ア-エ-オ-ウ
	イ-エ	イ-エ-イ	イ-オ-ウ-イ	
	イ-オ	イ-オ-イ	イ-エ-ア-イ	
	イ-ウ	イ-ウ-イ	イ-ウ-オ-イ	
(4)	(9)	(14)	(19)	(24)
オ	オ-ア	オ-ア-オ	オ-ア-エ-オ	オ-ア-エ-イ-ウ
	オ-エ	オ-エ-オ	オ-イ-ウ-オ	
	オ-イ	オ-イ-オ	オ-エ-ア-オ	
	オ-ウ	オ-ウ-オ	オ-ウ-イ-オ	
(5)	(10)	(15)	(20)	(25)
ウ	ウ-ア	ウ-ア-ウ	ウ-ア-エ-ウ	ウ-オ-イ-エ-ア
	ウ-エ	ウ-エ-ウ	ウ-イ-オ-ウ	
	ウ-イ	ウ-イ-ウ	ウ-エ-ア-ウ	
	ウ-オ	ウ-オ-ウ	ウ-オ-イ-ウ	

里 祭

♩ = 112.

里



ヨ コ プ エ コ ソ ソ ミ ミ ヤ イ ロ ト ド ロ ス ヲ ノ ネ コ
 た い こ の さ ぜ ろ き む ら む ら づ す リ ヲ ね の れ け
 ナ マ ナ ノ タ リ ホ モ ソ ロ ヒ テ オ ド レ ア セ ナ ル エ

祭



チ リ キ ク モ マ デ ヒ ヲ ク ミ カ ミ モ ウ グ ル カ コ マ イ ヌ サ ヘ
 け こ ぶ そ ら ま で ひ ぐ が か み も う く る か あ ま つ び さ ハ
 ダ マ メ フ レ フ レ ミ ス ズ ク サ Δ ラ イ デ キ テ ア キ ム シ ヲ ヲ



オ ド ル ヲ レ ラ ガ サ サ ヲ ル カ ガ ラ ア ソ ビ
 ぶ ま ふ わ れ ら が さ さ ぐ る だ ん じ り あ そ び
 タ ハ ヲ ケ フ コ ソ ヲ レ ラ ガ サ ト ノ マ ツ ヲ

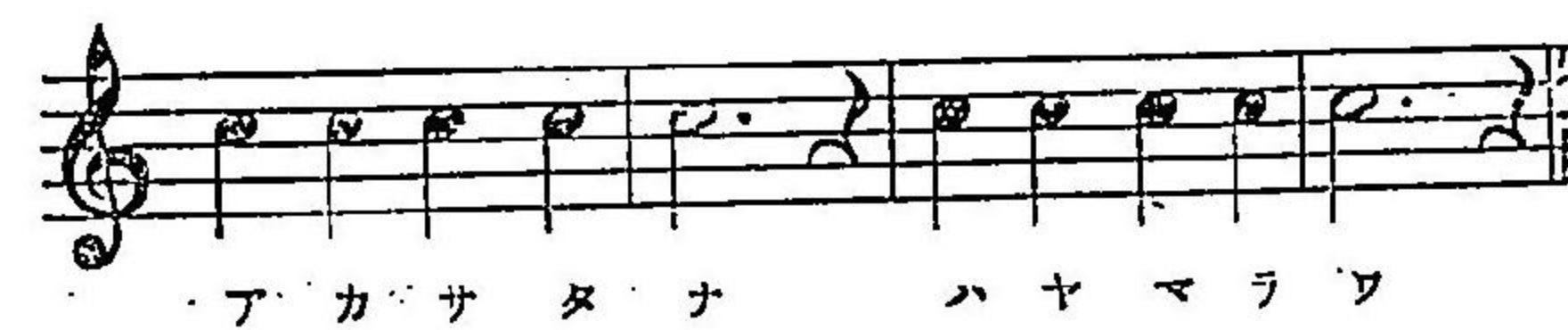


七六(生徒用三六)

里 祭

一. 基本教練

- 呼吸練習—緩吸緩呼. 急吸急呼。
- 聲音練習—ア列 (ア. カ. サ. タ. ナ. ハ. マ. ヤ. ラ. ヲ.)



〔注意〕

(一)この練習の際、各音の韻母音ノア音ニ收マルガ故ニ其口形ハ悉皆同形ナラザルベカラズ。且ツ其ノ子韻ノ響キ即唇、齒、喉咽、舌、鼻ニヨリテ異ナル各音ノ響キヲ明瞭ニ發セシムベシ。然レドモ初學年生ハ其ノ明瞭ニ發セントシテ口形ヲ平ニシ且ツ固クスルヲ常トスルガ故ニ教授者此處ニ注意シテ其ノ矯正ヲ怠ルベカラズ。

(二)この練習ハ必ズモ此處ニ示セル各音ノミニ限ラズ、教授者ノ任意ニ音階ノ各音ニ於テ爲スコトヲ得ベシ。此處ニハ單ニ其ノ一例ヲ示セルノミ。

- 音階練習—六八頁。
- 音程練習—七二頁。

二. 教授摘要

- 各小節ノ強聲部ニアクセントヲ附スベシ。
- 十六分音符ノ連續セルトコロハ下唇ノ運動ヲ敏捷ナラシムベシ。
- 輕快ニ唱ハシムベシ。
- 教授者ハ適當ニ發想ヲ附シテ教フベシ。

里

祭

七七(生徒用三六)

臨時記號 (其の一)

1. # 記號ヲ嬰 (Sharp) ト稱シ。コノ記號ヲ附シタル音符ハ半音高ク唱フベシ。
2. ♮ 記號ヲ本位記號 (Natural) ト稱シ#記號ニヨツテ半音高メラレタル音ヲ原位置ニ復ストイフ意味ヲ有ス。
3. 是等ノ記號ハ楽曲ノ中途ニ發生シテ其ノ楽曲ニ變化ヲ與フルガ故ニ總稱シテ臨時記號或ハ變化記號ト云フ。
4. コノ#ヲ附シタル一小節内ニハ常ニ其効ヲ有スルモノニシテ其ノ小節内ノ同音ハ#ヲ附スルニアラザレバ同一ノ音ト見做スベキモノナリ。
 (イ) 第三小節ニツキテ發問ス。
 (ロ) 第六小節ハ第八小節ノ如ク#ヲ附スル必要ナキモ注意ノ爲メニ之ヲ附シタルモノナリ。

〔注意〕

- (一) #記號ニツキテハ後ニ教授スル場合アレバ此處ニハ之ヲ省キタリ。
- (二) #F (音名ハ英。米ニテハエフ。シャープ。獨逸ニテハ Fis 我邦ハ嬰ト稱ス) 音ノ唱ヘ方ニツキテハ種々アリ。
 (イ) 我邦ノ略譜ニテハ(ヤ一)ト唱ヘ。
 (ロ) トニツク。ソール。フアー式ニテハ Fi (フィー) ト唱ヘ。
 (ハ) ハラー氏ハ Fe (フェー) チ用ヒ。
 (ニ) 専門的ニハ本位置ノ Fa (ファー) チ其儘用ヒテ呼稱セシム。
 是等ノ中何レヲ採ルベキカニツキテハ各々確守ノ説アリテ今一々其ノ利害得失ヲ既述スル能ハザレバ教授者ガ任意ニ其ノ一ヲ撰ビテ正確ニ半音ヲ歌フコトヲ得シムル様教導スルコトヲ得ガ可ナリトス。
- (三) #記號ヲ既明スルニ先ダチテ Mi-Fa ノ半音及ビ Fa-Sol ノ全音ヲ生徒ガ確實ニ覺エ居ルヤ否ヤヲ試問スルノ要アリ。若シ其ノ音程ノ觀念ヲ失ヒタランニハ再ビ二度音程ヲ復習シタル後ニアラザレバ#記號ニヨツテ變化スル音程ヲ既明スルトモ無効ニ屬スベシ。

臨時記號

臨時記號、音階圖

音階圖

Do ¹	Fa
Si	Mi
La	Re
Sol	Do ²
Fa	Si ¹
Mi	Ea ¹
Re	Sol ¹
Do	Fa ¹

〔注意〕 ト調音階構成ハ「富士山」ヲ數ハタル後ニ於テ之レヲナスコトトシ。茲ニ掲ゲタル音階圖ハ唯臨時記號ヲ附シタル音。即チ嬰音井ニ本位音等ヲ視覽ニ訴ヘテ一層歌ヒ易カラシメンガタメナリ。之レガ通用法ハ教授ニ任ス。

夕
映

♩ = 104.

夕 映

ア メ ツ チ モ ユ ル カ カ ノ ユ フ マー エ 1 { ソ ラ モ ノ ヤー
 い ま よ り り ろ こ ぶ あ す の ひ り 2 { ナ ベ テ ク レー
 あ い し ふ ま もー
 ゃ い し は く らー

マ ナ モ ア ユ ム シ ツ ム 1
 な く い ろ う す ら ぎ 2
 し や も どの 心 ぶ 入

八〇(生徒用四〇)

夕 映

一. 基本教練

- 呼吸練習—呼吸練習ハ從來絶エズ行ヒ來リシニヨリ稍正確トナリタルヲ以テ從來ノ如ク殊更ニ特別ノ多クノ練習ヲ要セザルベシ。故ニ今後ハコレガ記載ヲ省略セントス。サレド全然此ノ練習ヲ不必要トナスニ非ザレバ教授者ノ見込ミニヨリ取計ハルベシ。
- 聲音練習—母音及エ列 (エ、ケ、セ、テ、ネー、ヘ、メ、エ、レ、エー) ア列ヲ練習セシ如ク下ノ各音ニテ。

- 音階練習—六八頁。
- 音程練習—七一頁或ハ七二頁。

二. 復習 七九頁(生徒用三八頁)ノ練習曲ヲ復習シテ新教材ノ豫備トス。

三. 教授摘要

- 之ノ曲ノ臨時記號ニツキテ發問ス。
- ∴ ∴ノ記號ハ何ニカ。(反覆記號)

省略記號

3. $\sqrt{1.} \sqrt{2.}$ ハ省略法ノ一ナルコト及此ノ場合ニハ如何ニ唱フベキカヲ説明シ。唱歌スル際ニ其ノ反覆ノ具合、即チ $\sqrt{1.}$ ヲ飛ビ越エテ $\sqrt{2.}$ ニ到ルコトヲ誤ラザル様注意スベシ。

夕映、省略記號

八一(生徒用四〇)

富士山

鳥居 枕

一、天晴たふさ 富士の高嶺は

君さし臨み立つや かしこき神山

二、空にそびゆ 富士の高嶺は

皇國の姿なりや うごかぬしば山

三、空にそびゆ 富士の高嶺は

皇國の鎮なりや ゆるがぬしば山

四、天晴かしこ 富士の高嶺は

臣さしるやび伏すや 麓のむら山

語釋(第一章)

「天晴」ハ哀ノ意ニアラズシテ、嗚呼ノ感歎
詞ト同シ意。
「神山」トハ、木ノ花咲クヤ姫ノ神ノマシマ
ス山ト云フ意。又唯尊シテイフト見テモヨ
ロシ。

大意

ア、富士ノ神山ハ、尊イ山テアル。多クノ
山ノ君トシテ、立ツテ居ル。

語釋(第二章)

「しば山」ハ、
「皇國」トハ天皇陛下ノ治メ給フ國ト云フ
意。

大意

富士ノ高嶺ハ、空ニ高ク立ツテ居ル。コノ
イツマテモ動カズ芝山ハ、皇國ノ姿デア
ル。

大意(第三章)

富士ノ高嶺ハ、空ニ高ク立ツテ居ル。コノ
イツマテモ動カズ芝山ハ、皇國ノ鎮メ、即
チシツメノ神テアル。

語釋(第四章)

「臣」ハ家來ノコト。
「のやび伏す」敬ヒ伏スコト。

大意

ア、富士ノ高嶺ハ、オソレ多イ神山テアル、
麓ノ多クノ山々ハ、家來トナツテ、敬ヒ、
伏シテ居ル。

夕映

文學士 武島 羽衣

一、天地燃ゆるか かのゆふばえ

空も野山も あゆむ賤も

なべてくれなる だご一色

二、いまよりよろこぶ あすの日和

思ふまもなく 色うすらぎ

四方はくらしや もとのゆふへ

語釋

「夕映」ハ日影ノ西ノ空ニ反射シテ赤ク見ユ
ルコト(夕榮)

「賤」ハ山腰(ヤマカヅ)即チ山中ニ住ム成人、
キナリ、そまびさナドト同シ。イヤシキ身
形リナシテ居ル人ノ意。

大意(第一章)

天地も燃ユルノカ、アノ夕日ガ一際赤ク
ナルノハ、空も野山も歩イテ居ル山腰も、
皆スベテ紅ノ一色デアアル、赤イ、賤ニ
寄麗デアアル。

大意(第二章)

夕映ガアルト、明日ハ天氣デアアルトヨク云
フコトデ、ソノ夕映ガアルンテ今カラ明日
ハ天氣デアアルト喜ンテ居ル間モナイ其一際
赤クナツタ夕映ノ色ハ薄暗クナツテ四方ハ
元ノ夕闇トナツテシマサマ。

♩ = 70. 富士山

アモソハレタフ ト フ ツ ノ タ一カネハキ
ソラニモソビ ヲ フ ツ ノ タ一カネハキ
あはれにソカビし ヲ フ ツ ノ タ一カネハキ

ミ ト シ ノ ソ ミ ター ツ ヤ カウ シ コ キ カ ミ ヤ イ
ク に の す が た なー リ ヤ カウ シ コ キ カ ミ ヤ イ
み に の し め ヤ ビ ふー す ヤ ム も が の む ば ヤ マ

富士山

一. 基本教練

1. 聲音練習 母音及イ列(イ. キ. シ. チ. ニー. ヒ. ミ. イ. リ. 非一)
2. 音階練習 六八頁
3. 音程練習 七一頁或ハ七二頁

二. 復習 夕映ノ歌曲ヲ復習シテ然ル後新教材ヲ教授ス。

三. 教授摘要

1. コノ曲ハ何拍子ナリヤ。(二拍子)
2. 何調ナリヤ。(ハ調)
3. 「夕映」ノ「かのゆふはえ」ノトコロト。コノ曲ノ「ふじのたかねは」ノ $\sharp Fa$ ヲ今試ミニシト唱ヘ。SolヲDoニ。LaヲReニ。SiヲMiニDoヲFaニ言ヒ換ヘヨ。斯クスルトキハ
「夕映」ノ Mi | Re. Sol. $\sharp Fa$. Sol. La | Sol—o||ハ
La | Sol. Do. Si. Do. Re | Do—o||ト
歌フコトヲ得ベシ。今諸子ハ之ヲ歌ヒテ比較セヨ。又
「富士山」ヲ Mi | Re—Sol—| Do. La Sol $\sharp Fa$ | Sol—||ハ
La | Sol—Do—| Fa. Re. Do. Si | Do—||ト
唱フコトヲ得ベシ。今之ヲ歌ヒテ比較セヨ。
4. 斯ク言ヒ換ヘテDoト唱フルトコロノ音名ハ何ナリヤ(ト音)
5. ハ調ノDoハ音名何ナリヤ。(ハ音)
6. ハ音ニDoノアルトキハ何調ト呼ブカ。(ハ調)
7. 然ラバト音ニDoノアルトキハ何調ト名付クベキカ(ト調)
8. 然リ。ヘ音ニ \sharp ノ變化記號ヲ附セラレシ結果。ハ調ヨリト調ニ轉ゼシモノニシテ之ヲ轉調ト稱ス。(一音ノ變化ノ爲メニ其ノ前後ニ影響ヲ及ボスコトヲ知ラシムベシ)。

〔備考〕

教授時間ニ若シ餘リアラバコノ轉調ノ應用トシテ小學唱歌集初編「関の板戸」ヲ教授シ。轉調ニツキテ發問シ。且ツ生徒ニ工夫セシメテ轉ゼシ調子ニテ唱ハシムル等ハ大ニ益アリ。又コノ曲ヲ寫サシメ宿題トスルモ可ナリ。

ト 調 音 階 構 成

附 調 子 記 號

Sol	↑	Do
Fa	↖	Si
Mi	↘	La
Re	↔	Sol
Do	↖	Fa
Si	↘	Mi
La	↖	Re
Sol	↑	Do
Fa	↖	Si
Mi	↘	La
Re	↔	Sol
Do	↖	Fa

ハ ト
調 調

ト 調 音 階 構 成、調 子 記 號

八 六 (生 徒 用 四 四)

- (イ) 次頁1ノ譜表ニ記サレタル音符ノ一列ニ於ケル半音ハ何處ナリヤ。(Mi-Fa 及ビ Si-Do)
- (ロ) 然リ、Miハ最初ノ音ヨリ數ヘテ第三音、Faハ第四音、Siハ第七音、Doハ第八音ナレバ今ハ斯ク數フルコト、セン。即チ1ノ譜ノ半音ノ場所ハ第三音ト第四音トノ間及ビ第七音ト第八音トノ間ナリ。今コノ半音ニ注意シテ各音ヲ二拍ツ、保チテ歌フベシ。
- (ハ) 次ニ2ヲ歌ヘ。
- (ニ) 2ノ譜ニ於ケル半音ハ何處ナリヤ。(第三音ト第四音ノ間及ビ第六音ト第七音トノ間)
- (ホ) 1ト2トヲ比較セバ其ノ相違スル處ハ何處ナルカ。(1ハ第七音ト第八音トノ間ニ半音ヲ有シ2ハ第六音ト第七音トノ間ニ半音ヲ有ス)
- (ヘ) 2ノ譜ヲ1ト同様ニ第七音ト第八音トノ間ヲ半音ニ變更センニハ如何ナル方法ヲ用フベキカ。(Faニ♯ヲ附ス)
- (ト) Faニ♯記號ヲ附シタルトキハ如何ナル變化ヲ生ズルカ。(第六音ト第七音トノ間ノ半音程ハ全音程トナリ。第七音ト第八音トノ間ノ全音程ハ半音トナル。)
- (チ) 3ハ其ノ♯ノ變化記號ニヨリテ1ト同様ナル形狀トナシタルナリ。

- (リ) 其ノ變化記號ヲ附シタル音符ノ位置即チ其ノ音名ハ何カ。(↖音)
- (ス) 4ハ變化記號ヲ同シ音名即チ第一間ノ↖音ニ附シテ變化ヲ表ハセリ。
- (ル) 4ノ譜第二線ノSolヲDoニ言ヒ換ヘテ上行シ或ハ下行シテ歌ヒ試ミヨ。
- (ヲ) 5.6兩譜表ニ於テハ3.4ノ如ク變化記號ヲ音符ノ左側ニ附セズシテ最首音部記號ノ次位ニ附シタリ。其ノ附セラレタル位置ハ第五線ニシテ音名ハ即チ↖音ナリ。斯ク音部記號ノ次ニ附シタルトキハ變化記號ト稱セズシテ之ヲ調子記號ト云フ。
- (ワ) 調子記號トシテ用フル場合ニハコノ一個ノ記號ニヨリテ、其ノ上下ノ同名音ハ悉皆變化セラルベキモノトス。
- (カ) 今一度4ヲ歌ヘ。(Do. Re. Mi. Fa. Sol. La. Si. Do 及ビ Do. Si. La. Sol. Fa) 次ニ5ヲ歌ヘ。(Do. Re. Mi.....) 次ニ6ヲ歌ヘ。最初ノ音ノ階名ハ何カ。

- (カ) 今一度4ヲ歌ヘ。Sol. La. Si. Do. Re. Mi. ♯Fa (半音上ゲテ) Sol. 次ニSolヲDoニ言ヒ換ヘテ.....Do. Re. Mi. Fa. Sol. La. Si.....Do! 最初ノ如クシテ下行ヲ歌ヘ。Sol. ♯Fa. Mi. Re. Do..... (SolヲDoニ言ヒ換ヘテ).....Do. Si. La. Sol. Fa.
- (コ) 次ニ5ヲ歌ヘ。最初ノ音符ノ階名ハ何カ。(Do) 然リ半音ノ位置ト其ノ調子トニ能ク注意シツ、歌ヘ。之ハ何調ナリヤ。(ト調)
- (ク) 次ニ6ヲ歌ヘ。

(注意)

- (一) 音階圖ト對照シツ、説明シ生徒ヲシテ其全音半音ノ印象ヲ確實ナラシムベシ。
- (二) 上述ノ如ク説明ナリシ全級生徒ガ悉ク了解スルニ至ルマテ之ヲ反覆シ或ハ方法手段ヲ種々ニ變ヘテ懇切ニ教授スベシ。

ト 調 音 階 構 成

八 七 (生 徒 用 四 五)

花 賣 女

♩ = 132.

花
賣
女

サ コ シ エ ハ ク ラ ガ ギ カ キ モ ノ ラ タ ハ ヤ キ ヲ ナ サ キ シ カ シ ク ニ コ キ ナ サ コ シ タ ゲ ズ チ ル テ ニ テ

ヤ チ マ タ ナ チ コ チ ハ ナ ヨ ヤ
ヤ チ マ タ ナ チ コ チ ハ ナ ヨ ヤ

ハ ナ ヨ ト ヨ ビ ク ル チ ト メ ズ アー ハー レ
ハ ナ ヨ ト ヨ ビ ク ル チ ト メ ズ アー ハー レ

八八(生徒用四六)

花 賣 女

一 基本教練

1. 聲音練習母音.

コノ各音ニテオ列(オ.コ.ソ.ト.ノ.ホ.モ.ヨ.ロ.ラー)ヲ練習ス.

Sol.....Do

[注意] 六小節ノ終リノ SolヲDo ト歌ヒ變ヘ次小節ノト調ノ音階ヲ歌ハシムベシ.

二 教授摘要

1. 「さける」ノ詞ヲ附シタル十六分音符ハ恰モスタツカッ(圓點)ノ心持チニ輕ク歌ハシムルヲ可トス.
2. 「をちこち」ノ「を」ノ字ヲ嵌メタル音符ハ弱聲部ナレバ弱ク發聲セシメ、「ち」ノ字ヲ嵌メタル音符ハ強聲部ノトコロナレバ、充分ニアクセントヲ附セシムルヲ要ス.
3. 最終ノ「あはれ」ハスラーヲ附シタル如ク圓滑ニ歌ヒ如何ニモ「あはれ」ナル感情ヲ發現セシムルコト肝要ナリトス.
4. 其他十六分音符ノ連續ハ皆生徒ノ口形即チ下唇ノ開閉ヲ敏活ニ運動セシムルコトニ注意シ、強聲部、中強部ニハ皆アクセントヲ附シ他ハ輕ク且ツ鮮明ニ恰モ玉ノ轉々トシテ轉ブガ如ク歌ハシメ、固ク平タキ聲ニナラザル様特ニ注意スルコトヲ要ス.

花
賣
女

八九(生徒用四六)

谷間の流

山口 重樹

一、しぐれを誘へる 山あらしに

もみぢ葉ちりこむ 谷間のながれ

岩かむ水の音 さやかにきこゆ

二、みよみよ谷間を ながるゝ水を

野を過ぎ里経て 千尋の海の

逆まく浪となり 雲をも衝くよ

語 釋(第一章)

「しぐれ」ハ時雨、秋冬ノ頃度々降ル雨。
「さやかに聞ゆ」ハツキリト聞エテアルトイフノ意。

大意

時雨ヲ誘フテ來テ降ラス山ノ嵐ニ、紅葉ガ散リ込ム谷間ノ流、ソノ水ノ音が、岩ニ嚙ミ付クヤウニアツツテ、ハツキリト聞エテイル。實ニ心地ガヨイコトデアル。

語 釋(第二章)

「千尋の海」唯深イ海トイフノ意。

大意

見ヨ見ヨ谷間ヲ流レル水ヲ。ソノ水ハイクツモ野ヲ過ぎ里経テ、果テハ深イ海ノ逆巻程ノ大浪トナツテ、雲ヲ衝クヤウニナルノデアル。

〔附言〕

少事モ讀レバ大事トナル。日々ノ勉強モ積レバ終ニ立派ナル人トナル。困難ナル事ニテモ境マズ風セズ務ムレバ何事テモ終ニハ成効スルモノデアル等ノ事ヲ説話シテ則戒スベシ。

花賣女

犬童 球溪

一、さ枝もたわゝに咲ける

小萩の花籠さげて

やちまたをちこち

花よや 花よこ

呼び来る少女子 あはれ

二、聞くからやさしき聲に

白菊黄菊をもちて

やちまたをちこち

花よや 花よこ

呼びゆく少女子 あはれ

語 釋

「さ枝」ノミハ枝頭語ニテ意味ナシ。唯枝ノコト。

「たわゝに」トハ揺ム程ニノ意。即チ枝モ揺ム程ニ。

「小萩」ノ小モ枝頭語。

「やちまた」ハ街ト書キテ、道ノ諸方ヘ分レテアル處。

「ちこち」遠近ノコト、アチラコチラニ同シ。

大意(第一章)

枝モ揺ム程ニ咲イテアル萩ノ花籠提ガテ、諸方ヘ分レテアル道ノアチラコチラチ、花ヲ召セ花ヲ召セト賣リ歩リク若イ娘子、愛ラシク不感ニ感セラレル。

大意(第二章)

聞クニツイテモ優シキ聲ニ、白菊黄菊ヲ持ツテ、諸方ヘ分レテアル道ノアチラコチラチ花ヲ召セ花ヲ召セト賣リアリク。小サナ娘子、愛ラシク不感ニ感セラレル。

〔附言〕

同情ノ念ヲ喚起シ。其レト同時ニ此ノ不感ナル少女子ニ比較スルト自分等ハ幸福ナルモノデアル、一生懸命ニ勉強セバナラヌト云フ感念ヲ與フルコト肝要ナルベシ。

♩ = 112

谷間の流

シ グ レ ナ サ ー シー ヘ ル
み よ み よ た ー に ま な

ヤ マ ア ラー シ ニ モ ミ ダ ハ ナ リー コ △
な が る ー る み づ な の な す き さ ー さ ー へ て

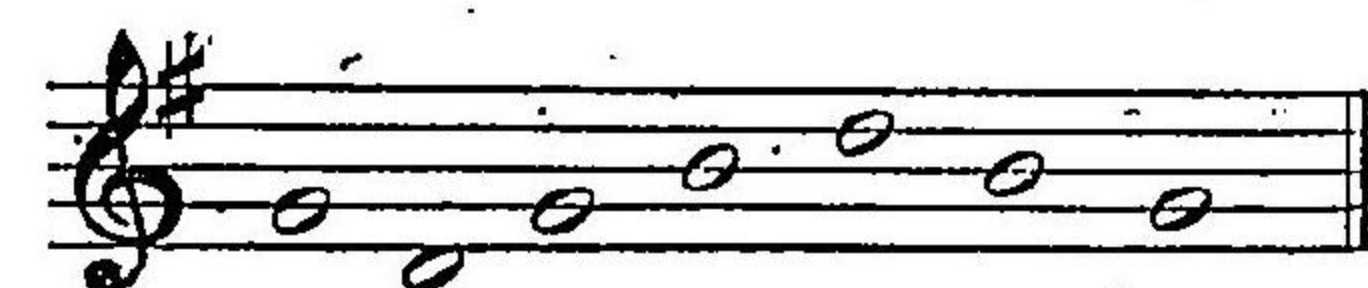
タ ニ マ ノ ナ ガ レ イ ハ カ ム ミ ヅ ノ カ ト ノ
ち ひ る の う み の さ ま ま な み さ な り て

サ ヤ カ ニ キ コ ニ
く し な し つ く よ

谷間の流

一. 基本教練

1. 聲音練習—母音及ウ列 (ウ, ク, ス, ツ, ヌー, フ, ム, ユ, ル, 干—)



2. 音階練習—六八頁。
3. 音程練習—六〇頁及七一頁。

二. 教授摘要

1. 本曲ハ音域狭ケレバ最初ハハ調若クハニ調トシテ歌ハシメ、稍々熟練スルニ從ヒテ變ホ調へ調ニ移調シ、後ト調ニ進ムベシ。之ハ練習上ニ有益ナル方法ナリト信ズ。
2. 調子、拍子ヲ誤ラズシテ歌ヒ得ルニ至レバ其ノ發想記號ニ注意セシメ且ツ記號ヲ附セザルトコロニ於テ自然的ニアクセントヲ附スベキ個所アリ。注意シテ範唱スベシ。

三. 發想記號 (其ノ二)……生徒用五〇頁。

pp (Pianissimo)	最モ弱ク。
p (Piano)	弱ク。
mp (Mezzo. Piano)	中庸ノ弱サニ。

此ノ發想記號ヲ教授シタル後ア音ニテ四〇頁ノ發聲曲ヲ練習スベシ。此ノ際今教ヘタル發想記號ヲ該曲ニ附シテ其用法ヲ了解セシムベシ。

教授摘要



一、發聲練習
タル後發聲練習又ハ
歌曲ニ應用セシムベ
シ。

從來吾輩が採り來リシ
順序、方法等ヲ詳細ニ
記載セシハ、教授者ヲシ
テ此ノ儘チ實行セシメ
ントノ意ニアラズシテ
單ニ音聲ノ實際ニ經驗
セシトコロヲ參考ニ俟
セシノミ、而シテ音聲
ノ今後採ルベキ方法ハ
概チ推知サレタルケ
レバ必要事項ノ外ハ詳
細ニ記載スルコトヲ著
スベシ。教授者ハ任意
ニ適當ナル方法ヲ撰ビ
且ツ其順序ヲ充分ニ熟
考シテ課スベシ。

子守歌

山口重樹

一、ねむれ ねむれ 歌をきよて
玉のごとき をさな兒よ
いましが 夢路に
ひらり ひらり 蝶やまはむ

二、ねむれ ねむれ 歌をきよて
花のごとき をさな兒よ
いましが 夢路に
ちらり ちらり 花やちらむ

三、ねむれ ねむれ 歌をきよて
愛にみてる をさな兒よ
いましが 夢路に
花やちらむ 蝶やまはむ

語釋

「玉のごときなな兒」玉ノヤウナ美シイ子ト云フ様ナ意。
「いましが 御前、汝ト云フニ同シ。
「愛にみてる」愛ノタツプリトアルノ意、可愛ラシキコト。

大意(第一章)

眠リナサイ、眠リナサイ。守リ歌ヲ聞イテ、玉ノヤウナ美シイ子サナ兒。御前ガミル夢ノ中ニハ、ヒラリヒラリト、蝶ヤガ舞フテアリマセウ。

大意(第二章)

子チチシナサイ、子チチシナサイ。守リ歌ヲ聞イテ、花ノヤウナ美シイ可愛兒ヨ子チチシナサイ。子チシメラバ御前ノ見ル夢ノ中ニハチラリト、花ガ散ルデアリマセウ。

大意(第三章)

眠リナサイ、守歌ヲ聞イテ、子チチシナサイ、愛ノタツプリトアル愛ラシイ愛ラシイ子サナ兒ヨ、子チシテ御前ガ見ル夢ニハ花ガチラリト散ルデアリマセウ。蝶ヤガヒラリト舞フデアリマセウ。此様ナ可愛イ夢チ見ルコトデアリマセウ。

子守歌

♩ = 69. pp

ねむれ ねむれ うた ちーきーき だて だまの こと せき
ねむれ ねむれ うた ちーきーき だて だまの こと せき

mp

チサ ナーゴーヨ イ マシーガ ムーメ サニ
な さ なーごーよ い ましーが むーめ さに
チサ ナーゴーヨ イ マシーガ ムーメ サに

pp

ヒラリ ヒラリ テフヤ マーハーン
ちらり ちらり はなや ちーらん
ハナヤ チラン テフヤ マーハーン

子守歌

九四(生徒用五〇)

♩ = 80. 六つの花

六つの花

九六(生徒用五三)

發想記號 (其の三)

mf (Mezzo Forte) 中庸の強さに。
 f (Forte) 強く。
 ff (Fortissimo) 最も弱く。

發想記號、六つの花

教授摘要

一、發想記號(其の三)ヲ教授シタル後四〇頁ノ發聲曲ノ各音チアニテ歌ハシメテハ記號ヲ交互ニ附シテ實際ニ練習シ又新教材ニ之ヲ應用セシムベシ。
 二、前時間ニ教授セシ弱聲ニ屬スル發想記號ヲ復習シ之ト關連シテ新記號ト比較シ其強弱ノ割合ヲ知ラシメンガタメニ兩方ヲ交々練習スベシ。

六つの花

大和田建樹

一、ひらひら 散りくる 白雪に見るみる 枯木も 花さきて

櫻のさかりか

こばかりに

をちこち 美し

今日のながめ

二、咲かせや さかせや 六つの花

松にも 杉にも 白砂に

白金敷きたる

野邊みれば

さながら月すむ

夜半のけしき

九七(生徒用五三)

語釋 (第一章)

「こばかり」ハト思フ計リニノ意。

大意

ヒラ／＼ト散ツテ來ル白雪、見テ居ル中ニ、冬ノ枯木ニ白ク積ツテ、櫻ノ花ノサカリカト思フ計リニ、アチラモ、コチラモ美シクナツタ。實ニ奇麗ナ今日ノ詠メテアル。

語釋 (第二章)

「咲かせや」降レヤ積レヤノ意。
 「六つの花」雪ノ異名、其形六出ナレバ六出花トモ云フ。
 「白砂」眞白ニノ意。
 「さながら」丁度ナリ。
 「夜半」ノ半ハ輕ク唯夜ト見テヨロシ。

大意

降り積ツテ花ヲ咲カシタ様ニ松ニモ杉ニモ眞白ニ降り積レ。銀チ敷イダヤワナ野ノアタリチ見ルト丁度月ノヨク澄ミ渡ツタ夜ノ景色ノヤツテ誠ニ美イ景色テアル。

秋の宮

♩ = 72.

楽譜 (Vocal and Piano parts) with lyrics:

おほほ しみよもひな さが ぐさきののみ そ
 のふのさかり 1 { ニチウヤ } フトふち ツセつよ キフつぶ ニルにる
 2 { ヲチウヤ } フトふち ツセつよ キフつぶ ニルにる

ミアみあ エキエき マノまの ガミがみ フヤふや シタしが ラフらし キトギー クキくき ヨーよー メトめぞ デコでー タロたる

秋の宮

全上 (生徒用譜)

楽譜 (Simplified version for students) with lyrics:

おほほ しみよもひな さが ぐさきののみ そ
 のふのさかり 1 { ニチウヤ } フトふち ツセつよ キフつぶ ニルにる
 2 { ヲチウヤ } フトふち ツセつよ キフつぶ ニルにる

ミアみあ エキエき マノまの ガミがみ フヤふや シタしが ラフらし キトギー クキくき ヨーよー メトめぞ デコでー タロたる

九八(生徒用五四)

連結線

連結線は連 (Slur)

コノ記號ハ度ヲ異ニセル音符ニ附スルモノナリ。而シテコロナ符シタル音符ハ圓滑ニ歌フベキコトヲ示スモノナリ。

連結線、秋の宮

教授摘要

- 一、本曲ハ調子拍子ヲ教ヘタル後ニ連結線ヲ附スルヲ可トス。
- 二、連結線ニツキテ既明チナシタル後從來練習セシ二度及三度ノ音程ヲ復習シ且ツ之レニスラ一ニテ發聲セシムベシ。
- 三、連結線ヲ附スルガ爲メニ音符ノ時間ヲ遲延シ或ハ一種ノ節ヲ附スルナドノ弊チ生ズルコトアリ。教授者ハ此處ニ注意スベシ。
- 四、結合線(或ハ帶ト稱スル)弧線モコノ連結線ト同形ナリ。結合線ニツキテハ既ニ三三頁(生徒用一九頁)説明セシチテ茲ニ於テ之ニツイテ發問スベシ。

秋の宮

鳥居 枕

一、大御代も 久方の 御園生の光
 夕月に 見えまがふ
 白菊よめでた
 秋の宮 たふさきころ

二、大御代も 長月の 御園生の盛
 長庚に 見えまがふ
 白菊よめでた
 秋の宮 かしこきころ

ちこそ経る

九九(生徒用五五)

語釋(第一章)

「久方」(愛トカ日トカ月トカノ冠辭、即チ飾リ詞ナルガ、唯光ト云フ詞ニ掛クルコトモアリ。コトモソレニテ下ノ光ニ掛クルナリ。

「御園生」御庭ノコト。

「秋の宮」皇后陛下ノオハシマス御所チ申シ奉ル。

「見えまがふ」見マチガフ、見誤ルノ意。

大意

大御代モ久シク變ラヌ御庭ノ光、夕月カト見マチガフ程ノ白菊、實ニメデアイコトデアアル。千歳(少年モ、少年モ)經タ皇后陛下ノ御所、マコトニオソレ多イ尊イ、オトコロデアアル。

語釋(第二章)

「長月」舊曆九月ノ異名。

「長庚」夕庚トモ書キテ星ノ名、即チ宵ノ明星チ云フ。

大意

大御代モ長ク變ラヌ九月ノ御庭ノ(菊ノ)盛リ、宵ノ明星ニ見エマガフ白菊、マコトニメデアイコトデアアル。八千代(少年モ、少年モ)モ經タ皇后陛下ノ御所、マコトニオソレ多イ尊イオトコロデアアル。

〔設問〕

- (1) #ノ(之ノ記號ヲ塗板ニ即シテ)名稱ハ何カ。(嬰記號或ハシヤープ)
- (2) #ハ如何ナル働キヲナスカ。(半音高メル)
- (3) ♭ハ何カ(本位記號或ハナチユラル)

臨時記號 (其ノ二)

1. ♭記號ヲ變(Flat)ト稱シ。コノ記號ヲ附シタル音符ハ半音下ゲテ奏唱スルモノトス。
2. ♯本位記號ハリ記號ニヨリテ下ゲラシタル音ヲ元ノ位置ニ還ス記號ナリ。
3. ♭記號モ#記號ト同様一小節内ノ同音ニ有効ナリト知ルベシ。

〔参考〕 ♭ロノ歌ヒ方ハ本邦略譜ハ(子)。(トニツク。ソール。フアー式及ハラー氏ハSe(セー)ト唱へ。専門的ニハSi(シー)ヲ其儘用ヒテ聲ニ半音ノ差ヲ生セシム。

ハ調音階構成

附調子記號

Do ¹	Fa ¹ ^ハ
Si	Mi ^ホ
La	Re ¹ ^ニ
Sol ¹	Do ¹ ^ハ
Fa [♭]	Si ^ロ
Mi	La ^イ
Re	Sol ^ト
Do	Fa ^ハ
Si ₁	Mi ^ホ
La ₁	Re ^ニ
Sol ₁	Do ^ハ

ハ調
ハ調

- (イ) 1ノ譜表ニ記サレタル音階ハ何調ナリヤ。(ハ調)今之ヲ歌へ。
- (ロ) 1ノ譜表ニ於ケル半音ハ何處ナリヤ。(第三音ト第四音。及ビ第七音ト第八音)
- (ハ) 2ノ譜表ニツキテ半音ノ場所ヲ云へ。(第四音ト第五音及ビ第七音ト第八音)
- (ニ) 1ノ譜表ト2ノ譜表トヲ比較シテ異ナル點ヲ云へ。(1ノ譜表ハ第三音ト第四音トノ間ハ半音。2ノ譜表ハ第四音ト第五音トノ間ガ半音ナリ。
- (ホ) 2ヲ1ト同形ニナスニハ如何ニスベキカ。(第四音ニリ記號ヲ附ス)然ルトキハ第四音ト第五音トノ半音程ハ全音程トナリ。第三音ト第四音トノ全音程ハ半音程トナリテ全ク1ト同形トナル)
- (ヘ) 然リ。3ノ譜表ヲ見ヨ。半音ノ場所ハ1ト同ジクナレリ。今之ヲ歌へ。…… Fa. Sol. La. ♭ Si. Do……
- (ト) 4ノ上行ヲ歌へ。次ニ下行ヲ唱へ。

- (チ) ♭記號モ#記號ト同ジク臨時記號若クハ變化記號トシテ使用スルノミナラズ。調子記號トシテモ用フ。即チ5.6ノ兩譜表ノ如シ。
- (リ) 3ノ譜表ト5ノ譜表トハ全ク同ジ。唯3ハリヲ臨時記號トシテ用ヒ。5ハ之ヲ調子記號トシテ用ヒタルノ差違アルノミ。
- (ヌ) 6ノ譜表ニツキテ半音ノ所在ニ注意セヨ。コノ譜表上ノDoハ何處ナリヤ。
- (ル) 第一間ノ音名ハ何カ。(ハ音)5ノ譜表ヲ今一度歌へ。
- (ヲ) 5及6ハ何調ナリト思フカ。(ハ調)

〔注意〕 音階圖ト對照シツ、說明シ生徒ヲシテ其全音半音ノ印象ヲ深カラシメンコトニ務ムベシ。

日曜日

♩ = 112

mp

ノニガ ニヤニユニカ シハニナ ナトニリニニ
 リニガ ニヤニユニカ シハニナ ナトニリニニ

mp

ハニリ ニヤニユニカ シカニイ ナホニリニニ
 ハニリ ニヤニユニカ シカニイ ナホニリニニ

mf

マナシ ヌダ シチ ケキ フた ノレ ヤい スミニキ トた きれ
 マナシ ヌダ シチ ケキ フた ノレ ヤい スミニキ トた きれ

mf

ウタ のシ ヤカ げ せふ モの クあ モモイの テに ズは
 ウタ のシ ヤカ げ せふ モの クあ モモイの テに ズは

f *mp* *f* *mp*

一〇二(生徒用五八)

Fa Do

日曜日

教授摘要

一、始メテト調ニ移リタル時ノ歌曲「花賣女」ト同様ノ方ヲ以テ教授ス。

日曜日

大和田建樹

一、野邊にや行かん
 花を取りに
 濱にや行かん
 貝を堀りに
 待ち得し今日の
 休みの時
 うれしや風も
 雲も出でず
 二、理科にて讀みし
 草を尋ね
 地理にて聞きし
 海を望む
 友だち來れ
 妹きたれ
 たのしや今日の
 遊びの庭

語釋

「野邊にや行かん」及「濱にや行かん」ハ行キマセウカ、行キマセウト、一度思案シテ、後ニ決定スル意ナリ。

大意(第一章)

花ヲ取りニ野邊ニ行カウカ、行カウカ。貝ヲ拾ヒニ海邊ニ行カウカ、行カウカ。待ち得タ今日ノ休ミノ時、辯シイコトデアアル。風モ吹カズ、雨ヲ降ラズ雲モ出ナイ。天氣ノ都合モヨロシイ。

大意(第二章)

理科ヲ讀ンダ草ヲ尋ネ、(植物採集ノコト)地理ヲ聞イタ海ヲ實際ニ詠メル。友達方モ亦出テナサイ。妹モ亦出テナサイ。マコトニ樂シイコトデアアル。今日ノ遊びノ庭。今日此處ニ皆ト遊ビニ來タノハ實ニ愉快デア

一〇三(生徒用五九)

梅

♩ = 66. 梅

ミに ユキーフリ ッた る アキ サノーイー ド

ソ テーソカ ナ れ ウ メノーハ ナ

ルニーサキ ダ ツ ヒ トエーダ ノ

キタ ヨキーガ タ ソ ア フガールー ル

か きーみ さ な ぞ あ ふがーるー る

一〇四(生徒用六〇)

梅

♩ = 66. 梅

ミに ユキーフリ ッた る アキ サノーイー ド

ソ テーソカ ナ れ ウ メノーハ ナ

ルニーサキ ダ ツ ヒ トエーダ ノ

キタ ヨキーガ タ ソ ア フガールー ル

か きーみ さ な ぞ あ ふがーるー る

一〇五(生徒用六〇)

教授摘要

一、本曲ニ於ケル八分音符、十六分音符ハ凡テ騒ク強音的(スツカカトノ様)ニ歌ハシムベシ。

二、各小節ノ強部ニアクセントヲ確實ニ附スベシ。

愛 國

大和田建樹

一、東の海の 波の上に
うかべる國は 我日の本
萬國無比の 其國體
御血筋絶えず 千代に八千代

二、雲井に秀づ 富士の高嶺
縁を湛ふ 琵琶の湖水
吉野の花に 須磨の月に
世界に稀の わが風景

三、幸おほき 國に生れ
めぐみ上なき 君に仕ふ
臥しては思ひ 起きては思ひ
忘るな常に 君と國を

大意(第一章)

東洋ノ波ノ上ニ浮イタヤウニ立ツテアル國ハ、我が日本ナル。シテ萬ノ國ニ比シテ、ソノ國體ナル。コノメテタキ國ヲ治メ給フ天皇陛下ハ、恐レ多クモ天照皇大神ノ御血統ヲ受テ繼ギ給フテ何千年立ツテモ何萬年立ツテモ皇統ハ絶エズ續クノテアル誠ニメテタイコトナル。

語釋(第二章)

「縁を湛ふ」水が深クテ青キト見エルト。

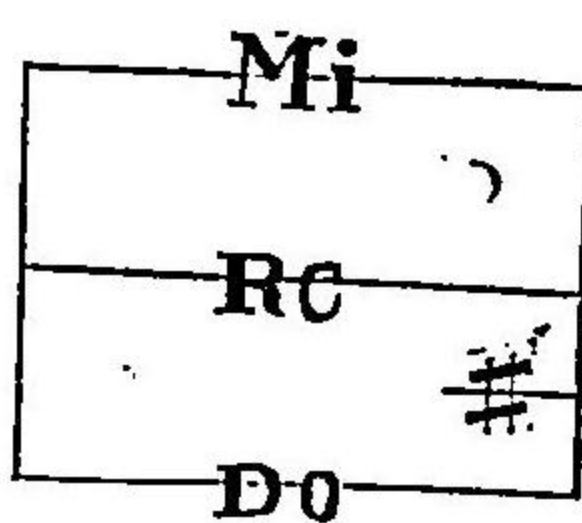
大意

空ニ高ク立ツテアル富士ノ高嶺、水が深クテ青キト見エルト。近江ノ湖水、又吉野山ノ花(櫻ノ花ノ意)須磨ノ月、何レモ世界ニ稀ナ我が國ノヨイ風景ナル、コンナヨイ國ハドコニモナイ。

大意(第三章)

吾々ハコノヤウナ幸ノ多イ國ニ生レ、下ヤチ惡ミ給フコト、コノ上モナイ君ニ仕ヘ申シテ居ル。陛下モ起キテモ御恩ヲ思ヒ、常ニ君ト國トノコトヲ志レテハナラン、ソシテ自分ノ日々ノ務メチ一生懸命ニヤラチバナラヌ。

教授摘要



各音ノ音程ヲ質問ス、(F#及B)カニヨツテ生ズル音程ノ變化ノ具合ヲ了解セシメントヲ要ス。

〔注意〕
1 Doノ歌ヒ方ハ略譜ニテハ(ト)トニツク、ソール(ト)トニツクハDi(テイ)ハラー氏ハDa(ダ)専門的ニハDoヲ其備用フ
2 コノ臨時記號ハ轉調ニアラズシテ唯旋律ニ輕キ變化ヲ與ヘタルニ過ギズ。

梅

大桑いよ子

一、み雪ふりつむ 朝の窓
袖こそかをれ 梅の花
春に先だつ 一枝の
清き姿ぞ 仰がる

二、にほひみちたる ささらぎの
空こそかすめ 梅の花
さかり久しき 古枝の
高き操ぞ 仰がる

大意(第一章)

雪が降り積ル朝ノ窓、ソコニ居ル自分ノ袖ニ梅が香ガ滲ル、何トモ云ヒ得ラレメ清イ心持チニナル。サテコノ春ニ魁ケテ咲ケ一枝ノ清イ姿ガ、マコトニ尊イ、ア、ユカシイ梅ナル。

語釋(第二章)

「ささらぎ」舊曆二月ノ異名。衣更替ト書ク、コノ月猶寒クシテ、衣チ更ニ着重子ル義ナリ。

大意

「操」ハ身ヲ義ニテ、身チ眞直ニ守ツテ、イツマテモ變ラヌ意。コ、ハ梅ノサカリ久シキチ譽メタルナリ。

二月ノ空ガ梅ガ香ヲ交ツテ霞ム。サテ盛リ久シイ、コノ梅ノ古枝ノ氣高イ身柄ノヨイ操ガ實ニ尊イコトナル。

〔附言〕

之ノ歌詞ノ間意外ニ幾多ノ教訓ヲ與フルコトヲ得ベシト雖モ之ノ歌詞ノミニテ充分ニ眞善美ヲ感受セシムルコト肝要ナリ。

愛
國

♩ = 88.

愛 國

ヒクサ ガモイ シおハ ノにヒ ウひオ ミいホ ノツキ ナーふク ミじニ ノのニ ウーだーウー

ニレレ ウみメ カミガ ベリミ ルをツ クたへ ニたナ ハふキ マーギキ ガわミ ヒのニ ノーニツ モーサー カー トイフ パンよし

コクムヒノソノコクターイニミチスザタへズチ
のハオヒな一にすオのクのガオモ一ヒ一セロカスルナツネニわキ

ヨニヤチヨ
ガフウケイ
ミトクニチ

一〇八(生徒用六二)

送
別の歌

♩ = 66.

送 別 の 歌

アミア サバハ ナレレ エイヤ フクガ ナミト ニセモ オヘミ コたチ マテシ ラなヘ ズクノ ツむミ

トつチ メビチ ハハマ ガハモ ミシリ ソニチ ノのり イたエ サもツ チミル ケわか

フカツ アラン ハンハ レとナ テのソ カいソ ツまノ ラなカ パしチ ナきリ タなヨ

チニ一リイ エワタ マレカ シヤク メいハ テカナ タにテ サセカ ヨんシ

一〇九(生徒用六四)

のどけき春

佐々木信綱

一、花にあけゆく 空はうららに
 袖に吹きくる 風ののどけき
 遊ばむ 野へに
 遊ばむ 山に
 たのしき春の 今日ひまじ日
 のどけき春の 今日ひまじ日
 二、霞める空に 友呼ぶ雲雀
 花咲く野べに まひまふ胡蝶
 たのしき 遊び
 うれしき 遊び
 歸さの土産に 花つまむ
 たのしき うれし
 母への土産に 花つまむ

語釋(第一章)

「花にあけゆく」花が咲いて居る夜が奇麗に
 明クルノ意。
 「うららに」ハラハラと云フニ同ジ意。
 盛リモ無ク静カナルサマ。

大意

花が咲いて居る朝、奇麗な夜が明けたケル
 空ハ盛リモ無ク静カデアツテ、袖ニ吹イテ
 來ル風モ亦ノドカデアアル。サア野邊ニ遊ビ
 マセウ、サア山ニ遊ビマセウ。樂シイ春ノ
 今日一日、野邊ニ山ベニ遊ビマセウ。

語釋(第二章)

「歸さ」歸リガケノ途ト云フコト。
 「つまむ」ハミヤゲンコト。

大意

霞ンテ居ル空ニ友ヲ呼ブ雲雀、花咲ク野ベ
 ニ舞ヒ遊ブ胡蝶、樂シイ遊ビ、忘シイ遊ビ。
 歸リガケノ途ノ土産ニ花摘ミマセウ。樂シ
 イ、嬉シイコトデアアル。母上様ヘ土産ニ花
 ナ摘ミテ歸リマセウ。

送別の歌

大桑いよ子

一、朝な夕なに おこたらず
 勉め勵みし そのいさを
 今日あらはれて 桂花
 手折り得ましよ めでたさよ」
 二、さはれいくこせ へだてなく
 睦びかはしよ このたもこ
 わかたんここの いさをしき
 なごりをわれや いかにせん」
 三、あはれ我が友 み 教の
 道をまもりて 折りえつる
 桂のはなの そのかをり
 世にいやたかく はなてかし」

語釋(第一章)

「朝な夕な」三ツノなハ接尾語ニテ意味ナシ
 唯朝夕ノコト、心得ベシ。

大意

姉君方ハ朝夕ニ忘ラズ勉強ナサレタ其ノ功
 今日アラハレテ學校ヲ卒業シテ其ノ證書ヲ
 得ラレタコトハ實ニメデアイコトデアアル。

語釋(第二章)

「さはれ」ハサモアラバアルノ異語ニシテサ
 バレト濁音ニスルヲヨシトス。併シ普通ニ
 ハサハレトナセルモノ多キガ故ニコレニ從
 コス。

大意

サウハ云フモノ、幾年モ姉君方トモ隔テ無
 ウ仲ヨウシテ導イテ下シタコノ秋、別ツコ
 トガ誠ニ惜シイコトデアアル。自分ハコノ別
 レチドノヤウニセウ。ア、。

語釋(第三章)

「あはれ」詠歌語ニシテ嗚呼ト同ジ。ドウソ
 ト歎願スル意。

大意

ドウソ我が友、姉君ダチヨ、先生方ノ御教ヲ
 守ツテ學校ヲ卒業サレタ、ソノ名譽ヲ、世
 ニイヨク高ク輝カスヤウニシテ下サイ。

♩ = 88. *mf* のどけき春

ハソナニアフケユクルソラハカノララニ
 かなすにふるきのくらにかさしよよぶひはばてサリふ

アソバシンノベニタノシキハルノ
 あたのしんあまそへびかへさのつみに

ケフヒートーヒンノベニヤマニ
 はなつーまーんたのしやれし

ノドケキハルノケフヒートーヒン
 はばへののっさんになつーまーん

樂典總括

第一章 音名. 音階. 階名. 音程.

- 一. 音樂上に用ふる音の数は極めて多しと雖も性質の異なるものは唯七音のみにして全くその七音を反覆重用せるものに外ならず。
- 二. 音は(イロハ)歌の首句の七文字を以て下の如く配列して其の名稱とす。之を音名と云ふ。

ハニホヘトイロ (教用一頁. 生用一頁参照)

- 三. 此の七音の順次正しく繼續したるものを名づけて音階といふ。
- 四. 此の音階の階段を唱ふるために附したる名を階名と稱し之に二種の唱法あり。

1 2 3 4 5 6 7 i.
 Do Re Mi Fa Sol La Si Do¹.

- 五. 此の七音は何れも其高度の異なりたるものにして其中距離の廣きと狭きとあり。其の廣きものを全音程(或は一音)といひ狭きものを半音程(或は半音)といふ。

全音程 { (音名) ハニニ ホヘト トイイロ.
 (階名) { 1-2. 2-3. 4-5. 5-6. 6-7.
 Do-Re. Re-Mi. Fa-Sol. Sol-La. La-Si.

半音程 { (音名) ホヘ. ロハ.
 (階名) { 3-4. 7-i.
 Mi-Fa. Si-Do¹.

第二章 音符

- 六. 音の長短を表はす記號を音符といふ。
- 七. 音符に普通音符(單純音符)と附點音符との二種あり。(教用三. 四頁. 生用二. 三頁参照)

第三章 休止符 (或は點符)

- 八. 聲音を歇止すべき個處并に其の長さを表はす記號を休止符と稱す。(教用五頁 生用三頁参照)
- 九. 音符に附點音符あるが如く休止符にも亦附點休止符あり。而して其

時間は附點音符の場合と同様なり。

第四章 譜表。音部記號。

- 一〇. 記されたる音符の位置によりて音の高低を知るに用ふるものを譜表といふ。(教用六頁、生用四頁参照)
- 一一. 譜表は五線の并行横線を用ひ其の線と間とを使用す。
- 一二. 譜表は下より上に數へ。第一線、第一間、第二線、第二間といふが如く順次に數ふるものとす。而して其の線或は間を一度といふ。故に譜表は九度の位置を有するものなり。
- 一三. 譜表外に猶聲音を要するときは加線と稱する短線を記して其音符の位置を増設するものとす。
- 一四. 其の増設したる位置の名稱は譜表を中心として其上のものは下方より上方に數へて上一間、上一線、上二間、上二線等といひ又下のものは上方より下方に數へて下一間、下一線、下二間、下二線等といふ。
- 一五. 譜表上に七音の位置を定むるには譜表の首端に音部記號と稱するものを記す。
- 一六. 音部記號に二種あり。(教用七頁、生用五頁参照)
(附言) 此の他に中音部記號(ハ字記號) H と稱するものあれども普通に其用なければ本書には之を略す。
- 一七. 高音部記號はト音の位置を示すものなるが故に一名ト字記號といふ。
高音部記號は譜表の第二線に記す。即ち第二線はト音の位置なることを示す。
高音部記號を記したる譜表は之を高音部譜表といふ。
- 一八. 第二線ト音の位置定まれば其他の音名を其の上下に配記して其位置を定むることを得。(教用七頁、生用五頁参照)
- 一九. 低音部記號はヘ音の位置を示すものなるが故に一名ヘ字記號といふ。
低音部記號は譜表の第四線に記す。而して其記されたる第四線はヘ音の位置なり。
低音部記號を記したる譜表は之を低音部譜表と名づく。

- 二〇. 第四線がヘ音の位置なること定まりたれば其他の音を其上下に配記し其位置を定む。(教用七頁、生用五頁参照)
- 二一. 高低兩音部譜表を重ね弧線と縦線とを以て結合したるものを大譜表といふ。(同上参照)

第五章 臨時記號

- 二二. 樂曲の進行中臨時に聲音を半音上げ或は下ぐる爲めに用ひらるゝ記號を臨時記號或は變化記號と稱す。これに三種あり。
#嬰記號(シャープ)半音上げる記號(教用七八頁、生用三八頁参照)
b變記號(フラット)半音下ぐる記號(教用一〇〇頁、生用五六頁参照)
♮本位記號(ナチュラル)嬰變によりて上下されたる音を原の位置に復せしむる記號なり(教用七八頁、生用三八頁参照)
- 二三. 臨時記號の効力は一小節内の同音にのみ及ぶものとす。(教用七八頁、生用三八頁参照)

第六章 拍子

- 二四. 音の強弱を區別せんがために縦線を以て樂曲を等一なる拍數の小部分に分つ。此の小部分を名づけて小節といふ。(教用八頁、生用六頁参照)
- 二五. 複縦線は樂曲の段落或は結尾に用ふるものなり。
- 二六. 縦線の右にある音符は常に強聲にして左にある音符は常に弱聲なりとす。
- 二七. 一樂曲中の強弱の部分を定め其存在を明かにしたるものを拍子といひ一見して之を判明ならしむるために樂曲の最首の音部記號及び調子記號(ハ調は調子記號なし)の次位に一の記號を記す之を拍子記號と名づく。(教用九頁、生用六頁参照)
- 二八. 拍子記號は主に分數形を以て之を表す。
- 二九. 分母の數字は其の一拍に數ふる音符の種類を表はす。例へば $\frac{3}{4}$ の拍子の場合其分母4は四分音符を一拍に數ふべきことを表はしたるものなり。分子の數字は一小節内の拍數を示す。例へば $\frac{3}{4}$ の拍子の場合其分子3は一小節を二拍に數ふべきことを表はす。
- 三〇. 普通用ふる拍子には二拍子、四拍子及三拍子六拍子などあり。

三一. 樂曲の小節には完全。未完の二種あり。(教用四九頁、生用二二頁参照)

三二. 完全小節は小節の強聲部より起る。

三三. 未完小節は小節の弱聲部より起る。

第七章 音階

三四. 音階に長音階。短音階の二種あり。

長音階は第三音と第四音及第七音と第八音との間に半音を有するものなり。(教用三三頁、生用一八頁参照)

短音階は他日學ぶべき時を待ちて説明すべし。

三五. 本學年中本書に就て學びたる樂曲は皆長音階になれるもののみなり。

三六. ハ音を Do としたる長音階をハ調長音階といふ。即ち音名を以て調子の名(單に調名ともいふ)となせるなり。(教用八六頁、生用四四頁参照)

三七. 而して音階の第一音即ち Do の音は其の音階の最も主要なる音なるを以て。これを主音と稱す。

三八. ♯音を Do として長音階を組み立つるに。ハ調長音階と同形ならざる個處(即ハ音)あり。その音に嬰記號を附して半音上ぐる時はハ調と同じ形となるべし。その嬰記號を音部記號の次位第五線に記して♯調の調子記號(單に調號)となす。

三九. ♭音を Do として長音階を組み立つるにはハ調長音階と同形ならざる個處(即口音)あり。その音に變記號を附して半音下ぐるときはハ調と同じ形となるべし。

其變記號を音部記號の次位第三線に置きてハ調長音階の調子記號となす。(教用一〇一頁、生用五七頁参照)

四〇. 樂曲の中途に臨時記號を附して臨時に他の調子に轉することあり。これを轉調と稱す。(教用八五頁、生用四二頁参照)

第八章 音程

四一. 音程とは或る二音間の距離をいひ二音間に含有する全音半音の多少によりて種々の音程をなすなり。

其の中本書に於て學べるものゝみを次に記さん。

二度音程 { 長二度・全音程(即一音)
短二度・半音程(即半音) (教用五九頁、生用二八頁参照)

三度音程 { 長二度・(二全音)
短二度・(一全音半) (教用七〇頁、生用三四頁参照)

第九章 發想記號

四二. 樂曲の趣味を助けて感動の度を益々深からしめんがために樂曲に種々の記號を附す。これ等の記號を總稱して發想記號と名づく。

pp. p. mp. mf. f. ff. (教用九三頁、生用五〇頁参照)
(教用九七頁、生用五二頁)



四三. こは強弱に関する發想記號を示せるものにして猶ほ曲想に関する記號あれども今は必要なければ略す。

雜記號

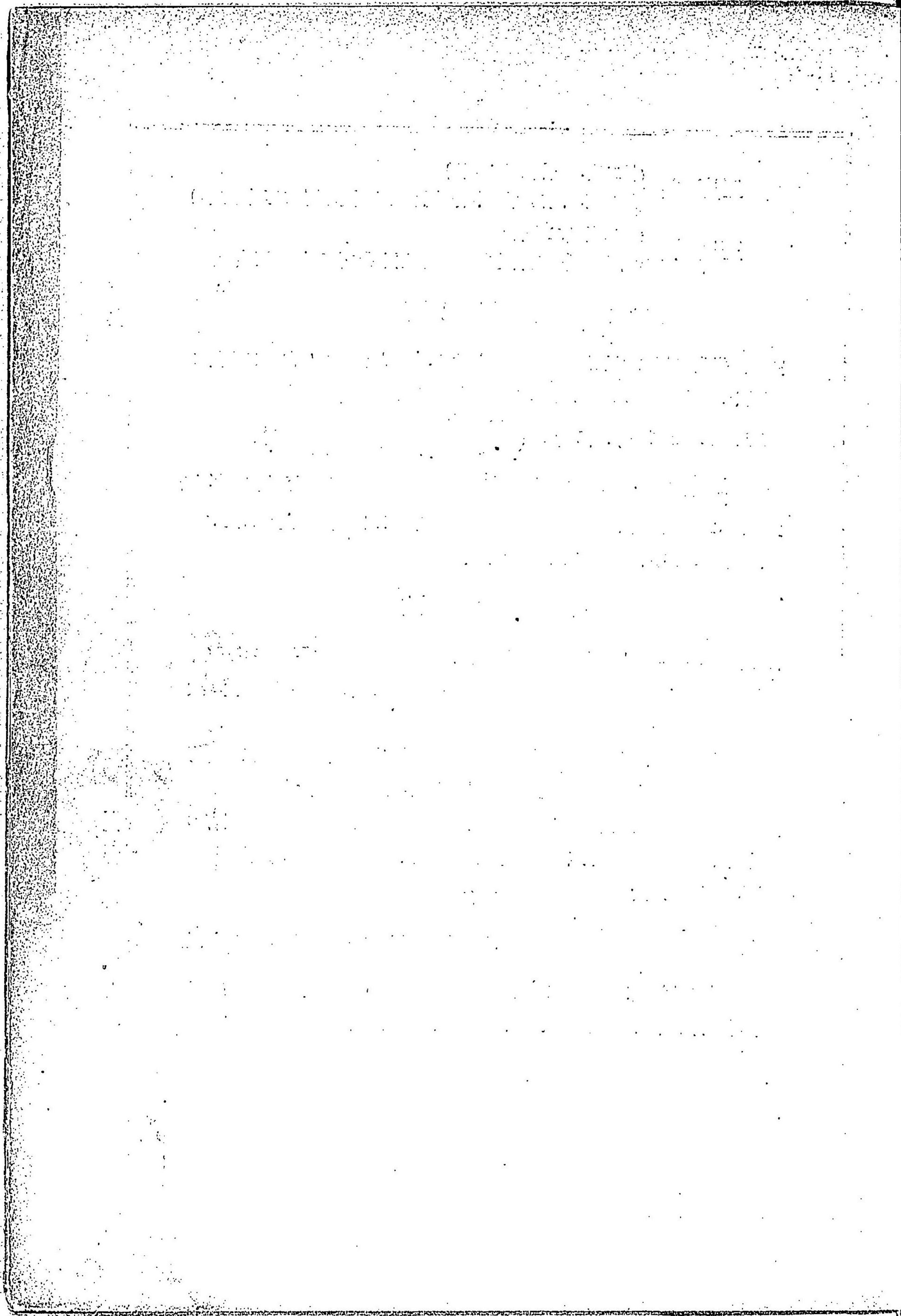
四四. 同音度に附したる弧線は之を結合線(或は帶)と稱し。結ばれたる音符の時間だけ聲を持続すべきを示す。(教用三三頁、生用一九頁参照)

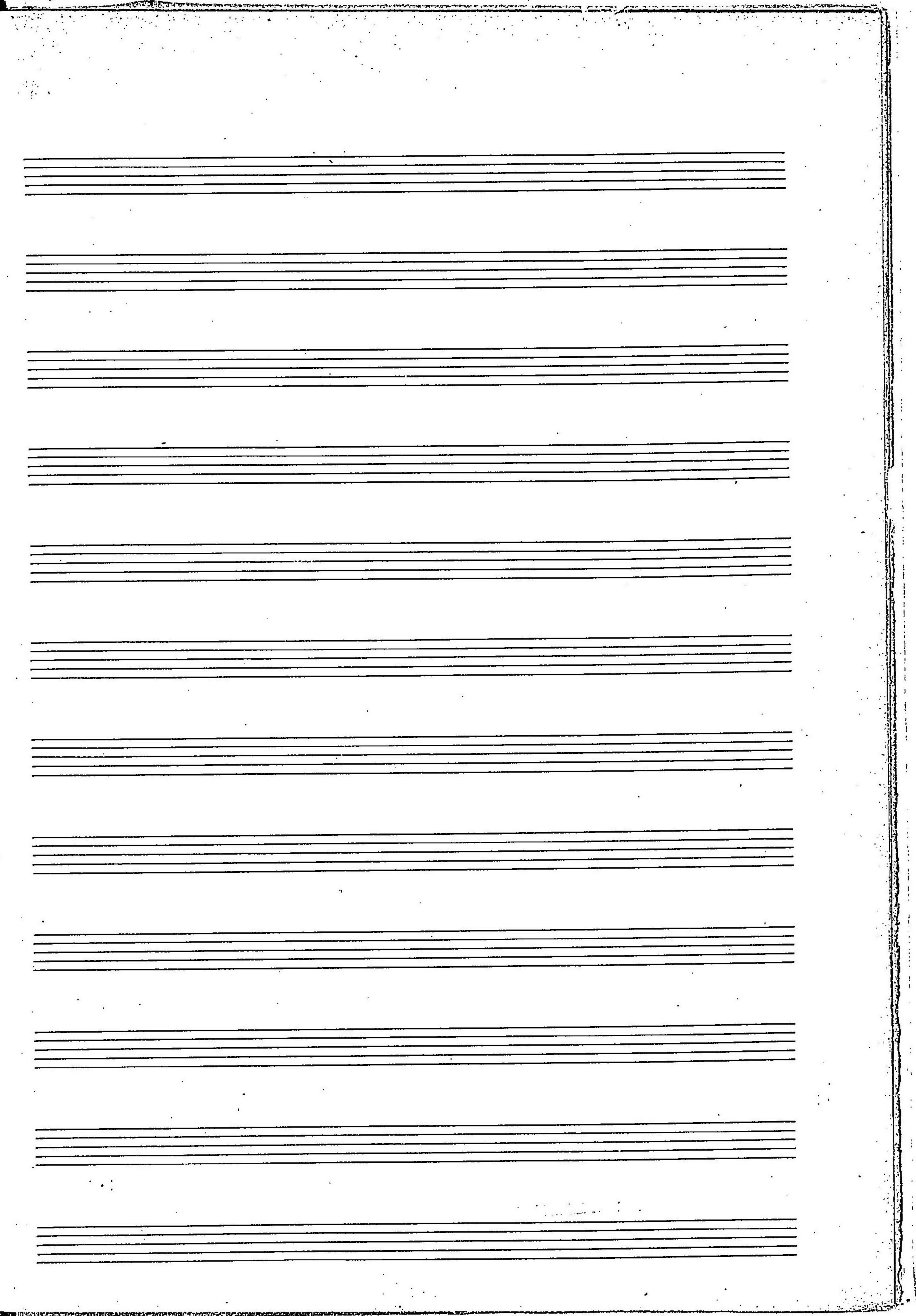
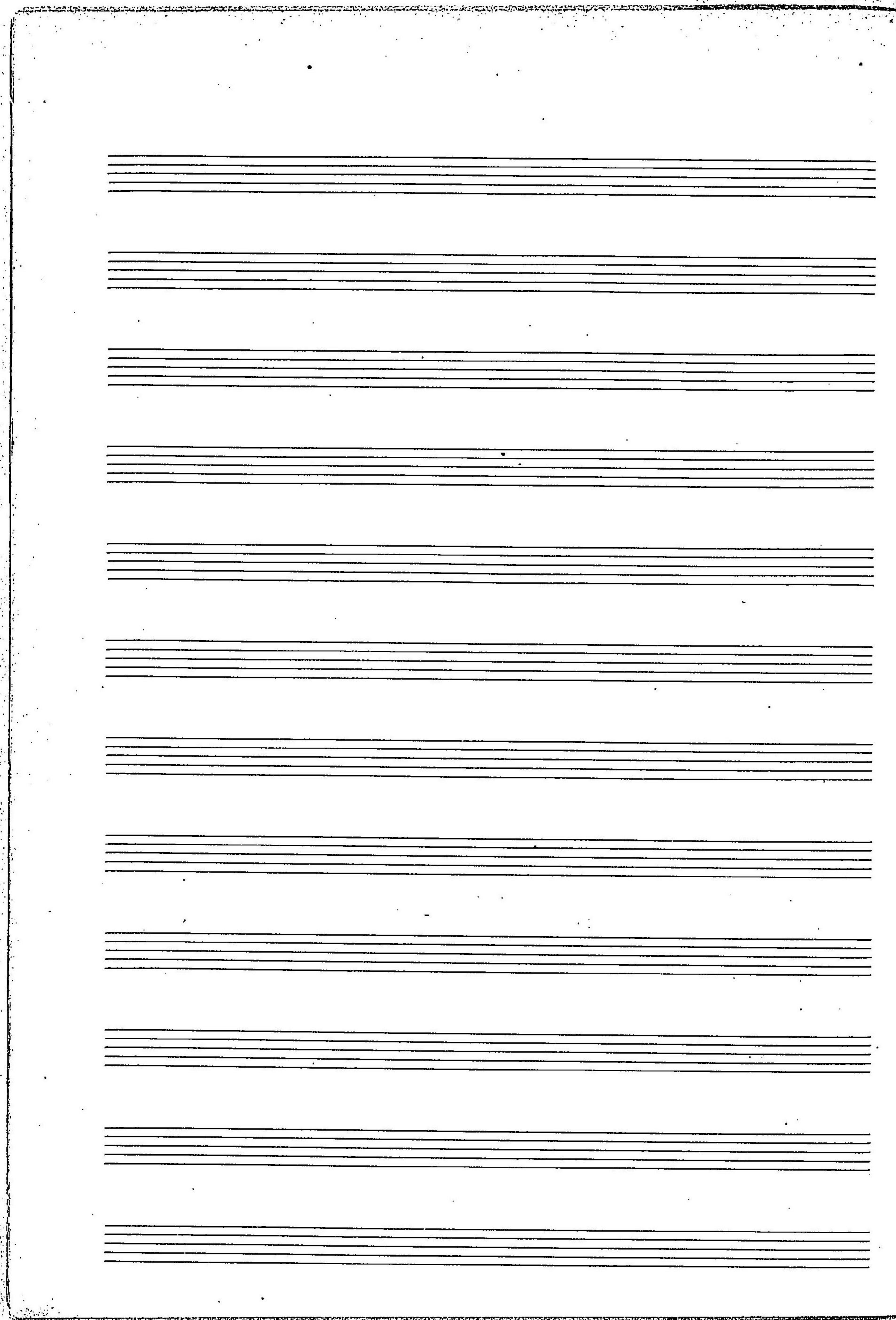
異音度に附したる弧線は之を連結線(或は連)と稱し。結ばれたる音符を圓滑に唱ふることを示す。(教用九九頁、生用五四頁参照)

四五. ♯延長記號 固有の時間を其曲に應じて適宜に延長す。(即固有の時間より約二倍三倍若くは四倍位まで其時に應じて延長す)(教用三三頁、生用一八頁参照)

四六. 大體に於て同一なりと雖も終りの一部分最初と異なる場合に折の如く記して初には(1)の部を唱へ二回目には(2)の部を唱ふ。(教用八一頁、生用四〇頁参照)

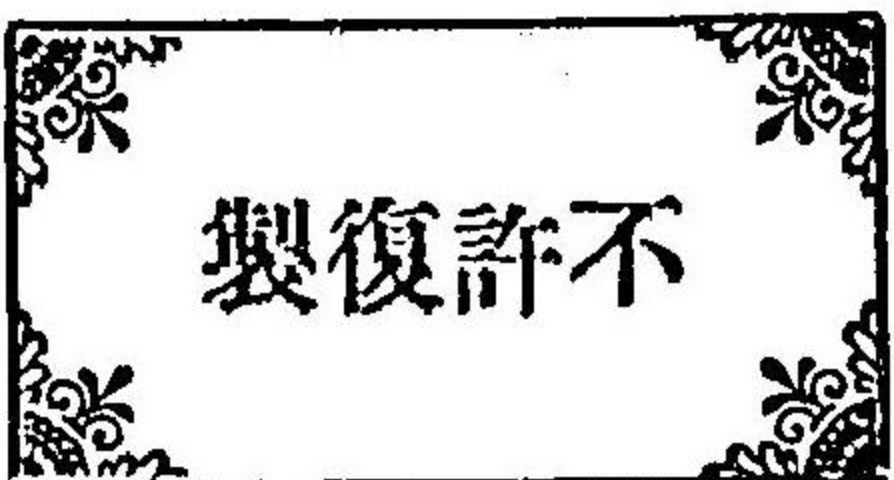
(終り)



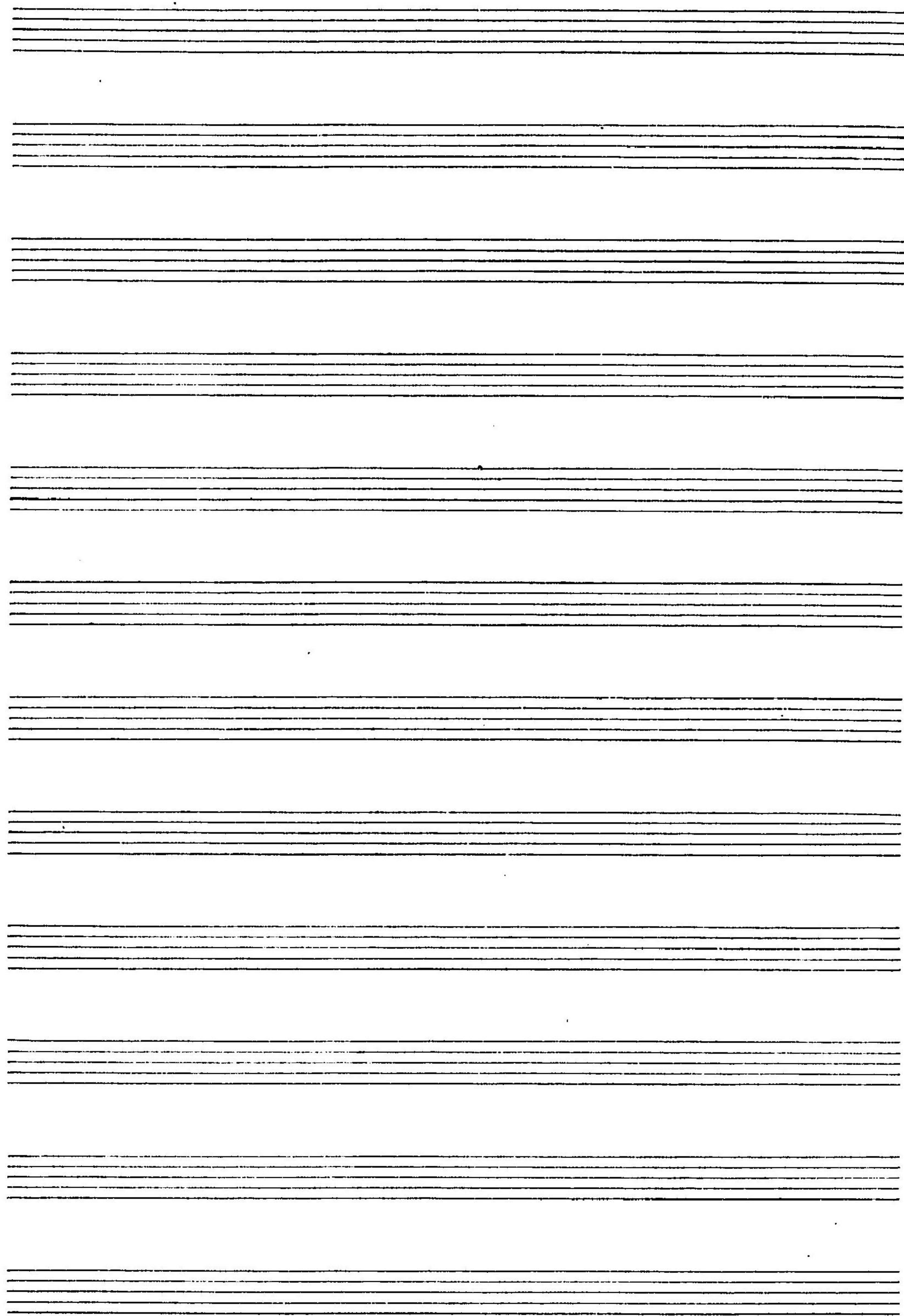


明治四十四年一月十五日印刷
明治四十四年一月廿五日發行

女子音樂教科書教師用卷一
定價金壹圓貳拾錢

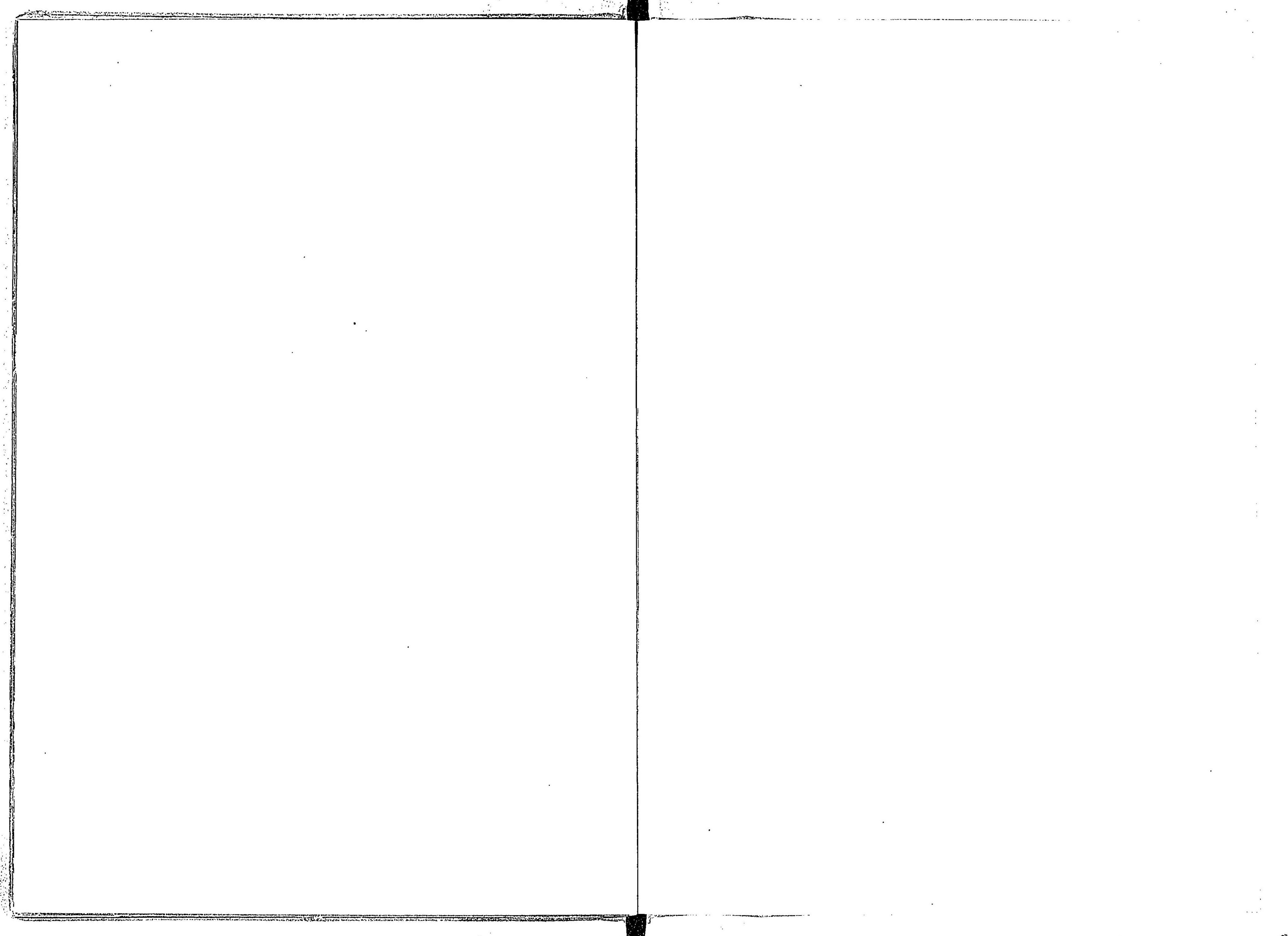


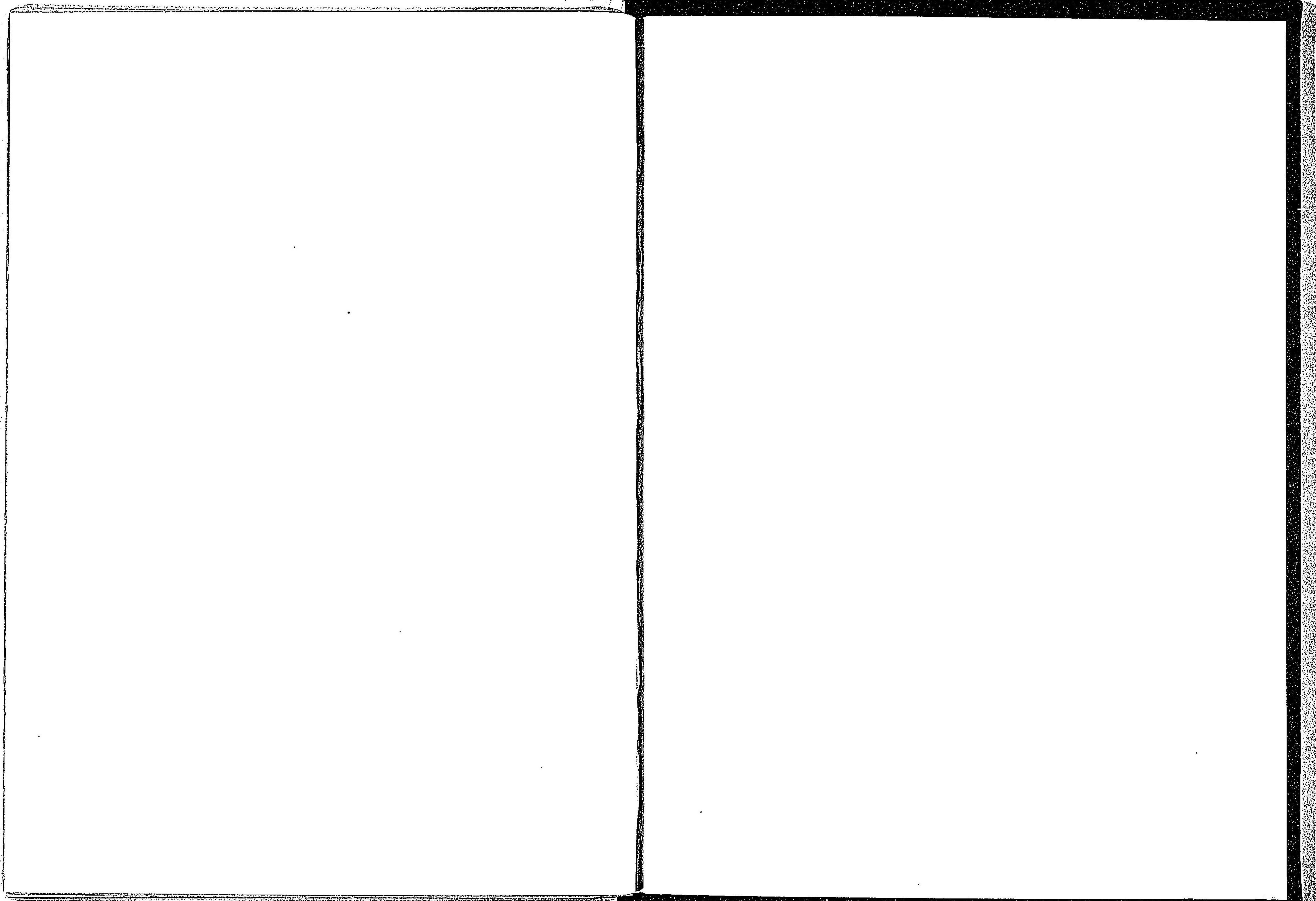
編纂者 永井幸次
編纂者 田中銀之助
發行者 三木佐助
大坂市東區北久寶寺町四丁目百六番屋敷
印刷者 菅間徳次郎
神戶市元町二丁目二十四番屋敷
印刷所 福音印刷會社神戶支店
大坂市心齋橋通北久寶寺町角
發賣所 大阪開成館
振替貯金大阪七九番



5874E

607-7





337
9

072682-001-2

337-9

女子音楽教科書 教師用 卷之1, 3

永井 幸次

田中 銀之助 / 編

M44

CEH-0200



